

2026年度

体育学部便覧



国士舘大学

体育学部

体育学科

武道学科

スポーツ医科学科

こどもスポーツ教育学科

国士館館歌

柴田徳次郎 作詞
東儀鉄笛 作曲

一、霧わけ昇る 陽を仰ぎ
梢に高き 月を浴び
皇国に殉す 大丈夫の
ここ武蔵野の 国士館

一、松陰の祠に 節を磨し
豪徳の鐘 気を澄ます
朝な夕なに つく呼吸は
富嶽嵐の 天の風

一、区々現身の 粗薪に
大覚の火を 打ち点し
三世十方 焼き尽す
至心の焰 あふらばや
至心の焰 あふらばや

柴田徳次郎 作詩
東儀鉄笛 作曲
石川太郎 編曲

国士館館歌

The musical score is written on four staves. The first staff begins with a tempo marking of quarter note = 114. The second staff includes a dynamic marking of *mf*. The lyrics are written below the notes.

きりわけ のぼる ひをあおぎ
こずえに たかき つきをあび みくにに ゆるす
ますらお の ここむさ しのの こくしかん

国士館の建学の精神

「物質文明」を統御する「精神教育」を重視し、「心身の修練」と「知徳の精進向上」を目指し、国家社会の将来を思い、世界の平和と国家社会の改革向上に貢献する人材、即ち「国を思い、世のため、人のために尽くせる人材『国士』の養成」を目指す。

国士館の教育理念

「国士」養成のため、

四徳目「誠意・勤労・見識・気魄」を兼ね備える教育を行う。

「誠意」とは、真心と慈悲の心で、世のため、人のために尽くすこと

「勤労」とは、向上心を持って、誠実に仕事をする事

「見識」とは、道理のもと、物事を見抜く力をもつこと

「気魄」とは、信念と責任を持って強い心でやり通す力のこと

国士館の教育指針

四徳目を備えるには、

不断の「読書・体験・反省」を実践し「思索」すること。

「読書」とは、善き書物に学び、世の中や自然界の真を理解すること

「体験」とは、智恵を持って善悪を判断し、善なる判断を実行すること

「反省」とは、何事も行った後、その行為を省みること

「思索」とは、省みた内容を検討し、決なる目標を立案すること

目 次

国士館の建学の精神・教育理念・教育指針	1
体育学部便覧	5
体育学部の教育理念と目的等について	6
体育学部の3つのポリシー	7
履修時間割表・出席管理表	8

■ 体育学科

体育学科の教育研究上の目的・教育方針	18
体育学科の3つのポリシー	19
体育学科課程要項	
Ⅰ. 学 位	21
Ⅱ. カリキュラム設定の趣旨	21
Ⅲ. 科目構成	21
1. 授業科目の構成と卒業所要単位	21
2. 履修上限単位数	21
3. 履修編成	21
4. 体育学科 履修科目一覧表	22
Ⅳ. 履修内容	24
1. 共通教育科目	24
2. 外国語科目	26
3. 学部基礎科目	27
4. 学科基礎教育科目	27
5. 体育専門教育科目	28
6. 専修教育科目	30
7. 関連教育科目	31
8. 随意科目	34
Ⅴ. 卒業後の方向	34

■ 武道学科

武道学科の教育研究上の目的・教育方針	36
武道学科の3つのポリシー	37
武道学科課程要項	
Ⅰ. 学 位	39
Ⅱ. カリキュラム設定の趣旨	39
Ⅲ. 科目構成	39
1. 授業科目の構成と卒業所要単位	39
2. 履修上限単位数	39
3. 履修編成	39
4. 武道学科 履修科目一覧表	40

Ⅳ. 履修内容	42
1. 共通教育科目	42
2. 外国語科目	44
3. 学部基礎科目	45
4. 学科基礎教育科目	46
5. 体育専門教育科目	47
6. 専修教育科目	48
7. 関連教育科目	49
8. 随意科目	49
Ⅴ. 卒業後の方向	49

■ スポーツ医科学科

スポーツ医科学科の教育研究上の目的・教育方針	52
スポーツ医科学科の3つのポリシー	53
スポーツ医科学科課程要項	
Ⅰ. 学 位	55
Ⅱ. カリキュラム設定の趣旨	55
Ⅲ. 科目構成	55
1. 授業科目の構成と卒業所要単位	55
2. 履修上限単位数	55
3. 履修編成	55
4. スポーツ医科学科 履修科目一覧表	56
Ⅳ. 履修内容	58
1. 共通教育科目	58
2. 外国語科目	60
3. 学部基礎科目	61
4. 学科基礎教育科目	61
5. 専修教育科目	62
6. 体育専門教育科目	63
7. 関連教育科目	64
8. 随意科目	64
Ⅴ. 卒業後の方向	64

■ こどもスポーツ教育学科

こどもスポーツ教育学科の教育研究上の目的・教育方針	66
こどもスポーツ教育学科の3つのポリシー	67

こどもスポーツ教育学科課程要項

I. 学 位	69
II. カリキュラム設定の趣旨	69
III. 科目構成	69
1. 授業科目の構成と卒業所要単位	69
2. 履修上限単位数	69
3. 履修編成	69
4. こどもスポーツ教育学科 履修科目一覧表	70
IV. 履修内容	72
1. 共通教育科目	72
2. 外国語科目	74
3. 学部基礎科目	75
4. 学科基礎教育科目	75
5. 体育専門教育科目	76
6. 専修教育科目	77
7. 関連教育科目	77
8. 随意科目	78
V. 卒業後の方向	78
VI. こどもスポーツ教育学科教育実習 及び介護等体験参加条件	78

■単位・履修登録・授業・試験等について

I. 単位について	80
II. 履修登録について	80
1. 履修登録の手順	80
2. 履修登録上の注意	80
3. 履修登録の辞退について	80
4. 履修登録本人控	81
5. 他学部・他学科への履修要領	81
III. 授業について	82
1. 授業時間	82
2. 出席	82
3. 欠席	82
4. 公欠	82
5. 遅刻・早退	83
6. 見学	83
7. 服装・用具	83
8. 伝達方法	84
IV. 試験について	84
1. 試験	84
2. 評価について	85
V. GPA 制度について	85
VI. 科目ナンバリング・カリキュラムマトリクスについて	87
VII. 副専攻について	87

■各種資格取得要項

I. 教員免許状	90
II. 救急救命士	90
III. 公益財団法人日本レクリエーション協会公認指導者資格	92
IV. 公益財団法人健康・体力づくり事業財団公認資格	92
V. NSCA認定資格	93
VI. 一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会認定資格	93
VII. 公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者	94
VIII. 防災士	95
IX. 国土交通省管理団体資格 UAS LEVEL2	95
■ 資格取得のために必要な科目一覧	96
X. 首都圏西部大学単位互換制度	97
XI. 世田谷6大学コンソーシアム連携授業	97

■学生生活関係

I. 学生生活関係施設窓口一覧	100
II. 学生ポータルサイト「Kaede-i」および 講義支援システム「manaba」について	101
III. 学籍と学費	102

■学則・諸規程他

国土館大学学則・諸規程	104
-------------	-----

■キャンパスマップ・教室案内

I. 多摩キャンパスマップ	106
II. 多摩キャンパス教室案内	107
III. 町田キャンパスマップ	115
IV. 町田キャンパス教室案内	116
V. 各キャンパスアクセスマップ	120

体育学部便覧

この便覧は、本学部に入學してから、卒業するまでの在籍期間中に修得しなければならない取得単位、並びに、卒業所要単位について表記したものである。

本学部では、社会の多様化を踏まえながら時代のニーズに対応するため、これまでにカリキュラムの改正を数回行った。

学生は、当該入学年次に合わせた本便覧を熟読し、4年間で履修すべき各コース並びに履修科目、諸資格取得科目などをよく理解し科目履修の手引きとしてこの便覧を利用すること。

また、履修を計画する上で大切な、シラバス（授業計画書）と併せて活用していただきたい。

なお、後半部分には、国土館大学学則・諸規程等も掲載されており学生諸君にとっては極めて重要なものである。

卒業までの、4年間の修学の指針として大切に保管し、利用・活用されることを切に願うものである。

※本便覧は2026年3月1日現在の情報に基づくものであり、変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。

体育学部の教育理念と目的等について

国土舘大学の設置目的は、学則第1条が示す「教育基本法及び学校教育法にしたがい、建学の精神に則り、学術の中心として、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、歴史と伝統をたつとび、心身を錬磨し、誠意・勤労・見識・気魄の徳性を養い、もって道義日本を建設し人類の福祉に貢献する有為の人材を養成すること」としている。

本学の教育理念は、寄附行為第3条の示す「……聖人至徳を志し、不断の読書、体験、反省により、誠意・勤労・見識・気魄を涵養し、もって道義日本を建設し、世界の平和と進運とに貢献する有為の人材を養成……」を柱として、「建学の精神」が示すところの「国を思い、世のため、人のために尽くせる人材」、すなわち「国土」を養成することであり、高度な人間育成と国際的に活躍できる人材養成を主眼とした理念である。

体育学部は、このような弾力性に富んだ崇高なる教育理念に基づいて、学部の教育理念を次のとおり定める。

体育・スポーツ・武道の学芸を学び、より広い専門知識や高い技能を修得させ、体育・スポーツ・武道文化の発展と学術の研究活動推進につとめ、豊かな心身の育成と錬磨をはかる文武両道教育を進める。また、社会の変化に的確に対応し、健康で豊かな生活環境を阻害するスポーツ障害や疾病をはじめ、各種の事故・災害に対処する高度な救急医療体制の充実・発展に寄与し、人間の幸福や生活の基本である健康・体力の保持増進を推進する役割を担い、健康で明るく豊かな社会の創造者として活躍できる人材や国際社会に貢献できる人材の育成をはかる。

体育学部の3つのポリシー

◆ 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

体育学部では、将来、スポーツや教育、さらには救急医療の分野に進みたいと願う情熱と協調性に富んだ学生を受け入れます。

また、このような入学者を適正に判定するために、体育学科・武道学科・スポーツ医科学科・こどもスポーツ教育学科のそれぞれにおいて、学科ごとに掲げる観点から、多様な方法による入学者選抜を実施します。なお、一般選抜では、筆記試験に加え基本的運動技能についての実技試験（一部の学科においては運動能力証明書の審査）を実施します。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

体育学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げる能力や態度を身に付けるために教育課程を編成し、それらの系統的な履修によって教育目的を達成します。

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

体育学部は、大学の卒業認定の方針に加えて、体育学の素養を備え、所定の課程を経て所定の単位を修め、必修科目履修等の条件を満たすことで、学部および学科が求める次の資質・能力を有しているとして、卒業を認定し、体育学科およびこどもスポーツ教育学科では学士（体育学）、武道学科では学士（武道学）、スポーツ医科学科では学士（スポーツ医科学）の学位を授与します。

体 育 学 科

体育学科の教育研究上の目的・教育方針	18
体育学科の3つのポリシー	19
体育学科課程要項	
I. 学 位	21
II. カリキュラム設定の趣旨	21
III. 科目構成	21
1. 授業科目の構成と卒業所要単位	21
2. 履修上限単位数	21
3. 履修編成	21
4. 体育学科 履修科目一覧表	22
IV. 履修内容	24
1. 共通教育科目	24
2. 外国語科目	26
3. 学部基礎科目	27
4. 学科基礎教育科目	27
5. 体育専門教育科目	28
6. 専修教育科目	30
7. 関連教育科目	31
8. 随意科目	34
V. 卒業後の方向	34

体育学科の教育研究上の目的

現在、スポーツの大衆化・多様化・生活化が進み、個々のライフスタイルにおいて「楽しむ文化」としての体育・スポーツ、「健康で生きがいのある生活」のためのスポーツへと、社会の要請と期待が高まっている。一方、オリンピックや世界選手権等を頂点とする競技スポーツは、技術・戦術とも高度化し、高い科学性に基づいたトレーニングやコーチング等を必要としている。

このような社会のニーズに呼応すべく、基礎科目と専門科目のバランスを維持し、専門分野の教授・研究をさらに深めると共に、基礎科目との融合を図り、体育・スポーツの実践と理論的指導ができる人材の育成を目指している。

また、体育・スポーツの意義や役割、共生社会でのあり方、豊かなスポーツライフの探求など、社会のニーズに貢献できる人材が求められており、体育・スポーツ・健康学に関する学問領域を幅広く理解し、個々に応じていずれかの専門分野を深く学修し、将来、有為なる人材としての成長基盤・基礎を培う教育を目指している。

これらのことを踏まえ、本学科では、学校体育・アスリート・スポーツトレーナーの3つのコースを配置し、それぞれの特性を考慮した基礎科目・専門科目のカリキュラムと諸資格取得の教育課程を編成して、学校体育・生涯スポーツ・健康教育などに積極的に貢献できる専門性の高い人材を養成するための教育を行っている。

体育学科の教育方針

本学科に、学校体育・アスリート・スポーツトレーナーの3つのコースを配置し、それぞれの特性を考慮した基礎科目・専門科目のカリキュラムと諸資格取得の教育課程を編成して、学校体育・生涯スポーツ・健康教育などに積極的に貢献できる専門性の高い人材を養成するため次の教育を行う。

1. 自らの専攻コースを選択させ、そのコース特性と専門とする学問領域や資格取得科目を履修して、将来を担う有為なる人材を養成する。
2. 心身共に健康で「心・技・体」の調和のとれた人間性の育成と幅広い教養を養い、科学性を備えた、より高度な知識と技術を体得した人材を養成する。
3. 体育・スポーツの身体活動を通して、規律の遵守、役割の尊重、自他の敬愛、協力精神の育成など人格の完成を目指す。
4. 学校教育の充実、高齢化社会への対応、ライフステージと健康教育、地域スポーツの振興など今日の課題に対処できる専門知識と実践指導力を備えた人材の育成をはかる。
5. 競技スポーツの競技力向上を追求して、各種の対外競技や国際交流を推進するとともに、身体運動学やコーチ学、トレーニング理論などの諸科学を探究して、指導者並びに競技者としての資質向上に努める。

体育学科の3つのポリシー

◆ 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

体育学科では、将来、スポーツ界や教育界の分野に進みたいと願う情熱と協調性に富んだ学生を受け入れます。

また、このような入学者を適正に判定するために、次に掲げる観点から、多様な方法による入学者選抜を実施します。一般選抜では、筆記試験に加え基本的運動技能についての実技試験を実施します。

AP1. [知識・理解・技能]

体育学科の教育を受けるために必要な基礎学力としての知識と、優れた体育実技能力及び体育理論、保健に関する知識を有している。

(AP1-1) 国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語などについて、高等学校などで身に付けるべき標準的な知識を有する。

(AP1-2) 優れた体育実技能力及び体育理論、保健に関する知識を有している。

(AP1-3) 積極的にスポーツ活動に取り組み、優秀な成績を収めるとともに、入学後もスポーツ活動を継続する意欲と卒業条件を達成する強い意志を有している。

AP2. [思考力・判断力・表現力]

体育・スポーツ活動等において、自他の課題を発見、分析するとともに、創意工夫しながら、課題解決を図ろうとする意欲を有している。

AP3. [主体性・多様性・協働性]

授業や実技において、他者と協調して真摯に取り組み、自ら進んで行動する姿勢を有している。

【入学前に身に付けておくべきこと】

1. 国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語などについて、高等学校などで身に付けるべき標準的な知識を有していること。
2. 自ら課題を発見し、論理的に説明できるプレゼンテーション力を補強すること。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 教育課程・内容

(1) 幅広く深い教養と総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、専門分野と調和・発展させることを目的とした「共通教育科目」を設けています。

(2) 「外国語科目」を設け、英語や他の言語を学び、コミュニケーション能力の向上を図ります。また、体育に特化した専門的英語知識を学ぶ科目「スポーツ専門英語」を設置しています。

(3) 「専門科目」では、幅広い分野の教育研究に触れつつ、自らの興味・関心と能力・適性等に基づいて、知識や実践力を修得するために、以下の科目群に分けて体系的に科目を設けています。

①学部基礎科目：体育に関する基本的知識や技術を身に付けるため必修科目として設置しています。また、武道教育として「柔道」と「剣道」のどちらかを選択必修とし、文武両道の実践を体得します。

②学科基礎科目：体育学科として身に付けるべき知識・技能を学修するため必修科目を設けています。

③体育専門教育科目、専修教育科目：体育学を体系的に学ぶために（学べるよう）、コースの特性に応じ

た科目を設けています。学校教育等指導者としての資質を学ぶ「学校体育コース」、競技者・コーチとしての技術を学ぶ「アスリートコース」、スポーツトレーナーとしてのスキルを体得する「スポーツトレーナーコース」の3コースを設けています。

- ④関連教育科目：関連領域を学修し、幅広い知識を身に付けられるように、各コースに関連領域の科目や教職課程に関連した科目を設けています。

2. 教育方法

- (1) 講義や実技、実習等をバランスよく組み合わせて学修成果を高めます。
- (2) 3・4年次の「卒業研究」において、本学科での学習を結実させていくとともに、卒業後の進路を見据えた専門知識・技能の定着を図ります。

3. 学修成果の評価

- (1) 各授業科目については、到達目標や成績評価の基準と具体的評価方法をシラバスに明示して学生に周知したうえで、公正で厳格な成績評価を実施します。
- (2) 学生の4年間の学修成果は、必修の「卒業研究」によって行い、提出された卒業論文・レポートをもとに総合的評価を行います。

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

体育学科は、体育学の素養を備え、所定の課程を経て必要な単位を修め、必修科目履修等の条件を満たすことで、次の資質・能力を有しているとして卒業を認定し、学士（体育学）の学位を授与します。

- DP1. 体育・スポーツに関する専門的かつ実践的知識・技能と社会のリーダーとして活躍するための教養を身に付け、学修成果を状況に応じて誠意を持って活用する力を有している。
- DP2. 修得した体育学の知識・技能をもとに、それらを他者に分かりやすく伝えたり、社会の様々な要請に活用したりすることができる能力を有している。
- DP3. 日進月歩の体育・スポーツに関する知識を学び続けるとともに、自らの技能を不断に磨くことを基盤にしながら、社会の諸問題の解決に積極的に取り組もうとするなど、困難に立ち向かう姿勢を有している。
- DP4. 本学科で学修した知識・技能を生かし、卒業後は、アスリート、保健体育科教員、スポーツ指導者、トレーナーなどとして、各界において他者と協調し、社会に貢献する意欲を有している。

体育学科課程要項

I. 学 位

1. 体育学部体育学科において、4ヵ年以上在学し履修要件を満たし124単位以上を修得したものを卒業とし、学士（体育学）の学位を与える。
2. 学位を取得するには、全期間の単位数（卒業所要単位および科目区分）に従って履修する。
 単位構成は、全学共通教育科目（共通教育科目、外国語科目）、専門科目（学部基礎科目、学科基礎教育科目、体育専門教育科目、専修教育科目、関連教育科目）からなり、年次ごとにそれぞれ修得する。

II. カリキュラム設定の趣旨

本学の教育理念・目的から、わが国はもとより、国際的に貢献できる人材の育成をはかるため、次の様努める。

多様化する社会のニーズに対応したカリキュラム編成と諸資格取得のための教育課程を編成し、個性的で且つ専門性の高い人材を育成する。

教養科目の充実により豊かな人間性を追求するとともに、情報処理能力の向上や言語力の強化をはかる。また、体育・スポーツ科学の国内文化交流や学术交流やスポーツの対外競技や国際交流を積極的に推進し、スポーツ選手・コーチの育成と強化をはかり、わが国スポーツ界の発展に寄与する。

III. 科目構成

1. 授業科目の構成と卒業所要単位

体育学科授業科目の構成と卒業所要単位は以下の表のとおりである。
 2年生から3年生への進級に必要な単位数は50単位とする。

全学共通教育科目		専 門 科 目				
共通教育科目	外国語科目	学部基礎科目	学科基礎教育科目	体育専門教育科目	専修教育科目	関連教育科目
10 単位	4 単位	20単位	15 単位	学校体育コース 19 単位	学校体育コース 24 単位	学校体育コース 32 単位
				アスリートコース 19 単位	アスリートコース 24 単位	アスリートコース 32 単位
				スポーツ トレーナーコース 19 単位	スポーツ トレーナーコース 24 単位	スポーツ トレーナーコース 32 単位
14単位		110 単位				
卒業所要単位 124 単位						

2. 履修上限単位数

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
48 単位	48 単位	48 単位	48 単位

3. 履修編成

体育学科では、2年次より「学校体育コース」「アスリートコース」「スポーツトレーナーコース」に分かれており、おのおの系列的に履修をしなければならない。

4. 体育学科履修科目一覧表

科目区分		必修・選択	履修	
全学共通教育科目	共通教育科目	必修	※AIとサイエンス(2)、国士館を知る(建学の精神と教育理念)(2)	
		選択 (留学生対象)	国士館を語る(継承する精神文化の探究)(2)、国士館ゼミ(1)、防災リーダー養成論(2)、防災リーダー養成論実習(2)、経済のしくみ(2)、アジアの歴史と文化(2)、イスラムの歴史と文化(2)、文化と人間(2)、※日本国憲法(2)、人と宇宙(2)、データエンジニアリング基礎(2)、AI基礎(2)、AI基礎演習(1)、データリテラシー(2)、※コンピュータリテラシー(2)、日本の歩み(2)、日本の自然環境(2)	
外国語科目		必修	※英語1(1)、※英語2(1)	
		選択 (留学生対象)	ドイツ語1(1)、ドイツ語2(1)、中国語1(1)、中国語2(1) [同一言語1・2を2単位以上選択履修する] 日本語リーディング1(1)、日本語リーディング2(1)、日本語ライティング1(1)、日本語ライティング2(1)、時事日本語1(1)、時事日本語2(1)、ビジネス日本語1(1)、ビジネス日本語2(1)、日本語スキルアップ1(1)、	
専門科	学部基礎科目	必修	※体育原理(2)、解剖学(2)、※運動生理学(2)、スポーツ専門英語(2)、《体育方法学・実習》	
		選択	※ダンス(1)、卒業研究1(2)、卒業研究2(2) 《体育方法学・実習》※柔道I(1)、※柔道II(1)、※剣道I(1)、※剣道II(1)	
	学科基礎教育科目	必修	※体育方法学・実習(野外教育)1(1)、※スポーツ社会学(2)、※体力測定・評価(2)、※体育経営管理(2)、※救急処置法実習II(1)	
	体育専門教育科目	学校体育コース		
		必修	スポーツ栄養学(2)、※スポーツバイオメカニクス(2)、コーチ学(2)、トレーニング論・実習I(1)、トレーニング論・実習II(1) 《体育方法学・実習》、※レスリング(1)、※バスケットボール(1)、※ハンドボール(1)、※バレーボール(1)、※サッカー(1)、※ラグビー(1)、※ソフトボール(1)	スポーツ栄養学(2)、 《体育方法学・実習》、※レスリング ※ラグビー(1)、
	コース選択	[4種目4単位選択履修する] 《専門指導法》器械運動(1)、陸上競技(1)、水泳(1)、ダンス(1)、柔道(1)、剣道(1)、バスケットボール(1)、ハンドボール(1)、バレーボール(1)、サッカー(1)、ラグビー(1)、ソフトボール(1)		[4種目4単位選択履修する] 《専門指導法》器械運動(1)、バスケットボール(1)、
		学校体育コース		アスリー
	専修教育科目	必修	アスリート実習1(2)、体育史(2)、教職インターンシップ(2)、学校教育関係法規(2)、体力測定評価実習I(1)、体力測定評価実習II(1)、教職特別講座1(2)、教職特別講座2(2)、教職特別講座3(2)、教職特別講座4(2)、教職特別講座5(2)、教職特別講座6(2)、教職特別講座(野外)(2)	スポーツ医学(2)、健康教育学(2)、スポーツ情報処理論実習II(1)、アスリート実習1(2)、
		選択		[同一名称の講座1～4を4科目 キャリアアップ講座1(2)、キャリアアップ講座3(2)、教職特別講座1(2)、教職特別講座3(2)、
	目	関連教育科目	必修	※教育基礎論(2)、※特別活動の理論と実践(2)、※道德教育の理論と実践(2)、※保健体育科教育論I(2)、※保健体育科教育論II(2)、※教育心理学(2)、※教職論(2)、※生徒・進路指導論(2)、※教育課程論(2)、※保健体育科指導法I(2)、※保健体育科指導法II(2)、※教育相談(2)、※教育方法論(情報通信技術の活用を含む)(2)、※教育行財政(2)、※総合的な学習の時間の指導法(2)、※特別支援教育概論(2)
選択				[教職を履修する学生] ※保健体育科教育論I(2)、※教職論(2)、※生徒・進路指導論(2)、※保健体育科指導法I(2)、※教育相談(2)、※教育方法論(情報通信技術の活用を含む)(2)、※総合的な学習の時間の指導法(2)、[教職を履修しない学生] 運動生理学実習I(1)、スポーツバイオメカニクス実習I(1)、自由選択単位(6)、実践実習I(2)、実践実習4(2)、スポーツパフォーマンス分析論(2)、
任意科目	[レクリエーション・インストラクター資格科目]レクリエーション論(2)、レクリエーション論実習I(1)、レクリエーション論実習II(1)、体育方法学・実習(野外教育)2(1)、			
卒業所要単位	共通教育科目10単位＋外国語科目4単位＋学部基礎科目20単位＋学科基礎教育科目15単位＋体育専門教育科目19/19/19単位			
備考	1. ※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。 2. 卒業研究(1・2)は、シラバスに示す講座のテーマを参照し十分な履修指導のもとに選択履修する。 3. ()内は、単位数を表す。 4. 各種資格取得科目の履修については、便覧で示す科目をそれぞれに応じて選択履修する。			

科目		卒業所要単位数	
		4単位	
社会人基礎スキル(2)、哲学と現代(2)、人間と倫理(2)、人生と教育(2)、からだと心のつながり(2)、日本の文学(2)、数学(多変数関数の微積分)(2)、統計学入門(2)、確率論入門(2)、変動する地球(2)、データサイエンス基礎(2)、ボランティア実践I(1)、ボランティア実践II(1)、ボランティア実践III(1)、ボランティア実践IV(1)、インターンシップ(2)		6単位	10単位
		2単位	
日本語スピーキングI(1)、日本語スピーキング2(1)、 日本語スキルアップ2(1)		2単位	4単位
※体操(集団行動を含む)I(1)、※体操(集団行動を含む)II(1)、※器械運動(1)、※陸上競技(1)、※水泳(1)、 [同一種目I・IIを2単位選択履修する]		18単位	20単位
※スポーツ心理学(2)、※公衆衛生学(2)、※学校保健(2)、※救急処置法実習I(1)、		2単位	
		15単位	15単位
アスリートコース・スポーツトレーナーコース			
※スポーツバイオメカニクス(2)、コーチ学(2) (1)、※バスケットボール(1)、※ハンドボール(1)、※バレーボール(1)、※サッカー(1)、 ※ソフトボール(1)、トレーニング論・実習I(1)、トレーニング論・実習II(1)		学校体育コース 15単位 アスリートコース 15単位 スポーツ トレーナーコース 15単位	学校体育コース 19単位 アスリートコース 19単位
陸上競技(1)、水泳(1)、ダンス(1)、柔道(1)、剣道(1)、レスリング(1)、 ハンドボール(1)、バレーボール(1)、サッカー(1)、ラグビー(1)、ソフトボール(1)		学校体育コース 4単位 アスリートコース 4単位 スポーツ トレーナーコース 4単位	スポーツ トレーナーコース 19単位
トコース			
スポーツ医学(2)、体育・スポーツ行政学(2)、運動処方論(2)、 健康教育学(2)、体力測定評価実習I(1)、体力測定評価実習II(1)、 エアロビクス運動理論・実習I(1)、エアロビクス運動理論・実習II(1)、 スポーツ法学(2)、エクササイズテクニック(2)、アスリート実習I(2)、 アスリート実習2(2)、現場実習1(2)、現場実習2(2)		学校体育コース 24単位 アスリートコース 16単位 スポーツ トレーナーコース 24単位	学校体育コース 24単位 アスリートコース 24単位
8単位選択履修する] キャリアアップ講座2(2)、 キャリアアップ講座4(2) 教職特別講座2(2)、 教職特別講座4(2)		アスリートコース 8単位	スポーツ トレーナーコース 24単位
※教育基礎論(2)、※特別活動の理論と実践(2)、 ※道徳教育の理論と実践(2)、※教育心理学(2)		学校体育コース 32単位 アスリートコース 8単位 スポーツ トレーナーコース 8単位	学校体育コース 32単位
※保健体育科教育論II(2)、 ※教育課程論(2)、 ※保健体育科指導法II(2)、 ※教育行財政(2)、 ※特別支援教育概論(2)		[教職を履修する学生] ※保健体育科教育論I(2)、※保健体育科教育論II(2)、※教職論(2)、 ※生徒・進路指導論(2)、※教育課程論(2)、※保健体育科指導法I(2)、 ※保健体育科指導法II(2)、※教育相談(2)、 ※教育方法論(情報通信技術の活用を含む)(2)、※教育行財政(2)、 ※総合的な学習の時間の指導法(2)、※特別支援教育概論(2)	アスリートコース 32単位
運動生理学実習II(1)、 スポーツバイオメカニクス実習II(1)、 実践実習2(2)、実践実習3(2)、 スポーツメンタルトレーニング論(2)、 テーピング論(2)		[教職を履修しない学生] 運動生理学実習I(1)、運動生理学実習II(1)、 スポーツバイオメカニクス実習I(1)、スポーツバイオメカニクス実習II(1)、 スポーツメンタルトレーニング論(2)、スポーツパフォーマンス分析論(2)、 テーピング論(2)、自由選択単位(6)、専門現場実習1(2)、 専門現場実習2(2)、専門現場実習3(2)、専門現場実習4(2)	アスリートコース 24単位 スポーツ トレーナーコース 24単位
アスリート実習3(2)、アスリート実習4(2)、災害とドローン(1)、アスレティック・トレーニング概論(2)、※防災と教育(2)			0単位
+専修教育科目24/24/24単位+関連教育科目32/32/32単位			124単位

IV. 履修内容

1. 共通教育科目

所要単位数 10 単位

共通教育科目は、幅広く深い教養及び総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、専門分野と調和・発展させる科目である。

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数	
			必修	選択		
共通教育科目	国土館を知る（建学の精神と教育理念）	1	2			
	※A I とサイエンス	1	2			
	国土館を語る（継承する精神文化の探究）	1		2		
	国土館ゼミ	1～4		1		
	防災リーダー養成論	1～4		2		
	防災リーダー養成論実習	1～4		2		
	社会人基礎スキル	2～4		2		
	哲学と現代	1～4		2		
	人間と倫理	1～4		2		
	人生と教育	1～4		2		
	からだと心のつながり	1～4		2		
	日本の文学	1～4		2		
	経済のしくみ	1～4		2		
	アジアの歴史と文化	1～4		2		
	イスラムの歴史と文化	1～4		2		
	文化と人間	1～4		2		
	※日本国憲法	1～4		2		
	人と宇宙	1～4		2		
	数学（多変数関数の微積分）	1～4		2		
	統計学入門	1～4		2		
	確率論入門	1～4		2		
	変動する地球	1～4		2		
	データサイエンス基礎	1～4		2		
	データエンジニアリング基礎	1～4		2		
	A I 基礎	1～4		2		
	A I 基礎演習	2～4		1		
	データリテラシー	1～4		2		
	※コンピュータリテラシー	1～4		2		
	対象科目 留学生	日本の歩み	1～4		2	
		日本の自然環境	1～4		2	
科単位認定 目	ボランティア実践Ⅰ	1～4		1		
	ボランティア実践Ⅱ	1～4		1		
	ボランティア実践Ⅲ	1～4		1		
	ボランティア実践Ⅳ	1～4		1		
	インターンシップ	1～4		2		
共通教育科目 卒業所要単位 10 単位		合計			単位	

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

- ・留学生対象科目について
学則第 44 条により必要があると認めるときは、履修することができる。
- ・単位認定科目について

1. 「ボランティア実践 I～IV」

【条件】

大学が組織的取組として参加を認めた活動（例：「災害ボランティア」など）または学部が参加を認めた活動に参加すること。また、活動時間が関連活動を含めて 45 時間以上であること。

【注意事項】

認定できる単位数は年間 1 単位までとする。

活動時間は 1 つのボランティア活動における時間数となり、複数の活動を合計することはできない。

活動期間が当年度 4 月から 1 月末までの活動は当年度中の申請を行うこととし、遡っての認定は認めない。なお、活動の終了時期が当年度 2 月から 3 月末になる場合は次年度に申請を行うこと。

【申請方法】

体育学部事務課からの案内に従い、各期の指定期日までに単位認定の申請をすること。

2. 「インターンシップ」

【条件】

キャリア形成支援センター主催の「インターンシップ」に参加し、下記の条件を満たすこと。

- ・キャリア形成支援センターが指定する事前学習（マナー講座等）及び成果発表会にすべて出席していること。（事前にキャリア形成支援センターに申し出て、欠席している場合には考慮する場合がある。）
- ・「研修日誌」及び「報告書」を提出済みであること。
- ・インターンシップ先より提出される「総合評価表」の各項目の評価がすべて A～C 評価であること。

【注意事項】

単位認定は参加年度の秋期のみとなる。参加年度の秋期に認定する。参加した翌年度以降に遡って単位認定は行わない。

【申請方法】

体育学部事務課からの案内に従い、秋期の指定期日までに単位認定の申請をすること。

- ・他キャンパス開講科目について

以下の授業科目（共通教育科目）は他キャンパスにおける開講科目である。（年度により異なる）

文章表現の基礎、現代の論理、宗教と人生、心の理解と対応、世界の名作、中国の古典を読む、現代の政治、社会と人間、法と社会、日本の歴史と文化、ヨーロッパの歴史と文化、アメリカの歴史と文化、アフリカの歴史と文化、地理と人間生活、仕事と社会、保育理論、ジェンダーと社会、現代社会論、持続可能な社会と生活、グローバル社会を学ぶ、数学入門、数学（線形代数）、数学（微分積分）、生物とその進化を探る、人間と地球環境、コンピュータネットワーク、プログラミング基礎、Web デザインの基礎、栽培、基礎物理学、物理学、スポーツと人体、スポーツと社会、書の世界、アニメの世界、日本の伝統芸能、芸術の世界、英語で学ぶ教養、ドイツ語で学ぶ教養、フランス語で学ぶ教養、中国語で学ぶ教養、韓国語で学ぶ教養、総合講座（世田谷 6 大学コンソーシアム連携授業科目）【留学生対象科目】
日本の国際化

2. 外国語科目

所要単位数 4 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数	
			必修	選択		
外国語科目	※英語 1	1	1			
	※英語 2	1	1			
	ドイツ語 1	2		1		
	ドイツ語 2	2		1		
	中国語 1	2		1		
	中国語 2	2		1		
	海外演習 1	1~4		2		
	オンライン海外演習 1	1~4		1		
	留学生対象科目	日本語リーディング 1	1	1		
		日本語リーディング 2	1	1		
		日本語ライティング 1	1	1		
		日本語ライティング 2	1	1		
		日本語スピーキング 1	1~4		1	
		日本語スピーキング 2	1~4		1	
時事日本語 1		2~4		1		
時事日本語 2		2~4		1		
ビジネス日本語 1		2~4		1		
ビジネス日本語 2		2~4		1		
日本語スキルアップ 1	2~4		1			
日本語スキルアップ 2	2~4		1			
外国語科目 卒業所要単位 4 単位			合計 単位			

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。(教職課程履修要項参照)

・海外演習について

- ・国際交流センターが実施する「海外研修」に参加し、所定の成績を修めることにより単位を認定する。(「海外演習」の単位は共通教育科目として取り扱う)
- ・学年が異なれば、複数回履修し、その都度単位を取得できる。その際、科目名は単位を取得した研修の回数に応じて「海外演習 1 (〇〇語)」「海外演習 2 (〇〇語)」というように順に番号が付される。
- ・春季に実施される研修は、4 年次には卒業所要単位として認定されない。
- ・研修の詳細については、国際交流センターに問い合わせる。

・オンライン海外演習について

- ・国際交流センターが実施する「オンライン短期研修プログラム」を受講し所定の単位を修めることで、「オンライン海外演習」として認定される。(「オンライン海外演習」の単位は共通教育科目として取り扱う)
- ・研修の詳細については、国際交流センターに問い合わせる。

・留学生対象科目について

学則第 44 条により必要があると認めるときは、履修することができる。

3. 学部基礎科目

所要単位数 20 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
学部基礎科目	※体育原理	1	2		
	解剖学	1	2		
	※運動生理学	1	2		
	※体育方法学・実習（体操（集団行動を含む））Ⅰ	1	1		
	※体育方法学・実習（体操（集団行動を含む））Ⅱ	1	1		
	※体育方法学・実習（器械運動）	1	1		
	※体育方法学・実習（陸上競技）	1	1		
	※体育方法学・実習（水泳）	1	1		
	※体育方法学・実習（ダンス）	1	1		
	※体育方法学・実習（柔道）Ⅰ	2		1	
	※体育方法学・実習（柔道）Ⅱ		①または② 選択履修	1	
	※体育方法学・実習（剣道）Ⅰ	2		1	
	※体育方法学・実習（剣道）Ⅱ		②	1	
	スポーツ専門英語	2	2		
	卒業研究Ⅰ	3	2		
卒業研究Ⅱ	4	2			
学部基礎科目 卒業所要単位 20単位		合計			単位

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

・卒業研究Ⅰ・Ⅱについて

卒業研究Ⅰ・Ⅱは一貫性をもって授業が行われるため、3年次配当の卒業研究Ⅰの単位が取得できなかった者は、4年次の卒業研究Ⅱを履修することができなくなり留年となる。

卒業研究は学科系と実技系に分かれるが、その選択は履修時に担当教員と相談し決定する。

各担当教員の卒業研究の演習題目は、Web上のシラバス「授業計画」を参照すること。

4. 学科基礎教育科目

所要単位数 15 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
学科基礎教育科目	※体育方法学・実習（野外教育）Ⅰ（臨海・キャンプ・スキー）	1	1		
	※体力測定・評価	1	2		
	※スポーツ心理学	2	2		
	※救急処置法実習Ⅰ	2	1		
	※救急処置法実習Ⅱ	2	1		
	※公衆衛生学	3	2		
	※学校保健	3	2		
	※スポーツ社会学	4	2		
	※体育経営管理	4	2		
学科基礎教育科目 卒業所要単位 15単位		合計			単位

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

5. 体育専門教育科目 所要単位数 学校体育コース 19 単位、アスリートコース 19 単位、スポーツトレーナーコース 19 単位

2 年次より希望するコースを選択し、そのコースに配当した科目から履修する。

区分	科目名		開講年次	単位数		取得単位数	
				必修	選択		
体育 専門 教育 科目	学校 体育 コース	スポーツ栄養学	1	2			
		トレーニング論・実習Ⅰ	1	1			
		トレーニング論・実習Ⅱ	1	1			
		※スポーツバイオメカニクス	2	2			
		コーチ学	2	2			
		※体育方法学・実習（レスリング）	2	1			
		※体育方法学・実習（バスケットボール）	2	1			
		※体育方法学・実習（ハンドボール）	2	1			
		※体育方法学・実習（バレーボール）	2	1			
		※体育方法学・実習（サッカー）	2	1			
		※体育方法学・実習（ラグビー）	2	1			
		※体育方法学・実習（ソフトボール）	2	1			
		コ	専門指導法（器械運動）	3		1	
		ー	専門指導法（陸上競技）	3		1	
		ス	専門指導法（水泳）	3		1	
			専門指導法（ダンス）	3		1	
			専門指導法（柔道）	3		1	
			専門指導法（剣道）	3		1	
			専門指導法（バスケットボール）	3		1	
		専門指導法（ハンドボール）	3		1		
	専門指導法（バレーボール）	3		1			
	専門指導法（サッカー）	3		1			
	専門指導法（ラグビー）	3		1			
	専門指導法（ソフトボール）	3		1			
体育専門教育科目 卒業所要単位 学校体育コース 19 単位			合計		単位		

4 種目
選択履修

5. 体育専門教育科目 所要単位数 学校体育コース 19 単位、アスリートコース 19 単位、スポーツトレーナーコース 19 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
体育専門教育科目	ア スポーツ栄養学	1	2		
	ス トレーニング論・実習Ⅰ	1	1		
	リ トレーニング論・実習Ⅱ	1	1		
	※スポーツバイオメカニクス	2	2		
	コーチ学	2	2		
	※体育方法学・実習（レスリング）	2	1		
	※体育方法学・実習（バスケットボール）	2	1		
	※体育方法学・実習（ハンドボール）	2	1		
	※体育方法学・実習（バレーボール）	2	1		
	※体育方法学・実習（サッカー）	2	1		
	※体育方法学・実習（ラグビー）	2	1		
	※体育方法学・実習（ソフトボール）	2	1		
	ポ 専門指導法（器械運動）	3		1	
	専門指導法（陸上競技）	3		1	
	ツ 専門指導法（水泳）	3		1	
	ト 専門指導法（ダンス）	3		1	
	レ 専門指導法（柔道）	3		1	
	専門指導法（剣道）	3		1	
	ナ 専門指導法（レスリング）	3		1	
	専門指導法（バスケットボール）	3		1	
	専門指導法（ハンドボール）	3		1	
	コ 専門指導法（バレーボール）	3		1	
	専門指導法（サッカー）	3		1	
ス 専門指導法（ラグビー）	3		1		
専門指導法（ソフトボール）	3		1		
体育専門教育科目 卒業所要単位 アスリート・スポーツトレーナーコース 19 単位		合計			単位

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

6. 専修教育科目 所要単位数 学校体育コース24 単位、アスリートコース24 単位、スポーツトレーナーコース24 単位

区分	科目名		開講年次	単位数		取得単位数	
				必修	選択		
専修教育科目	学校体育	アスリート実習1	1		2		
		体育史	2		2		
		教職インターンシップ	3		2		
		学校教育関係法規	3		2		
		体力測定評価実習Ⅰ	3		1		
		体力測定評価実習Ⅱ	3		1		
		教職特別講座1	2		2		
		教職特別講座2	2		2		
		教職特別講座3	2		2		
		教職特別講座(野外)	2		2		
		教職特別講座4	3		2		
		教職特別講座5	3		2		
	教職特別講座6	4		2			
	アスリートコース	スポーツ医学		3		2	
		体育・スポーツ行政学		3		2	
		健康教育学		3		2	
		スポーツ情報処理論実習Ⅰ		3		1	
		スポーツ情報処理論実習Ⅱ		3		1	
		運動処方論		3・4		2	
		発育発達老化論		4		2	
		キャリアアップ講座1	①	2		2	
		キャリアアップ講座2		2		2	
		キャリアアップ講座3		2		2	
		キャリアアップ講座4		3		2	
		教職特別講座1	②	2		2	
		教職特別講座2		2		2	
		教職特別講座3		2		2	
教職特別講座4		3			2		
		アスリート実習1	1		2		
		アスリート実習2	2		2		
専修教育科目 卒業所要単位 学校体育コース24単位 アスリートコース24単位			合計		単位		

6. 専修教育科目 所要単位数 学校体育コース 24 単位、アスリートコース 24 単位、スポーツトレーナーコース 24 単位

区分	科目名		開講年次	単位数		取得単位数
				必修	選択	
専修教育科目	スポーツトレーナーコース	スポーツ医学	3		2	
		体育・スポーツ行政学	3		2	
		運動処方論	3・4		2	
		健康教育学	3		2	
		体力測定評価実習Ⅰ	3		1	
		体力測定評価実習Ⅱ	3		1	
		エアロビクス運動理論・実習Ⅰ	3・4		1	
		エアロビクス運動理論・実習Ⅱ	3・4		1	
		スポーツ法学	2		2	
		エクササイズテクニク	2		2	
		アスリート実習Ⅰ	1		2	
		アスリート実習Ⅱ	2		2	
		現場実習Ⅰ	2		2	
		現場実習Ⅱ	3		2	
専修教育科目 卒業所要単位 スポーツトレーナーコース24単位			合計		単位	

・アスリート実習について

アスリート実習Ⅰ・Ⅱは、同一種目を選択履修する。アスリート実習Ⅰ・Ⅱに用意されている種目は次のとおりである。

陸上競技、新体操、体操競技、柔道、剣道、レスリング、ウェイトリフティング、ダンス、サッカー、バレーボール、バスケットボール、ラグビー、テニス（硬・軟）、ハンドボール、バドミントン、ソフトボール、準硬式野球、スキー、スケート（ホッケー）、水泳、野外活動、アメリカンフットボール

また、これらの種目の他に、指定された室内競技・室外競技・個人競技（学生部が管轄していること）を選択できる。

7. 関連教育科目 所要単位数 学校体育コース 32 単位、アスリートコース 32 単位、スポーツトレーナーコース 32 単位

区分	科目名		開講年次	単位数		取得単位数
				必修	選択	
関連教育科目	学校体育コース	※教育基礎論	1	2		
		※特別活動の理論と実践	1	2		
		※道德教育の理論と実践	1	2		
		※保健体育科教育論Ⅰ	2		2	
		※保健体育科教育論Ⅱ	2		2	
		※教育心理学	2	2		
		※教職論	2		2	
		※生徒・進路指導論	2		2	
		※教育課程論	3		2	
		※保健体育科指導法Ⅰ	3		2	
		※保健体育科指導法Ⅱ	3		2	
		※教育相談	3		2	
		※教育方法論（情報通信技術の活用を含む）	2・3		2	
		※総合的な学習の時間の指導法	3		2	
		※特別支援教育概論	3		2	
※教育行財政	3・4		2			
関連教育科目 卒業所要単位 学校体育コース32単位			合計		単位	

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

7. 関連教育科目

所要単位数 学校体育コース32 単位、アスリートコース32 単位、スポーツトレーナーコース32 単位

区分	科目名		開講年次	単位数		取得単位数	
				必修	選択		
関連教育科目	アスリートコース	※教育基礎論	1	2			
		※特別活動の理論と実践	1	2			
		※道徳教育の理論と実践	1	2			
		※教育心理学	2	2			
		※保健体育科教育論 I		2		2	
		※保健体育科教育論 II		2		2	
		※教職論		2		2	
		※生徒・進路指導論		2		2	
		※教育課程論	教員免許状取得を希望する学生	3		2	
		※保健体育科指導法 I		3		2	
		※保健体育科指導法 II		3		2	
		※教育相談		3		2	
		※教育方法論 (情報通信技術の活用を含む)		2・3		2	
		※総合的な学習の時間の指導法		3		2	
		※特別支援教育概論		3		2	
		※教育行財政		3・4		2	
		運動生理学実習 I		3		1	
		運動生理学実習 II		3		1	
		スポーツバイオメカニクス実習 I		3		1	
		スポーツバイオメカニクス実習 II		3		1	
		スポーツメンタルトレーニング論		3・4		2	
		スポーツパフォーマンス分析論	教員免許状取得を希望しない学生	3・4		2	
		テーピング論		2		2	
		自由選択単位 (★)				6	
		実践実習 1		3		2	
		実践実習 2		3		2	
		実践実習 3		4		2	
		実践実習 4		4		2	
関連教育科目 卒業所要単位 アスリートコース32単位			合計		単位		

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。(教職課程履修要項参照)

(★) 自由選択単位は、体育学科開講の専門科目で、卒業所要単位以外に取得した単位を 6 単位まで、関連教育科目の単位として認めるものである。

7. 関連教育科目

所要単位数 学校体育コース32単位、アスリートコース32単位、スポーツトレーナーコース32単位

区分	科目名		開講年次	単位数		取得単位数	
				必修	選択		
関連教育科目	スポーツレジャーコース	※教育基礎論	1	2			
		※特別活動の理論と実践	1	2			
		※道德教育の理論と実践	1	2			
		※教育心理学	2	2			
		※保健体育科教育論 I	2		2		
		※保健体育科教育論 II	2		2		
		※教職論	2		2		
		※生徒・進路指導論	2		2		
		※教育課程論	教員免許状取得を希望する学生	3		2	
		※保健体育科指導法 I		3		2	
		※保健体育科指導法 II		3		2	
		※教育相談		3		2	
		※教育方法論 (情報通信技術の活用を含む)		2・3		2	
		※総合的な学習の時間の指導法		3		2	
		※特別支援教育概論		3		2	
		※教育行財政		3・4		2	
		運動生理学実習 I (☆)		3		1	
		運動生理学実習 II		3		1	
		スポーツバイオメカニクス実習 I		3		1	
		スポーツバイオメカニクス実習 II		3		1	
		スポーツメンタルトレーニング論		3・4		2	
スポーツパフォーマンス分析論	教員免許状取得を希望しない学生	3・4		2			
テーピング論		2		2			
自由選択単位 (★)				6			
専門現場実習 1		3		2			
専門現場実習 2		3		2			
専門現場実習 3		4		2			
専門現場実習 4		4		2			
関連教育科目 卒業所要単位 スポーツトレーナーコース32単位			合計		単位		

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。(教職課程履修要項参照)

(☆) スポーツトレーナーコースは、教員免許状取得の希望有無に係わらず「運動生理学実習 I」を履修すること (NSCA 認定資格必須科目)。

(★) 自由選択単位は、体育学科開講の専門科目で、卒業所要単位以外に取得した単位を 6 単位まで、関連教育科目の単位として認めるものである。

8. 随意科目

所要単位数 0 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
随意科目	体育方法学・実習（野外教育）2	2		2	
	アスリート実習3	3		2	
	アスリート実習4	4		2	
	災害とドローン	1~4		1	
	アスレティック・トレーニング概論	1~4		2	
	[教職科目]				
	※防災と教育	1~4		2	
	[レクリエーション・インストラクター資格科目]				
	レクリエーション論	3		2	
	レクリエーション論実習Ⅰ	3・4		1	
	レクリエーション論実習Ⅱ	3・4		1	
随意科目 卒業所要単位 0 単位		合計			単位

随意科目は、アスリートコース・スポーツトレーナーコースの関連教育科目の自由選択単位に含めることができる。

V. 卒業後の方向

卒業生の進路については、特に保健体育科の教員をはじめ、警察官、消防官、刑務官、市役所、市町村設置の健康増進センター等の各種公務員、スポーツトレーナーをはじめ商業スポーツ施設や地域スポーツ施設での従事者、青年海外協力隊や海外スポーツ指導者等の道に進むことが期待される。

■ 卒業までに取得できる資格、又は修了証明書が発行される資格等

教員免許状資格取得 保健体育 高等学校1種・中学校1種 （卒業時資格取得可能） ※「教職課程履修要項」を参照	健康運動指導士・健康運動実践指導者 （受験資格）
	JPSUスポーツトレーナー （受験資格）
日本スポーツ協会公認スポーツ指導者 共通科目コースⅢ（受験資格） 専門科目コース競泳コーチ3（受験資格） スポーツ指導者基礎資格「スポーツコーチングリーダー」認定	レクリエーション・インストラクター資格 （卒業時資格取得可能）
NSCA認定資格（受験資格） CSCS : Certified Strength & Conditioning Specialist （認定ストレングス&コンディショニングスペシャリスト） NSCA-CPT : NSCA Certified Personal Trainer （NSCA 認定パーソナルトレーナー）	
防災士 （受験資格）	UAS LEVEL2 指定科目の試験合格により認定

武道学科

武道学科の教育研究上の目的・教育方針	36
武道学科の3つのポリシー	37
武道学科課程要項	
I. 学位	39
II. カリキュラム設定の趣旨	39
III. 科目構成	39
1. 授業科目の構成と卒業所要単位	39
2. 履修上限単位数	39
3. 履修編成	39
4. 武道学科 履修科目一覧表	40
IV. 履修内容	42
1. 共通教育科目	42
2. 外国語科目	44
3. 学部基礎科目	45
4. 学科基礎教育科目	46
5. 体育専門教育科目	47
6. 専修教育科目	48
7. 関連教育科目	49
8. 随意科目	49
V. 卒業後の方向	49

武道学科の教育研究上の目的

わが国固有の伝統運動文化である「武道」の特性と、武道教育に期待されている人格陶冶や人間形成といった「道を求める武道」並びに「科学性を伴った武道」のあり方等を実践し、国内はもとより国際社会に貢献する人材育成及び国家意識や国威発揚のための競技力向上に関わる指導者並びに競技者を養成する。

特に、伝統運動文化としての武道の継承、科学性を伴った武道の国際競技力向上への貢献、生涯学習・生涯スポーツの発展に貢献する武道指導者の育成、国際的武道指導者の育成と国際交流進展への寄与を4つの柱とした教育・研究を実践する。

武道学科の教育方針

武道学科では、武道の文化的特性の実質化と科学性に基づいた国際競技力向上及び地域スポーツの振興や生涯スポーツの武道指導者として、国家社会に貢献できる人材養成のため、次の教育を行う。

1. 武道の理論や実践を通して、わが国固有の伝統運動文化の有意性を学び、国を愛し、自国の歴史と伝統及び民族に誇りを持つ態度の育成を図り、もって世界の平和と福祉に貢献する人材を養成する。
2. 武道の実践を通して、わが国の武道文化の特性である伝統様式の習得と技術の練磨によって術理を学び、道理を重んずる態度の形成と豊かな人間性を備えた人材を養成する。
3. 地域社会でのボランティア活動及び奉仕活動を通して、社会福祉の充実発展に貢献できる人材の育成をはかる。
4. 武道のいずれかを専門実習として行い、また課外活動を重視することによって競技力向上をはかると共に、忍耐・克己・勇気・礼節等に象徴される武道精神、強健な身体及び旺盛なる国際的競技者を育成する。
5. 複数の武道段位を取得することによって、幅広い武道指導者を育成する。

武道学科の3つのポリシー

◆ 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

武道学科では、将来、武道を主としたスポーツや教育の分野に進みたいと願う情熱と協調性に富んだ学生を受け入れます。

また、このような入学者を適正に判定するために、次に掲げる観点から、多様な方法による入学者選抜を実施します。一般選抜では、筆記試験に加え基本的運動技能についての実技試験を実施します。

AP1. [知識・理解・技能]

武道学科の教育を受けるために必要な基礎学力としての知識と、優れた武道実技能力及び体育理論、保健に関する知識を有している。

(AP1-1) 国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語などについて、高等学校などで身に付けるべき標準的な知識を有する。

(AP1-2) 優れた武道実技能力及び体育理論、保健に関する知識を有している。

(AP1-3) 武道・スポーツ活動において優秀な成績を収め、入学後もスポーツ活動を継続する意欲と卒業条件を達成する強い意志を有している。

AP2. [思考力・判断力・表現力]

武道・体育・スポーツ活動において、問題点を分析し、自ら工夫することで知能・技能を向上させる意欲を有している。

AP3. [主体性・多様性・協働性]

授業や実技において、他者と協調して真摯に取り組み、自ら進んで行動する姿勢を有している。

【入学前に身に付けておくべきこと】

1. 国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語などについて、高等学校などで身に付けるべき標準的な知識を有していること。
2. 自ら課題を発見し、論理的に説明できるプレゼンテーション力を補強すること。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 教育課程・内容

(1) 幅広く深い教養と総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、専門分野と調和・発展させることを目的とした「共通教育科目」を設けています。

(2) 「外国語科目」を設け、英語や他の言語を学び、コミュニケーション能力の充実を図ります。また、武道に特化した専門的英語知識を学ぶ科目「武道実践英語」を設置しています。

(3) 「専門科目」では、幅広い分野の教育研究に触れつつ、自らの興味・関心と能力・適性等に基づいて、知識や実践力を修得するために、以下の科目群に分け体系的に科目を設けています。なお、コース毎に学修できるように柔道コース、剣道コース、空手道コースの3コースに分け科目を編成しています。

- ①学部基礎科目：武道・体育に関する基本的知識や技術を身に付けるため必修科目として設置しています。また、武道教育として「柔道」、「剣道」、「空手道」のいずれか2種目を選択必修とし、文武両道の実践を体得します。

- ②学科基礎科目：武道教育における、文化的及び科学的特性の基礎を理解する科目を設けています。
 - ③体育専門教育科目：武道以外の体育学全般を学ぶ科目を設けています。
 - ④専修教育科目：武道の競技力向上及び国内外の指導者養成のための科目や武道の歴史、科学性を伴った理論と実践を学ぶ科目を設けています。
 - ⑤関連教育科目：幅広い知識を身に付けられるように、各コースに関連領域の科目や教職課程に関連した科目を設けています。
- (4) 武道による地域貢献や国際化に対応した「海外武道実習」と「地域武道実習」の選択必修科目を設けています。

2. 教育方法

- (1) 講義・実技・実習をバランスよく組み合わせて学修成果を高めます。
- (2) 専門科目は、各コースに分かれて授業を行い、武道の理論と形、技術の修得を通して高い競技力を身に付けます。
- (3) 4年間で学んできたことを「卒業研究」で自分自身の研究テーマに結実させていくことによって、卒業後の進路を見据えた専門知識・技能の定着を図ります。

3. 学修成果の評価

- (1) 各授業科目については、到達目標や成績評価の基準と具体的評価方法をシラバスに明示して学生に周知したうえで、公正で厳格な成績評価を実施します。
- (2) 4年間の学修成果は、必修の「卒業研究」により、提出された卒業論文・レポートをもとに総合的評価を行います。

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

武道学科は、体育学の素養を備え、所定の課程を経て必要な所定の単位を修め、必修科目履修等の条件を満たすことで、次の資質・能力を有しているとして卒業を認定し、学士（武道学）の学位を授与します。

- DP1. 武道の理論と形や技術、トレーニング方法や指導方法についての専門的知識と幅広い教養、それらを通して高い競技力を身に付けるとともに、学修成果を活用し、誠意を持って指導する姿勢を有している。
- DP2. 修得した武道の知識・技能をもとに、他者に分かりやすく理解させる表現力と、武道に関する高い競技力を社会の様々な要請において活用できる能力を有している。
- DP3. 競技力の向上を通して、絶え間なく人格の錬磨を図るとともに、武道の普及を通して社会の精神的向上に自ら進んで貢献する意欲を有している。
- DP4. 卒業後は、アスリート、保健体育科教員、スポーツ指導者、トレーナー、警察官など将来、武道の知識・技能をもとに各界において他者と協調し、国際的に社会に貢献する意欲を有している。

武道学科課程要項

I. 学 位

1. 体育学部武道学科において、4ヵ年以上在学し履修要件を満たし124単位以上を修得したものを卒業とし、学士（武道学）の学位を与える。
2. 学位を取得するには、全期間の単位数（卒業所要単位および科目区分）に従って履修する。
単位構成は、全学共通教育科目（共通教育科目、外国語科目）、専門科目（学部基礎科目、学科基礎教育科目、体育専門教育科目、専修教育科目、関連教育科目）からなり、年次ごとにそれぞれ修得する。

II. カリキュラム設定の趣旨

わが国固有の武道の歴史や文化を通して、国家に対する国民としての正しい歴史観や民族意識を醸成し、また古流の武術や各武道の形を学ばせることによって技の構成原理や伝統的行動様式を理解させると共に、稽古法により技法、心法、礼法等、武道の術理を通して道理を探究させ、専門性の高い武道指導者を養成することを目的として編成されている。

また、国際的な武道指導者の育成と国際交流の推進、競技力向上への科学的な対応を目的としてカリキュラムを編成している。

III. 科目構成

1. 授業科目の構成と卒業所要単位

武道学科授業科目の構成と卒業所要単位は以下の表のとおりである。

2年生から3年生への進級に必要な単位数は50単位とする。

全学共通教育科目		専 門 科 目				
共通教育科目	外国語科目	学部基礎科目	学科基礎教育科目	体育専門教育科目	専修教育科目	関連教育科目
10単位	4単位	24単位	26単位	26単位	24単位	10単位
14単位		110単位				
卒業所要単位 124単位						

2. 履修上限単位数

1年次	2年次	3年次	4年次
48単位	48単位	48単位	48単位

3. 履修編成

武道学科では、「柔道コース」「剣道コース」「空手道コース」に分かれており、おのおの系列的に履修をしなければならない。

4. 武道学科履修科目一覧表

科目区分		必修・選択	履修
全学共通教育科目	共通教育科目	必修	※AIとサイエンス(2)、国土館を知る(建学の精神と教育理念)(2)
		選択	国土館を語る(継承する精神文化の探究)(2)、国土館ゼミ(1)、防災リーダー養成論(2)、防災リーダーからだと心のつながり(2)、日本の文学(2)、経済のしくみ(2)、アジアの歴史と文化(2)、イスラムの歴史統計学入門(2)、確率論入門(2)、変動する地球(2)、データサイエンス基礎(2)、データエンジニアリングボランティア実践I(1)、ボランティア実践II(1)、ボランティア実践III(1)、ボランティア実践IV(1)、
全学共通教育科目	外国語科目	必修	※英語1(1)、※英語2(1)
		選択 (留学生対象)	ドイツ語1(1)、ドイツ語2(1)、フランス語1(1)、フランス語2(1)、中国語1(1)、中国語2(1)、日本語リーディング1(1)、日本語リーディング2(1)、日本語ライティング1(1)、時事日本語1(1)、時事日本語2(1)、ビジネス日本語1(1)、ビジネス日本語2(1)、
専門科	学部基礎科目	必修	※体育原理(2)、解剖学(2)、※運動生理学(2)、卒業研究1(2)、卒業研究2(2) 《体育方法学・実習》 ※体操(集団行動を含む)I(1)、※体操(集団行動を含む)II(1)、※器械運動I(1)、器械運動II(1)、
		選択	※武道方法学実習柔道1(1)、※武道方法学実習柔道2(1)、※武道方法学実習剣道1(1)、 [柔道コースは剣道1・2及び空手道1・2を、剣道コースは柔道1・2及び空手道1・2を、
専門科	学科基礎教育科目	必修	武道論(2)、修行実習(2)、武道教育論(2)、武道実践英語(2) 地域武道実習(2)、海外武道実習(2)
		選択	社会実践教育論A I(2)、社会実践教育論A II(2)、社会実践教育論A III(2)、 社会実践教育論B I(2)、社会実践教育論B II(2)、社会実践教育論B III(2)、 柔道理論・実習1(1)、柔道理論・実習2(1)、柔道理論・実習3(1)、 柔道理論・実習7(1)、柔道理論・実習8(1) 剣道理論・実習1(1)、剣道理論・実習2(1)、剣道理論・実習3(1)、 剣道理論・実習7(1)、剣道理論・実習8(1) 空手道理論・実習1(1)、空手道理論・実習2(1)、空手道理論・実習3(1)、 空手道理論・実習5(1)、空手道理論・実習6(1)、空手道理論・実習7(1)、
専門科	体育専門教育科目	必修	※スポーツ社会学(2)、※体力測定・評価(2)、※体育経営管理(2)、※スポーツ心理学(2)、 ※救急処置法実習I(1)、※救急処置法実習II(1)
		選択	スポーツ栄養学(2)、体育史(2)、コーチ学(2)、体育・スポーツ行政学(2)、 テーピング・マッサージ論実習I(1)、テーピング・マッサージ論実習II(1) 《体育方法学・実習》 ※バレーボール(1)、※バスケットボール(1)、※サッカー(1)、※ラグビー(1)、
専門科	専修教育科目	必修	武道史(2)、武道指導特論(2) 民族文化論(2)、宗教文化論(2)
		選択	国際武道情報論・実習I(1)、国際武道情報論・実習II(1)、 武道運動学・実習I(1)、武道運動学・実習II(1)、比較武道論(武道哲学含む)(2)、 ※柔道専門実習1(1)、※柔道専門実習2(1)、※柔道専門実習3(1)、※柔道専門実習4(1)、 ※柔道専門実習5(1)、※柔道専門実習6(1)、※柔道専門実習7(1)、※柔道専門実習8(1)、 ※剣道専門実習1(1)、※剣道専門実習2(1)、※剣道専門実習3(1)、※剣道専門実習4(1)、 ※剣道専門実習5(1)、※剣道専門実習6(1)、※剣道専門実習7(1)、※剣道専門実習8(1)、 ※空手道専門実習1(1)、※空手道専門実習2(1)、※空手道専門実習3(1)、 ※空手道専門実習5(1)、※空手道専門実習6(1)、※空手道専門実習7(1)、 《武道方法学実習》 相撲1(1)、相撲2(1)、相撲3(1)、相撲4(1)、合気道1(1)、合気道2(1)、合気道3(1)、 なぎなた1(1)、なぎなた2(1)、なぎなた3(1)、なぎなた4(1)
専門科	関連教育科目	選択	発育発達老化論(2) [教職科目] ※道徳教育の理論と実践(2)、※教育心理学(2)、※学校保健(2)、 [健康運動指導士・健康運動実践者科目] 健康教育学(2)、運動処方論(2)、 [レクリエーション・インストラクター資格科目] レクリエーション論(2)、
	随意科目	選択	災害とドローン(1)、アスレティック・トレーニング概論(2)、教職特別講座I(2)、
卒業所要単位		共通教育科目10単位+外国語科目4単位+学部基礎科目24単位+学科基礎教育科目26単位+体育専門教育	
備考		1. ※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。 2. 卒業研究(1・2)は、シラバスに示す講座のテーマを参照し十分な履修指導のもとに選択履修する。 3. ()内は、単位数を表す。 4. 各種資格取得科目の履修については、便覧で示す科目をそれぞれに応じて選択履修する。	

科 目	卒業所要単位数	
	4単位	
<p>ダー養成論実習(2)、社会人基礎スキル(2)、哲学と現代(2)、人間と倫理(2)、人生と教育(2)、史と文化(2)、文化と人間(2)、※日本国憲法(2)、人と宇宙(2)、数学(多変数関数の微積分)(2)、ング基礎(2)、AI基礎(2)、AI基礎演習(1)、データリテラシー(2)、※コンピュータリテラシー(2)、インターンシップ(2)</p>	6単位	10単位
<p>韓国語 1 (1)、韓国語 2 (1) [同一言語 1・2 を2単位以上選択履修する]</p> <p>日本語ライティング2(1)、日本語スピーキング1(1)、日本語スピーキング2(1)、日本語スキルアップ1(1)、日本語スキルアップ2(1)</p>	<p>必修2単位の他、2単位以上選択履修</p> <p>留学生は「2. 外国語科目」の留学生対象科目を参照し履修</p>	4単位
<p>※陸上競技 I (1)、陸上競技 II(1)、※水泳 I (1)、水泳 II(1)、※ダンス I (1)、ダンス II(1)</p> <p>※武道方法学実習剣道 2 (1)、武道方法学実習空手道 1 (1)、武道方法学実習空手道 2 (1) 空手道コースは剣道 1・2及び柔道 1・2を選択履修]</p>	20単位	24単位
	8単位	
<p>社会実践教育論 AIV(2)</p> <p>社会実践教育論 BIV(2)</p> <p>柔道理論・実習 4 (1)、柔道理論・実習 5 (1)、柔道理論・実習 6 (1)、</p> <p>剣道理論・実習 4 (1)、剣道理論・実習 5 (1)、剣道理論・実習 6 (1)、</p> <p>空手道理論・実習 4 (1)、</p> <p>空手道理論・実習 8 (1)</p>	<p>1科目2単位以上選択履修</p> <p>A、B どちらか8単位を選択履修</p> <p>柔道コースは柔道理論・実習 1～8を履修、剣道コースは剣道理論・実習 1～8を履修、空手道コースは空手道理論・実習 1～8を履修</p>	26単位
<p>※スポーツバイオメカニクス(2)、※公衆衛生学(2)、スポーツ医学(2)、</p> <p>体力測定評価実習 I (1)、体力測定評価実習 II(1)、</p> <p>※ハンドボール (1)、※ソフトボール(1)</p>	16単位	26単位
	4単位	
<p>武道体力トレーニング論・実習 I (1)、武道体力トレーニング論・実習 II(1)、精神文化論(2)、武道書講読(2)、整復概論(2)</p> <p>※空手道専門実習 4 (1)、</p> <p>※空手道専門実習 8 (1)</p> <p>合気道 4 (1)、</p>	<p>1科目2単位以上履修</p> <p>6単位以上履修</p> <p>I・IIは同一科目2単位として履修</p> <p>柔道・剣道・空手道いずれか1科目8単位を履修</p> <p>同一種目4単位以上履修</p>	24単位
<p>※保健体育科指導法 I (2)、※保健体育科指導法 II(2)、※教育行財政(2)</p> <p>エアロビクス運動理論・実習 I (1)、エアロビクス運動理論・実習 II(1)</p> <p>レクリエーション論実習 I (1)、レクリエーション論実習 II(1)</p>	10単位	10単位
<p>教職特別講座2(2)、教職特別講座3(2)、※防災と教育(2)</p>	0単位	
<p>科目26単位+専修教育科目24単位+関連教育科目10単位</p>	124単位	

IV. 履修内容

1. 共通教育科目

所要単位数 10 単位

共通教育科目は、幅広く深い教養及び総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、専門分野と調和・発展させる科目である。

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数	
			必修	選択		
共通教育科目	国土館を知る（建学の精神と教育理念）	1	2			
	※A I とサイエンス	1	2			
	国土館を語る（継承する精神文化の探究）	1		2		
	国土館ゼミ	1～4		1		
	防災リーダー養成論	1～4		2		
	防災リーダー養成論実習	1～4		2		
	社会人基礎スキル	2～4		2		
	哲学と現代	1～4		2		
	人間と倫理	1～4		2		
	人生と教育	1～4		2		
	からだと心のつながり	1～4		2		
	日本の文学	1～4		2		
	経済のしくみ	1～4		2		
	アジアの歴史と文化	1～4		2		
	イスラムの歴史と文化	1～4		2		
	文化と人間	1～4		2		
	※日本国憲法	1～4		2		
	人と宇宙	1～4		2		
	数学（多変数関数の微積分）	1～4		2		
	統計学入門	1～4		2		
	確率論入門	1～4		2		
	変動する地球	1～4		2		
	データサイエンス基礎	1～4		2		
	データエンジニアリング基礎	1～4		2		
	A I 基礎	1～4		2		
	A I 基礎演習	2～4		1		
	データリテラシー	1～4		2		
	※コンピュータリテラシー	1～4		2		
	対象科目	日本の歩み	1～4		2	
		日本の自然環境	1～4		2	
	科単位認定	ボランティア実践Ⅰ	1～4		1	
		ボランティア実践Ⅱ	1～4		1	
ボランティア実践Ⅲ		1～4		1		
ボランティア実践Ⅳ		1～4		1		
インターンシップ		1～4		2		
共通教育科目 卒業所要単位 10単位		合計			単位	

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

- ・留学生対象科目について
学則第 44 条により必要があると認めるときは、履修することができる。
- ・単位認定科目について

1. 「ボランティア実践 I ～IV」

【条件】

大学が組織的取組として参加を認めた活動（例：「災害ボランティア」など）または学部が参加を認めた活動に参加すること。また、活動時間が関連活動を含めて 45 時間以上であること。

【注意事項】

認定できる単位数は年間 1 単位までとする。

活動時間は 1 つのボランティア活動における時間数となり、複数の活動を合計することはできない。

活動期間が当年度 4 月から 1 月末までの活動は当年度中の申請を行うこととし、遡っての認定は認めない。なお、活動の終了時期が当年度 2 月から 3 月末になる場合は次年度に申請を行うこと。

【申請方法】

体育学部事務課からの案内に従い、各期の指定期日までに単位認定の申請をすること。

2. 「インターンシップ」

【条件】

キャリア形成支援センター主催の「インターンシップ」に参加し、下記の条件を満たすこと。

- ・キャリア形成支援センターが指定する事前学習（マナー講座等）及び成果発表会にすべて出席していること。（事前にキャリア形成支援センターに申し出て、欠席している場合には考慮する場合がある。）
- ・「研修日誌」及び「報告書」を提出済みであること。
- ・インターンシップ先より提出される「総合評価表」の各項目の評価がすべて A～C 評価であること。

【注意事項】

単位認定は参加年度の秋期のみとなる。参加年度の秋期に認定する。参加した翌年度以降に遡って単位認定は行わない。

【申請方法】

体育学部事務課からの案内に従い、秋期の指定期日までに単位認定の申請をすること。

- ・他キャンパス開講科目について

以下の授業科目（共通教育科目）は他キャンパスにおける開講科目である。（年度により異なる）

文章表現の基礎、現代の論理、宗教と人生、心の理解と対応、世界の名作、中国の古典を読む、現代の政治、社会と人間、法と社会、日本の歴史と文化、ヨーロッパの歴史と文化、アメリカの歴史と文化、アフリカの歴史と文化、地理と人間生活、仕事と社会、保育理論、ジェンダーと社会、現代社会論、持続可能な社会と生活、グローバル社会を学ぶ、数学入門、数学（線形代数）、数学（微分積分）、生物とその進化を探る、人間と地球環境、コンピュータネットワーク、プログラミング基礎、Web デザインの基礎、栽培、基礎物理学、物理学、スポーツと人体、スポーツと社会、書の世界、アニメの世界、日本の伝統芸能、芸術の世界、英語で学ぶ教養、ドイツ語で学ぶ教養、フランス語で学ぶ教養、中国語で学ぶ教養、韓国語で学ぶ教養、総合講座（世田谷 6 大学コンソーシアム連携授業科目）【留学生対象科目】
日本の国際化

2. 外国語科目

所要単位数 4 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数	
			必修	選択		
外国語科目	※英語1	1	1			
	※英語2	1	1			
	ドイツ語1	2		1		
	ドイツ語2					
	フランス語1	2		1		
	フランス語2					
	中国語1	2		1		
	中国語2					
	韓国語1	2		1		
	韓国語2					
	海外演習1	1~4		2		
	オンライン海外演習1	1~4		1		
	留学生対象科目	日本語リーディング1	1	1		
		日本語リーディング2	1	1		
日本語ライティング1		1	1			
日本語ライティング2		1	1			
日本語スピーキング1		1~4		1		
日本語スピーキング2		1~4		1		
時事日本語1		2~4		1		
時事日本語2		2~4		1		
ビジネス日本語1		2~4		1		
ビジネス日本語2		2~4		1		
日本語スキルアップ1	2~4		1			
日本語スキルアップ2	2~4		1			
外国語科目 卒業所要単位 4 単位		合計			単位	

※印は、保健体育教員免許取得に関連する科目を表す。(教職課程履修要項参照)

・海外演習について

- ・国際交流センターが実施する「海外研修」に参加し、所定の成績を修めることにより単位を認定する。
(「海外演習」の単位は共通教育科目として取り扱う)
- ・学年が異なれば、複数回履修し、その都度単位を取得できる。その際、科目名は単位を取得した研修の回数に応じて「海外演習1(〇〇語)」「海外演習2(〇〇語)」というように順に番号が付される。
- ・春季に実施される研修は、4年次には卒業所要単位として認定されない。
- ・研修の詳細については、国際交流センターに問い合わせる。

・オンライン海外演習について

- ・国際交流センターが実施する「オンライン短期研修プログラム」を受講し所定の単位を修めることで、「オンライン海外演習」として認定される。
(「オンライン海外演習」の単位は共通教育科目として取り扱う)
- ・研修の詳細については、国際交流センターに問い合わせる。

・留学生対象科目について

学則第44条により必要があると認めるときは、履修することができる。

3. 学部基礎科目

所要単位数 24 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数	
			必修	選択		
学部 基礎 科目	※体育原理	1	2			
	解剖学	1	2			
	※運動生理学	2	2			
	※体育方法学・実習（体操（集団行動を含む））Ⅰ	1	1			
	※体育方法学・実習（体操（集団行動を含む））Ⅱ	1	1			
	※体育方法学・実習（器械運動）Ⅰ	1	1			
	体育方法学・実習（器械運動）Ⅱ	1	1			
	※体育方法学・実習（陸上競技）Ⅰ	1	1			
	体育方法学・実習（陸上競技）Ⅱ	1	1			
	※武道方法学実習柔道 1	① ② ③	1		1	
	※武道方法学実習柔道 2		1		1	
	※武道方法学実習剣道 1		1		1	
	※武道方法学実習剣道 2		1		1	
	武道方法学実習空手道 1		1		1	
	武道方法学実習空手道 2		1		1	
	※体育方法学・実習（水泳）Ⅰ		1	1		
	体育方法学・実習（水泳）Ⅱ		1	1		
	※体育方法学・実習（ダンス）Ⅰ		1	1		
	体育方法学・実習（ダンス）Ⅱ		1	1		
	卒業研究 1		3	2		
卒業研究 2		4	2			
学部基礎科目 卒業所要単位 24 単位			合計		単位	

①～③のうち4単位選択履修
 (柔道コースは剣道1・2、空手道1・2を履修)
 (剣道コースは柔道1・2、空手道1・2を履修)
 (空手道コースは柔道1・2、剣道1・2を履修)

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

・卒業研究 1・2について

卒業研究 1・2は一貫性をもって授業が行われるため、3年次配当の卒業研究 1 の単位が取得できなかった者は、4年次の卒業研究 2 を履修することができなくなり留年となる。

卒業研究は学科系と実技系に分かれるが、その選択は履修時に担当教員と相談し決定する。

各担当教員の卒業研究の演習題目は、Web上のシラバス「授業計画」を参照すること。

4. 学科基礎教育科目

所要単位数 26 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数	
			必修	選択		
学科基礎教育科目	武道論	1	2			
	修行実習	1	2			
	武道教育論	2	2			
	武道実践英語	2	2			
	地域武道実習	1科目2単位選択履修	3		2	
	海外武道実習		3		2	
	社会実践教育論AⅠ	①(教職講座)	2		2	
	社会実践教育論AⅡ		2		2	
	社会実践教育論AⅢ		3		2	
	社会実践教育論AⅣ		①または②選択履修	3		2
	社会実践教育論BⅠ	2			2	
	社会実践教育論BⅡ	②(公務員講座)	2		2	
	社会実践教育論BⅢ		3		2	
	社会実践教育論BⅣ		3		2	
	柔道理論・実習1		③	1		1
	柔道理論・実習2	1			1	
	柔道理論・実習3	2			1	
	柔道理論・実習4	2			1	
	柔道理論・実習5	3			1	
	柔道理論・実習6	3			1	
	柔道理論・実習7	4			1	
	柔道理論・実習8	4			1	
	剣道理論・実習1	④ ③~⑤のいずれか8単位選択履修 (柔道コースは 柔道理論・実習1~8を履修) (剣道コースは 剣道理論・実習1~8を履修) (空手道コースは 空手道理論・実習1~8を履修)	1		1	
	剣道理論・実習2		1		1	
	剣道理論・実習3		2		1	
	剣道理論・実習4		2		1	
	剣道理論・実習5		3		1	
	剣道理論・実習6		3		1	
	剣道理論・実習7		4		1	
	剣道理論・実習8		4		1	
	空手道理論・実習1	⑤	1		1	
	空手道理論・実習2		1		1	
	空手道理論・実習3		2		1	
空手道理論・実習4	2			1		
空手道理論・実習5	3			1		
空手道理論・実習6	3			1		
空手道理論・実習7	4			1		
空手道理論・実習8	4			1		
学科基礎教育科目 卒業所要単位 26単位		合計			単位	

5. 体育専門教育科目

所要単位数 必修 16 単位 選択 10 単位 計 26 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
体育専門教育科目	※スポーツ社会学	1	2		
	※体力測定・評価	1	2		
	※体育経営管理	1	2		
	※スポーツ心理学	2	2		
	※スポーツバイオメカニクス	2	2		
	※公衆衛生学	3	2		
	スポーツ医学	3	2		
	※救急処置法実習Ⅰ	4	1		
	※救急処置法実習Ⅱ	4	1		
	スポーツ栄養学	1		2	
	体育史	2		2	
	コーチ学	2		2	
	体育・スポーツ行政学	3		2	
	体力測定評価実習Ⅰ	3		1	
	体力測定評価実習Ⅱ	3		1	
	テーピング・マッサージ論実習Ⅰ	4		1	
	テーピング・マッサージ論実習Ⅱ	4		1	
	※体育方法学・実習（バレーボール）	2		1	
	※体育方法学・実習（バスケットボール）	2		1	
	※体育方法学・実習（サッカー）	2		1	
※体育方法学・実習（ラグビー）	2		1		
※体育方法学・実習（ハンドボール）	2		1		
※体育方法学・実習（ソフトボール）	2		1		
体育専門教育科目 卒業所要単位 26単位		合計			単位

8単位を選択履修する。
※同一名称のⅠ・Ⅱは同一科目 2単位として履修する。

2種目
2単位
選択履修

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

6. 専修教育科目

所要単位数 必修 4 単位 選択 20 単位 計 24 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数	
			必修	選択		
専修教育科目	武道史	1	2			
	武道指導特論	2	2			
	民族文化論	2	2	2		
	宗教文化論					
	国際武道情報論・実習Ⅰ	2		1		
	国際武道情報論・実習Ⅱ	2		1		
	武道体力トレーニング論・実習Ⅰ	3		1		
	武道体力トレーニング論・実習Ⅱ	3		1		
	武道運動学・実習Ⅰ	3		1		
	武道運動学・実習Ⅱ	3		1		
	比較武道論（武道哲学含む）	3		2		
	精神文化論	3		2		
	武道書講読	3		2		
	整復概論	3		2		
	※柔道専門実習Ⅰ	①	1		1	
	※柔道専門実習Ⅱ		1		1	
	※柔道専門実習Ⅲ		2		1	
	※柔道専門実習Ⅳ		2		1	
	※柔道専門実習Ⅴ		3		1	
	※柔道専門実習Ⅵ		3		1	
	※柔道専門実習Ⅶ		4		1	
	※柔道専門実習Ⅷ		4		1	
	※剣道専門実習Ⅰ	②	1		1	
	※剣道専門実習Ⅱ		1		1	
	※剣道専門実習Ⅲ		2		1	
	※剣道専門実習Ⅳ		2		1	
	※剣道専門実習Ⅴ		3		1	
	※剣道専門実習Ⅵ		3		1	
	※剣道専門実習Ⅶ		4		1	
	※剣道専門実習Ⅷ		4		1	
	※空手道専門実習Ⅰ	③	1		1	
	※空手道専門実習Ⅱ		1		1	
	※空手道専門実習Ⅲ		2		1	
	※空手道専門実習Ⅳ		2		1	
	※空手道専門実習Ⅴ		3		1	
	※空手道専門実習Ⅵ		3		1	
	※空手道専門実習Ⅶ		4		1	
	※空手道専門実習Ⅷ		4		1	
	武道方法学実習相撲Ⅰ	①	2		1	
	武道方法学実習相撲Ⅱ		2		1	
武道方法学実習相撲Ⅲ	3			1		
武道方法学実習相撲Ⅳ	3			1		
武道方法学実習合気道Ⅰ	②	2		1		
武道方法学実習合気道Ⅱ		2		1		
武道方法学実習合気道Ⅲ		3		1		
武道方法学実習合気道Ⅳ		3		1		
武道方法学実習なぎなたⅠ	③	2		1		
武道方法学実習なぎなたⅡ		2		1		
武道方法学実習なぎなたⅢ		3		1		
武道方法学実習なぎなたⅣ		3		1		
専修教育科目 卒業所要単位数 24 単位		合計			単位	

※印は、保健体育教員免許取得に関連する科目を表す。(教職課程履修要項参照)

7. 関連教育科目

所要単位数 計10単位

各資格に関係した科目が配当されているので資格を取得するものは便覧に示す「各種資格取得要項」を参照し履修する。

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
関連教育科目	発育発達老化論	3		2	
	[教職科目]				
	※道徳教育の理論と実践	1		2	
	※教育心理学	2		2	
	※学校保健	3		2	
	※保健体育科指導法Ⅰ	3		2	
	※保健体育科指導法Ⅱ	3		2	
	※教育行財政	3・4		2	
	[健康運動指導士・健康運動実践指導者科目]				
	健康教育学	3		2	
	運動処方論	3・4		2	
	エアロビクス運動理論・実習Ⅰ	3・4		1	
	エアロビクス運動理論・実習Ⅱ	3・4		1	
	[レクリエーション・インストラクター資格科目]				
	レクリエーション論	3		2	
	レクリエーション論実習Ⅰ	4		1	
レクリエーション論実習Ⅱ	4		1		
関連教育科目 卒業所要単位 10単位		合計			単位

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。(教職課程履修要項参照)

8. 随意科目

所要単位数 0単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
随意科目	災害とドローン	1~4		1	
	アスレティック・トレーニング概論	1~4		2	
	教職特別講座1	2		2	
	教職特別講座2	3		2	
	教職特別講座3	4		2	
	[教職科目]				
	※防災と教育	1~4		2	
随意科目 卒業所要単位 0単位		合計			単位

V. 卒業後の方向

卒業生の進路については、特に保健体育科の教員をはじめ、警察官、消防官、刑務官、市役所、市町村設置の健康増進センター等の各種公務員、商業スポーツ施設や地域スポーツ施設での従事者、青年海外協力隊や海外武道指導者などの道に進むことが期待される。

■ 卒業までに取得できる資格、又は修了証明書が発行される資格等

<p>教員免許状資格取得 保健体育 高等学校1種・中学校1種 (卒業時資格取得可能) ※「教職課程履修要項」を参照</p>	<p>健康運動指導士・健康運動実践指導者 (受験資格)</p>
<p>日本スポーツ協会公認スポーツ指導者 共通科目コースⅢ (受験資格) 専門科目コース空手道コーチ1 (受験資格) スポーツ指導者基礎資格「スポーツコーチングリーダー」認定書</p>	<p>レクリエーション・インストラクター資格 (卒業時資格取得可能)</p>
<p>防災士 (受験資格)</p>	<p>UAS LEVEL2 指定科目の試験合格により認定</p>

スポーツ医科学科

スポーツ医科学科の教育研究上の目的・教育方針	52
スポーツ医科学科の3つのポリシー	53
スポーツ医科学科課程要項	
I. 学 位	55
II. カリキュラム設定の趣旨	55
III. 科目構成	55
1. 授業科目の構成と卒業所要単位	55
2. 履修上限単位数	55
3. 履修編成	55
4. スポーツ医科学科 履修科目一覧表	56
IV. 履修内容	58
1. 共通教育科目	58
2. 外国語科目	60
3. 学部基礎科目	61
4. 学科基礎教育科目	61
5. 専修教育科目	62
6. 体育専門教育科目	63
7. 関連教育科目	64
8. 随意科目	64
V. 卒業後の方向	64

スポーツ医科学科の教育研究上の目的

スポーツ医科学科においては、大学に学び研鑽するものとして不可欠な主体性を持って学び、考える能力の育成と、医療職たる救急救命士資格取得を目指すものに必須の高い倫理観と豊かな教養の醸成を目的とする。そのうえに、基礎ならびに臨床医学、救急処置、救助等広範な分野にわたり理論・基礎から最新の高度救急医療技術まで確実に身につけ、救急現場やスポーツ時の事故に際し、全体を把握し柔軟かつ総合的な判断を下すことのできる職業人の養成を目指す。

さらに、高度救急医療の専門職として救急救命活動での主導的役割を果たす能力、一般市民に対する啓蒙教育活動、大学院や職場において救急医療に関する研究教育活動を行える素養を培う事を重要な目的と考えている。

また体育学部に属する特性を生かし、救急救命士資格を持った保健体育教員、養護教諭等も養成し児童生徒により安全な教育環境を提供する事をめざしている。

スポーツ医科学科の教育方針

スポーツ医科学科では、救急現場において、沈着かつ迅速に高度な応急処置を実施するために、総合的な医学知識及び技術が要求されていることから、徹底した理論教育と実践教育を行う。

日本の救急医療の指導的役割を担い、かつ、国際的に活躍できる人材を養成するために医学専門教育はもちろんのこと、総合教育と外国語教育を重視したカリキュラムを編成した。

1. 資格取得カリキュラム編成として、救急救命士の国家試験に対応した教育課程を編成した。他に、養護教諭、保健体育教諭の資格取得のための科目を配置した。
2. スポーツ事故や交通事故等の現場において、救助から救急処置が一貫して行える知識と技術習得のカリキュラムとして、救助実習を取り入れた。
3. 国際協力の推進ができる救急医療技術者の養成も目指すことから、医療英語等を配置した。
4. 障害者に配慮した救急処置が出来るように、手話演習を配置した。

スポーツ医科学科の3つのポリシー

◆ 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

スポーツ医科学科では、将来、救急救命医療に関連する分野に進みたいと願う情熱と協調性に富んだ学生を受け入れます。

また、このような入学者を適正に判定するために、次に掲げる観点から、多様な方法による入学者選抜を実施します。一般選抜では、筆記試験に加え運動能力証明書の審査を実施します。

AP1. [知識・理解・技能]

スポーツ医科学科の教育を受けるために必要な基礎学力としての知識と、健全な心身を有している。

(AP1-1) 英語、国語、地理歴史、公民、数学、理科などについて、高等学校などで身につけるべき標準的な知識を有する。

(AP1-2) 健全な心身を有している。

(AP1-3) スポーツ活動において優秀な成績を収め、入学後、勉学とスポーツ活動を両立させる強い意志を有している。

AP2. [思考力・判断力・表現力]

救急救命医療において、問題点を分析し、自ら工夫することで知能・技能を向上させる意欲を有している。

AP3. [主体性・多様性・協働性]

授業や実技において、他者と協調して真摯に取り組み、自ら進んで行動する姿勢を有している。

【入学前に身に付けておくべきこと】

1. 主に数学、理科、文書作成について、高等学校などで身につけるべき標準的な知識を有していること。
2. 自ら課題を発見し、論理的に説明できるプレゼンテーション力を補強すること。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 教育課程・内容

(1) 本学科の教育課程は、「共通教育科目」、「外国語科目」及び「専門科目」を設けています。

「共通教育科目」は、幅広く深い教養と総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、専門分野と調和・発展させることを目的として設けています。

「外国語科目」は、英語や他の言語を学び、コミュニケーション能力の充実を図ります。

「専門科目」は、幅広い分野の教育研究に触れつつ、自らの興味・関心と能力・適性等に基づいて、知識や実践力を修得するために、以下の科目群に分け体系的に科目を設けています。

- ①学部基礎科目：体育に関する基本的知識や技術を身に付けるため必修科目として設置しています。また、武道教育として「柔道」と「剣道」のどちらかを選択必修とし、文武両道の実践を体得します。
- ②学科基礎科目：スポーツ医科学科として身に付けるべき知識・技能を学修するため必修科目を設けています。
- ③専修教育科目：救急救命士資格（国家資格）取得のために必要な救急救命、救急医学等専門的な医学知識を修得する科目を設けており、すべて必修科目に設定しています。
- ④体育専門教育科目：体育学に関する科目や体育実習に関する選択科目を設置しています。

- ⑤関連教育科目：消防官等の公務員採用試験対策として個人面接指導を行うなどの就職関連領域を学修し、就職に役立つ幅広い視野や知識を身に付ける科目を設けています。
- (2) 救急救命士として必要な技術や判断能力及び医療現場での実践力を修得する実習科目を多く設置しています。また、幅広い視野を持つために海外演習も選択科目として設けています。
- (3) 初年度に学部基礎科目の必修科目として宿泊を伴う「水泳・水難救助実習」を設けることで、スムーズな大学生活への導入を促進し、自立的で自主的な学習態度や社会に適応するためのコミュニケーション能力を併せて獲得出来るように設定しています。

2. 教育方法

- (1) 講義、実験・実習・実技や体験学習とバランスよく組み合わせて学修成果を高めます。
- (2) 専門科目は、実際の医療現場での実践力を修得するために、グループワークやPBLなど積極的に導入し、学内外での実習を多く実施します。
- (3) 専門知識と技術を有した実習助手やティーチング・アシスタント (TA) を活用した実習支援により、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた実習授業を行います。
- (4) 「卒業研究1・2」によって、救急救命士国家試験対策や消防官等の就職対策など卒業後の進路を見据えた専門知識・技能の定着を図ります。

3. 学修成果の評価

- (1) 各授業科目については、到達目標や成績評価の基準と具体的評価方法をシラバスに明示して学生に周知したうえで、公正で厳格な成績評価を実施します。
- (2) 学生の4年間の学修成果は、必修の「卒業研究」を基に総合的評価を行います。

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

スポーツ医科学科は、救急救命士の国家試験合格相当の素養を備え、所定の課程を経て所定の単位を修め、必修科目履修等の条件を満たすことで、次の資質・能力を有しているとして卒業を認定し、学士(スポーツ医科学)の学位を授与します。

- DP1. 高い教養と病院前救急医療を中心とした救急救命士として必要とされる専門的な知見や総合的な救急・救命処置技術を実践する能力を身に付け、学修成果を状況に応じて誠意を持って活用する姿勢を有している。
- DP2. 修得した知識・技能をもとに、論理的に考える力や自らの考えを他者に理解させる力を活用して、人間関係を構築する能力を有している。
- DP3. 救急医学・救急医療の高度化や社会情勢の変化に関心をもち、地域社会に貢献するために、高い倫理感と生涯学び続ける意欲を有している。
- DP4. 救急医療をはじめとする各種領域における諸問題に対して、学修した知識・技能をもとに、他者を尊び、他者と協調して、解決に取り組む姿勢を有している。

スポーツ医科学科課程要項

I. 学 位

1. 体育学部スポーツ医科学科において、4年以上在学し履修要件を満たし124単位以上を修得したものを卒業とし、学士（スポーツ医科学）の学位を与える。
2. 学位を取得するには、全期間の単位数（卒業所要単位および科目区分）に従って履修する。
単位構成は、全学共通教育科目（共通教育科目、外国語科目）、専門科目（学部基礎科目、学科基礎教育科目、専修教育科目、体育専門教育科目、関連教育科目）からなり、年次ごとにそれぞれ修得する。

II. カリキュラム設定の趣旨

21世紀における救急医療体制の一端を担い、急速に進歩する救急医学・救急医療の高度な専門知識と幅広い教養を身につけ、また、強健な体力と精神力を備えた、指導的な役割を担いうる人材の養成を目的として編成されている。

III. 科目構成

1. 授業科目の構成と卒業所要単位

スポーツ医科学科授業科目の構成と卒業所要単位は以下の表のとおりである。
2年生から3年生への進級に必要な単位数は50単位とする。

全学共通教育科目		専 門 科 目				
共通教育科目	外国語科目	学部基礎科目	学科基礎教育科目	専修教育科目	体育専門教育科目	関連教育科目
12単位	4単位	21単位	23単位	64単位	0単位	0単位
16単位		108単位				
卒業所要単位 124単位						

2. 履修上限単位数

1年次	2年次	3年次	4年次
48単位	48単位	48単位	48単位

3. 履修編成

スポーツ医科学科の教育課程は、基礎分野としての共通教育科目、外国語科目、学部基礎科目、専門分野としての学科基礎教育科目、専修教育科目、体育専門教育科目及び関連教育科目により編成し、幅広い教養と救急医学・医療、災害救助、災害医学・医療及び健康に関する科目を累積的・段階的に学修が出来るように編成されている。

4. スポーツ医科学科 履修科目一覧表

科目区分		必修・選択	履 修
全学 共通教育科目	共通教育科目	必修	※○AIとサイエンス(2)、国土館を知る (建学の精神と教育理念)(2)
		選択	国土館を語る (継承する精神文化の探究) (2)、国土館ゼミ(1)、防災リーダー養成論(2)、防災リーダー養成日本の文学(2)、経済のしくみ(2)、アジアの歴史と文化(2)、イスラムの歴史と文化(2)、文化と人間(2)、変動する地球(2)、データサイエンス基礎(2)、データエンジニアリング基礎(2)、AI基礎(2)、AI基礎演習(1)、ボランティア実践Ⅲ(1)、ボランティア実践Ⅳ(1)、インターンシップ(2)
		選択 (留学生対象)	日本の歩み(2)、日本の自然環境(2)
	外国語科目	必修	※○英語 1 (1)、※○英語 2 (1)
		選択	ドイツ語 1 (1)、ドイツ語 2 (1)、フランス語 1 (1)、フランス語 2 (1)、中国語 1 (1)、中国語 2 (1)、
		選択 (留学生対象)	日本語リーディング1(1)、日本語リーディング2(1)、日本語ライティング1(1)、時事日本語2(1)、ビジネス日本語1(1)、ビジネス日本語2(1)、日本語スキルアップ1(1)、
専 門 科 目	学部基礎科目	必修	※体育原理(2)、※○生理学 (遺伝学を含む) (2)、○基礎解剖学(2)、※運動生理学(2)、医療英語(2)、《体育方法学・実習》 ※体操(集団行動を含む)Ⅰ(1)、※体操(集団行動を含む)Ⅱ(1)、水泳・水難救助(1)、
		選択	《体育方法学・実習》※○柔道Ⅰ(1)、※○柔道Ⅱ(1)、※○剣道Ⅰ(1)、
	学科基礎教育科目	必修	病院前医療概論(2)、自然科学(生物系A)(2)、薬理学(2)、病理学(2)、○生化学・微生物学(免疫学を現場救急活動概論(搬送技術含む)(2)、※○衛生学・公衆衛生学(2)、救急医療行政(関係法令を含む)(1)、
		選択	自然科学(生物系B)(2)、物理学の基礎(2)
	専修教育科目	必修	《講義科目》 救急救命処置概論(2)、臨床解剖学(2)、救急病態生理学(2)、 疾病救急医学各論2(消化器・内分泌・代謝)(2)、 疾病救急医学各論4(神経・脳神経外科・口腔外科)(2)、 小児科学(2)、外傷学(4)、救急医学(2)、災害医学(中毒学含む)(2)、プレコーション概論・各論(2)、 急性中毒学・環境障害(2)
			《実習科目》 救助実習(初期救助)(2)、救急救命処置実習1(6)、救急救命処置実習2(6)、救急救命処置実習3(6)、
体育専門教育科目	選択	※体育経営管理(2)、※スポーツ心理学(2)、※体力測定・評価(2) 《体育方法学・実習》 ※器械運動(1)、※陸上競技(1)、※ダンス(1)、※水泳(1)、※バスケットボール(1)、 ※ラグビー(1)、※ソフトボール(1)、野外教育・水難救助河川(1)	
関連教育科目	選択	手話演習(2)、○栄養学(2)、○健康教育学(2)、○予防医学(2)、○養護概説(2)、○養護教職論(2)、 ※○学校保健(2)、キャリアアップ実践講座(2)、コミュニケーション演習Ⅰ(1)、	
随意科目	選択	災害とドローン(1)、アスレティック・トレーニング概論(2)、※防災と教育(2)	
卒業所要単位	共通教育科目12単位＋外国語科目4単位＋学部基礎科目21単位＋学科基礎教育科目23単位＋専修教育科目64単位		
備考	<p>1. ※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。</p> <p>2. ○印は、養護教員免許状取得に関連する科目を表す。</p> <p>3. ()内は、単位数を表す。</p> <p>4. 各種資格取得科目の履修については、便覧で示す科目をそれぞれに応じて選択履修する。</p>		

科 目	卒業所要単位数	
	4単位	
論実習(2)、社会人基礎スキル(2)、哲学と現代(2)、人間と倫理(2)、人生と教育(2)、からだと心のつながり(2)、 ※○日本国憲法(2)、人と宇宙(2)、数学(多変数関数の微積分)(2)、統計学入門(2)、確率論入門(2)、 データリテラシー(2)、※○コンピュータリテラシー(2)、ボランティア実践I(1)、ボランティア実践II(1)、	8単位	12単位
韓国語1(1)、韓国語2(1) [同一言語1・2を2単位以上選択履修する]	2単位	4単位
日本語ライティング2(1)、日本語スピーキング1(1)、日本語スピーキング2(1)、時事日本語1(1)、 日本語スキルアップ2(1)	2単位	
卒業研究1(2)、卒業研究2(2)	19単位	21単位
水難救助・プール(1)、※野外教育・遭難救助(1) ※○剣道II(1) [同一種目I・IIを2単位選択履修する]	2単位	
含む(2)、○介護・看護学概論(2)、救助概論(2)、 総合リテラシー(2)	21単位	23単位
	2単位	
疾病救急医学各論1(呼吸・循環・高齢者)(2)、 疾病救急医学各論3(腎泌尿系・血管血液系・感染症・皮膚)(2)、 疾病救急医学各論5(産婦人科・耳鼻咽喉科・整形外科・眼科)(2)、 救急症候学(4)、蘇生学(2)、精神医学(1)、	37単位	64単位
病院内実習(2)、救急車同乗実習(1)、総合シミュレーション実習(4)	27単位	
※ハンドボール(1)、※バレーボール(1)、※サッカー(1)、	0単位	
スポーツ医学(2)、救急処置実習E(海外実習)(1)、○精神衛生学(2)、 コミュニケーション演習II(1)、救急救命処置技術・演習(病院内演習)(1)	0単位	
	0単位	
+体育専門教育科目0単位+関連教育科目0単位	124単位	

IV. 履修内容

1. 共通教育科目

所要単位数 12 単位

共通教育科目は、幅広く深い教養及び総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、専門分野と調和・発展させる科目である。

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数	
			必修	選択		
共通教育科目	国土館を知る（建学の精神と教育理念）	1	2			
	※○A Iとサイエンス	1	2			
	国土館を語る（継承する精神文化の探究）	1		2		
	国土館ゼミ	1～4		1		
	防災リーダー養成論	1～4		2		
	防災リーダー養成論実習	1～4		2		
	社会人基礎スキル	2～4		2		
	哲学と現代	1～4		2		
	人間と倫理	1～4		2		
	人生と教育	1～4		2		
	からだと心のつながり	1～4		2		
	日本の文学	1～4		2		
	経済のしくみ	1～4		2		
	アジアの歴史と文化	1～4		2		
	イスラムの歴史と文化	1～4		2		
	文化と人間	1～4		2		
	※○日本国憲法	1～4		2		
	人と宇宙	1～4		2		
	数学（多変数関数の微積分）	1～4		2		
	統計学入門	1～4		2		
	確率論入門	1～4		2		
	変動する地球	1～4		2		
	データサイエンス基礎	1～4		2		
	データエンジニアリング基礎	1～4		2		
	A I 基礎	1～4		2		
	A I 基礎演習	2～4		1		
	データリテラシー	1～4		2		
	※○コンピュータリテラシー	1～4		2		
	対象科目	日本の歩み	1～4		2	
		日本の自然環境	1～4		2	
	科単位認定	ボランティア実践Ⅰ	1～4		1	
		ボランティア実践Ⅱ	1～4		1	
ボランティア実践Ⅲ		1～4		1		
ボランティア実践Ⅳ		1～4		1		
インターンシップ		1～4		2		
共通教育科目 卒業所要単位 12単位		合計			単位	

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

○印は、養護教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

- ・留学生対象科目について
学則第44条により必要があると認めるときは、履修することができる。
- ・単位認定科目について

1. 「ボランティア実践Ⅰ～Ⅳ」

【条件】

大学が組織的取組として参加を認めた活動（例：「災害ボランティア」など）または学部が参加を認めた活動に参加すること。また、活動時間が関連活動を含めて45時間以上であること。

【注意事項】

認定できる単位数は年間1単位までとする。

活動時間は1つのボランティア活動における時間数となり、複数の活動を合計することはできない。

活動期間が当年度4月から1月末までの活動は当年度中の申請を行うこととし、遡っての認定は認めない。なお、活動の終了時期が当年度2月から3月末になる場合は次年度に申請を行うこと。

【申請方法】

体育学部事務課からの案内に従い、各期の指定期日までに単位認定の申請をすること。

2. 「インターンシップ」

【条件】

キャリア形成支援センター主催の「インターンシップ」に参加し、下記の条件を満たすこと。

- ・キャリア形成支援センターが指定する事前学習（マナー講座等）及び成果発表会にすべて出席していること。（事前にキャリア形成支援センターに申し出て、欠席している場合には考慮する場合がある。）
- ・「研修日誌」及び「報告書」を提出済みであること。
- ・インターンシップ先より提出される「総合評価表」の各項目の評価がすべてA～C評価であること。

【注意事項】

単位認定は参加年度の秋期のみとなる。参加年度の秋期に認定する。参加した翌年度以降に遡って単位認定は行わない。

【申請方法】

体育学部事務課からの案内に従い、秋期の指定期日までに単位認定の申請をすること。

- ・他キャンパス開講科目について

以下の授業科目（共通教育科目）は他キャンパスにおける開講科目である。（年度により異なる）

文章表現の基礎、現代の論理、宗教と人生、心の理解と対応、世界の名作、中国の古典を読む、現代の政治、社会と人間、法と社会、日本の歴史と文化、ヨーロッパの歴史と文化、アメリカの歴史と文化、アフリカの歴史と文化、地理と人間生活、仕事と社会、保育理論、ジェンダーと社会、現代社会論、持続可能な社会と生活、グローバル社会を学ぶ、数学入門、数学（線形代数）、数学（微分積分）、生物とその進化を探る、人間と地球環境、コンピュータネットワーク、プログラミング基礎、Webデザインの基礎、栽培、基礎物理学、物理学、スポーツと人体、スポーツと社会、書の世界、アニメの世界、日本の伝統芸能、芸術の世界、英語で学ぶ教養、ドイツ語で学ぶ教養、フランス語で学ぶ教養、中国語で学ぶ教養、韓国語で学ぶ教養、総合講座（世田谷6大学コンソーシアム連携授業科目）【留学生対象科目】
日本の国際化

2. 外国語科目

所要単位数 4 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数	
			必修	選択		
外国語科目	※○英語 1	1	1			
	※○英語 2	1	1			
	ドイツ語 1	①	2			1
	ドイツ語 2		2			1
	フランス語 1	②	2			1
	フランス語 2		2			1
	中国語 1	③	2			1
	中国語 2		2			1
	韓国語 1	④	2			1
	韓国語 2		2			1
	海外演習 1		1~4			2
	オンライン海外演習 1		1~4			1
	留学生対象科目	日本語リーディング 1	1	1		
		日本語リーディング 2	1	1		
日本語ライティング 1		1	1			
日本語ライティング 2		1	1			
日本語スピーキング 1		1~4		1		
日本語スピーキング 2		1~4		1		
時事日本語 1		2~4		1		
時事日本語 2		2~4		1		
ビジネス日本語 1		2~4		1		
ビジネス日本語 2		2~4		1		
日本語スキルアップ 1		2~4		1		
日本語スキルアップ 2		2~4		1		
外国語科目 卒業所要単位数		4 単位		合計	単位	

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。(教職課程履修要項参照)

○印は、養護教員免許状取得に関連する科目を表す。(教職課程履修要項参照)

・海外演習について

- ・国際交流センターが実施する「海外研修」に参加し、所定の成績を修めることにより単位を認定する。
(「海外演習」の単位は共通教育科目として取り扱う)
- ・学年が異なれば、複数回履修し、その都度単位を取得できる。その際、科目名は単位を取得した研修の回数に応じて「海外演習 1 (○○語)」「海外演習 2 (○○語)」というように順に番号が付される。
- ・春季に実施される研修は、4 年次には卒業所要単位として認定されない。
- ・研修の詳細については、国際交流センターに問い合わせる。

・オンライン海外演習について

- ・国際交流センターが実施する「オンライン短期研修プログラム」を受講し所定の単位を修めることで、「オンライン海外演習」として認定される。
(「オンライン海外演習」の単位は共通教育科目として取り扱う)
- ・研修の詳細については、国際交流センターに問い合わせる。

・留学生対象科目について

学則第 44 条により必要があると認めるときは、履修することができる。

3. 学部基礎科目

所要単位数 21 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
学部基礎科目	※ 体育原理	1	2		
	○基礎解剖学	1	2		
	※○生理学（遺伝学を含む）	1	2		
	※ 運動生理学	2	2		
	医療英語	2	2		
	※ 体育方法学・実習（体操（集団行動を含む））Ⅰ	1	1		
	※ 体育方法学・実習（体操（集団行動を含む））Ⅱ	1	1		
	※○体育方法学・実習（柔道）Ⅰ	①	1	1	
	※○体育方法学・実習（柔道）Ⅱ				
	※○体育方法学・実習（剣道）Ⅰ	②	1	1	
	※○体育方法学・実習（剣道）Ⅱ				
	体育方法学・実習（水難救助・プール）	1	1		
	※ 体育方法学・実習（野外教育・遭難救助）	2	1		
	※ 体育方法学・実習（水泳・水難救助）	1	1		
	卒業研究 1	3	2		
卒業研究 2	4	2			
学部基礎科目 卒業所要単位 21 単位			合計	単位	

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

○印は、養護教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

・体育方法学・実習（水泳・水難救助）について

体育方法学・実習（水泳・水難救助）は 1 単位 45 時間を必修とし、野外教育での実践を通して集団生活における人間関係の在り方をはじめ、海における水難救助法の実習を行う。

4. 学科基礎教育科目

所要単位数 23 単位

学科基礎教育科目は専門科目を履修するための基礎科目である。

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
学科基礎教育科目	病院前医療概論	1	2		
	自然科学（生物系A）	1	2		
	自然科学（生物系B）	1～3	1～3	2	
	物理学の基礎				
	薬理学	1	2		
	病理学	1	2		
	○生化学・微生物学（免疫学を含む）	1	2		
	救助概論	1	2		
	現場救急活動概論（搬送技術含む）	2	2		
	総合リテラシー	2	2		
	○介護・看護学概論	3	2		
	※○衛生学・公衆衛生学	3	2		
	救急医療行政（関係法令を含む）	4	1		
学科基礎教育科目 卒業所要単位 23 単位			合計	単位	

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

○印は、養護教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

5. 専修教育科目

所要単位数 64 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
専修教育科目	救急救命処置概論	1	2		
	臨床解剖学	3	2		
	救急病態生理学	2	2		
	疾病救急医学各論1 (呼吸・循環・高齢者)	2	2		
	疾病救急医学各論2 (消化器・内分泌・代謝)	2	2		
	疾病救急医学各論3 (腎泌尿系・血管血液系・感染症・皮膚)	2	2		
	疾病救急医学各論4 (神経・脳神経外科・口腔外科)	2	2		
	疾病救急医学各論5 (産婦人科・耳鼻咽喉科・整形外科・眼科)	3	2		
	外傷学	3	4		
	※ 小児科学	2	2		
	※ 救急医学	4	2		
	プレコーション概論・各論	3	2		
	災害医学 (中毒学を含む)	3	2		
	救急症候学	4	4		
	蘇生学	4	2		
	※ 精神医学	4	1		
	急性中毒学・環境障害	4	2		
	救助実習 (初期救助)	1	2		
	※○ 救急救命処置実習1	1	6		
	※○ 救急救命処置実習2	2	6		
※○ 救急救命処置実習3	3	6			
病院内実習	3	2			
○ 救急車同乗実習	3	1			
総合シミュレーション実習	4	4			
専修教育科目 卒業所要単位 64単位		合計			単位

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。(教職課程履修要項参照)

○印は、養護教員免許状取得に関連する科目を表す。(教職課程履修要項参照)

・救急処置実習の区分と実習内容

- ① 救急処置実習は、学内で行われる実習 (救急救命処置実習 1・2・3、総合シミュレーション実習) と、学外で行われる病院内実習、救急車同乗実習がある。
- ② 学内で行われる実習は、原則として、6～7名で班を編成し、12班1クラスとする。
- ③ 第1年次における実習…救急救命士としての基本的なバイタルサインなどの観察及び処置要領のスキル獲得を目的として、関連講義も含めて6単位 135時間の実技実習を行う。
- ④ 第2年次における実習…1年次に獲得したスキルを用いたシミュレーション想定訓練及び、救急車同乗実習に必要なスキル獲得を目的として、関連講義も含めて6単位 135時間の実技実習を行う。
- ⑤ 第3年次における実習…学内実習は救急救命処置特定行為のスキル獲得及びシミュレーション想定訓練を関連講義も含めて6単位 135時間の実技実習を行う。
 イ. 病院内実習は、救急救命センター等の医療機関で、原則として2名を1班として、当該医療機関の指導医師のもとで8当直 192時間の実習を行う。
 ロ. 救急車同乗実習は、実際に救急現場で活動する消防機関の救急車に同乗して、当該消防機関の救急隊長の指導のもとで5日間 40時間の実習を行う。
- ⑥ 第4年次における実習…実際の救急現場で発生した事例を、想定課題として提示し、各班において創対応要領について検討・発表するシミュレーション想定訓練を4単位 90時間の実技実習を行う。

6. 体育専門教育科目

所要単位数 0 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
体育専門教育科目	※ 体育経営管理	1		2	
	※ スポーツ心理学	2		2	
	※ 体力測定・評価	3		2	
	※ 体育方法学・実習（器械運動）	1		1	
	※ 体育方法学・実習（陸上競技）	1		1	
	※ 体育方法学・実習（ダンス）	1		1	
	※ 体育方法学・実習（水泳）	1		1	
	※ 体育方法学・実習（バスケットボール）	1		1	
	※ 体育方法学・実習（ハンドボール）	1		1	
	※ 体育方法学・実習（バレーボール）	1		1	
	※ 体育方法学・実習（サッカー）	1		1	
	※ 体育方法学・実習（ラグビー）	1		1	
	※ 体育方法学・実習（ソフトボール）	1		1	
	※ 体育方法学・実習（野外教育・水難救助河川）	2~4		1	
体育専門教育科目 卒業所要単位数 0 単位		合計			単位

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

・体育方法学・実習（水難救助・プール）、体育方法学・実習（野外教育・遭難救助）について

体育方法学・実習（水難救助・プール）は1単位45時間を必修とし、野外教育での実践を通して集団生活における人間関係の在り方をはじめ、海における水難救助法の実習を行う。同じく（野外教育・遭難救助）は、1単位45時間を必修とし、野外教育での実践を通して集団生活における人間関係の在り方をはじめ、冬山における遭難救助法の実習を行う。

7. 関連教育科目

所要単位数 0 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
関連教育科目	手話演習	1		2	
	○栄養学	1		2	
	○健康教育学	2		2	
	○予防医学	2		2	
	○養護概説	2		2	
	○養護教職論	2		2	
	スポーツ医学	2		2	
	救急処置実習E（海外実習）	2・3		1	
	○精神衛生学	3		2	
	※○学校保健	3		2	
	キャリアアップ実践講座	3		2	
	コミュニケーション演習Ⅰ	3		1	
	コミュニケーション演習Ⅱ	4		1	
	救急救命処置技術・演習（病院内演習）	3～4		1	
関連教育科目 卒業所要単位数 0 単位		合計			単位

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

○印は、養護教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

8. 随意科目

所要単位数 0 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
随意科目	災害とドローン	1～4		1	
	アスレティック・トレーニング概論	1～4		2	
	[教職科目]				
	※防災と教育	1～4		2	
随意科目 卒業所要単位数 0 単位		合計			単位

V. 卒業後の方向

卒業生の進路としては、救急救命士の資格をもって、消防官、警察官、養護教諭、保健体育教諭、市役所、病院等の医療機関、養護高齢者施設、商業スポーツ施設や地域スポーツ施設、サービス業、青年海外協力隊等の道が開かれている。

■ 卒業までに取得できる国家試験受験資格及びその他の資格

救急救命士国家試験受験資格 (卒業時国家試験受験資格取得可能)	教員免許状資格取得 養護教諭 1 種 保健体育 高等学校 1 種・中学校 1 種 (卒業時資格取得可能) ※「教職課程履修要項」を参照
防災士 (受験資格)	UAS LEVEL2 指定科目の試験合格により認定

こどもスポーツ教育学科

こどもスポーツ教育学科の教育研究上の目的・教育方針	66
こどもスポーツ教育学科の3つのポリシー	67
こどもスポーツ教育学科課程要項	
I. 学 位	69
II. カリキュラム設定の趣旨	69
III. 科目構成	69
1. 授業科目の構成と卒業所要単位	69
2. 履修上限単位数	69
3. 履修編成	69
4. こどもスポーツ教育学科 履修科目一覧表	70
IV. 履修内容	72
1. 共通教育科目	72
2. 外国語科目	74
3. 学部基礎科目	75
4. 学科基礎教育科目	75
5. 体育専門教育科目	76
6. 専修教育科目	77
7. 関連教育科目	77
8. 随意科目	78
V. 卒業後の方向	78
VI. こどもスポーツ教育学科教育実習及び介護等体験参加条件	78

こどもスポーツ教育学科の教育研究上の目的

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新などにより、社会構造は急速に変化し、予測が困難な時代となっている。このような時代にあって、子どもたちには多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが望まれている。加えて、いじめや不登校の問題、自己肯定感の低下や無気力化などの子どもたちをめぐる問題も複雑化しており、これらの課題や問題に対応できる教育者の育成が求められている。

そこで、こどもスポーツ教育学科では、さまざまな体育・スポーツ活動を通して健やかな心身を身に付け、主に小学校の教育者としての高い専門性と具体的な教育実践力を備えた優れた教員の育成を目指し、次の点を具体的な目的とする。

1. 高いレベルの専門性を有し、各教科等における先進的な研究を追究する。
2. 武道の精神を身に付けるとともにコミュニケーション能力に優れた豊かな人間性を確立する。
3. 様々な教育課題へ適切に対応できる教育実践力を育成する。
4. 体育・スポーツを通じた学校づくりや地域づくりに貢献できる資質を養う。

こどもスポーツ教育学科の教育方針

こどもスポーツ教育学科では、高い専門性と優れた実践力を兼ね備えた小学校教員を主に養成するために次のような教育方針を掲げる。

1. 小学校の各教科等の先進的な教育に取り組むことができる教員を養成するために、高い専門性と具体的な実践力を養う。
2. 国土館の伝統である武道の精神を取り入れ、柔道・剣道等を通じて、礼節の大切さや自己を抑制し相手を尊重するなどの精神面での教育に結びつくことを体得する。
3. 先進的で実践的な指導力を育成するために、教科教育法等の様々な授業において、模擬授業や情報化の進展に対応した ICT を活用する授業を体験する。
4. 「小学校英語」を必修とし、小学校での外国語活動（主に「英語」）の指導ができる指導力を身に付ける。
5. 臨海・キャンプ、スキーなど自然の中での集団生活や集団活動を通じて、感性や創造力などを磨き、幅広い教育者を育成する。

こどもスポーツ教育学科の3つのポリシー

◆ 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

こどもスポーツ教育学科では、将来の教員志望者やスポーツを基盤とした総合教育の分野に進みたいと願う情熱と協調性に富んだ学生を受け入れます。

また、このような入学者を適正に判定するために、次に掲げるような観点から多様な方法による入学者選抜を実施します。一般選抜では筆記試験に加え、運動能力証明書の審査（前期）、基本的運動技能についての実技試験（後期）があります。

AP1. [知識・理解・技能]

こどもスポーツ教育学科の教育を受けるために必要な基礎学力としての知識と、優れた体育実技能力を有している。

(AP1-1) 国語、数学、地理歴史、公民、理科、英語などについて、高等学校などで身につけるべき標準的な知識を有している。

(AP1-2) 優れた体育実技能力を有している。

(AP1-3) スポーツ活動において優秀な成績を収め、入学後、スポーツ活動を継続する意欲と卒業条件を達成する強い意志を有している。

AP2. [思考力・判断力・表現力]

体育・スポーツ・初等教育および中等教育において、問題点を分析するとともに、自ら工夫することで知能・技能を向上させる意欲を有している。

AP3. [主体性・多様性・協働性]

授業や実技において、他者と協調して真摯に取り組み、自ら進んで行動する姿勢を有している。

【入学前に身に付けておくべきこと】

1. 国語、数学、地理歴史、公民、理科、英語について、高等学校などで身に付けるべき標準的な知識を有していること。
2. 自ら課題を発見し、論理的に説明できるプレゼンテーション力を補強すること。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 教育課程・内容

(1) 幅広く深い教養と総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、専門分野と調和・発展させることを目的とした「共通教育科目」を設けています。

(2) 「外国語科目」を設け、英語や他の言語を学び、コミュニケーション能力の充実を図ります。

また、小学校での「外国語活動」および「外国語科」の指導力を身に付けることに特化した科目を設置しています。

(3) 「専門科目」では、小学校教諭、中学校・高等学校保健体育科教諭の免許取得を目指した専門教育を行うため、以下の科目群に分け体系的に科目を設けています。

- ①学部基礎科目: 体育に関する基本的知識や技術を身に付けるため必修科目として設置しています。また、武道教育として「柔道」と「剣道」のどちらかを選択必修とし、文武両道の実践を体得して、武道の精

神と技能を身に付けます。

- ②学科基礎科目：こどもスポーツ教育学科として身に付けるべき知識・技能を学修するため必修科目を設けています。
- ③専修教育科目・関連教育科目：小学校の各教科等で必要な専門知識や技能と指導力を身に付けるための科目を設けており、すべて必修科目に設定しています。
- ④体育専門教育科目：体育・スポーツの専門的な知識・技能と指導力を身に付ける科目を設置しています。

2. 教育方法

- (1) 講義、実験・実習・実技、体験学習などをバランスよく組み合わせて学修成果を高めます。
- (2) 専門科目では、高い専門性とすぐれた実践力を兼ね揃えた学校教員を目指すため、実習や模擬授業等の実践的な授業を行います。
- (3) 4年間で学んできたことを「卒業研究」でまとめるとともに、卒業後の進路を見据えた専門知識・技能の定着を図ります。

3. 学修成果の評価

- (1) 各授業科目の評価は、到達目標や成績評価の基準と具体的評価方法をシラバスに明示し、学生に周知したうえで、公正で厳格な成績評価を実施します。
- (2) 4年間の学修成果は、必修の「卒業研究」によってまとめ、提出された卒業論文・レポート等をもとに総合的な評価を行います。

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

こどもスポーツ教育学科では、体育学の素養を備え、所定の課程を経て所定の単位を修め、必修科目履修等の条件を満たすことで、次の資質・能力を有するとして卒業を認定し、学士（体育学）の学位を授与します。

- DP1. 初等教育の広範に亘る知識・技能、中等教育（保健体育科）の専門的な知識・技能、そして教員として活躍するための幅広い教養を身に付け、状況に応じて誠意を持って学修成果を活用する姿勢を有している。
- DP2. 修得した知識・技能をもとに、論理的に考える力や自らの考えを他者に理解させる力を活用することで、初等教育および中等教育（保健体育科）における高い指導力と様々な教育課題へ適切に対応できる教育実践力を有している。
- DP3. 初等教育および中等教育（保健体育科）に関心を持って生涯学び続け、自らを高めようとする姿勢と、その学びを活かして主体的に社会に貢献しようとする意欲を持っている。
- DP4. スポーツと教育についての学びを通して、コミュニケーション能力に優れた豊かな人間性を養い、多様性を尊重し、他者と協調して教育実践における問題解決に取り組む姿勢を身に付けている。

こどもスポーツ教育学科課程要項

I. 学 位

1. 体育学部こどもスポーツ教育学科において、4 ヶ年以上在学し履修要件を満たし124単位以上を修得したものを卒業とし、学士（体育学）の学位を与える。
2. 学位を取得するには、全期間の単位数（卒業所要単位および科目区分）に従って履修する。
 単位構成は、全学共通教育科目（共通教育科目、外国語科目）、専門科目（学部基礎科目、学科基礎教育科目、体育専門教育科目、専修教育科目、関連教育科目）からなり、年次ごとにそれぞれ修得する。

II. カリキュラム設定の趣旨

小学校教員及び体育・保健体育担当教員は、体育・保健体育の教科指導を担当するにとどまらず、学校における体育や保健に関する指導の意義を十分に認識した上で、様々な指導が学校の教育活動全体を通じて適切に行われるよう積極的にその役割を果たす必要がある。児童生徒の規範意識は、生徒指導、教科指導、道徳教育、特別活動及び人権教育などあらゆる教育活動の中で養われるものであり、挨拶指導をはじめ服装、集団活動、清掃等の具体的な指導を通じて、児童生徒がルールや法の重要性やそれを守ることの必要性を自覚し、遵守することによって育まれるものである。

このような指導の展開のためには、教員が児童生徒と共に生き生きとした活動を行うことが大切であり、体育、各種スポーツで培われる健康な体、人間形成を通じ小・中・高等学校において教科教育はもとより、徳育、体育の専門性の高い教員を養成することを目的とした教育課程が編成されている。

III. 科目構成

1. 授業科目の構成と卒業所要単位

こどもスポーツ教育学科授業科目の構成と卒業所要単位は以下の表のとおりである。
 2年生から3年生への進級に必要な単位数は50単位とする。

全学共通教育科目		専 門 科 目				
共通教育科目	外国語科目	学部基礎科目	学科基礎教育科目	体育専門教育科目	専修教育科目	関連教育科目
10単位	4単位	20単位	26単位	18単位	26単位	20単位
14単位		110単位				
卒業所要単位 124単位						

2. 履修上限単位数

1年次	2年次	3年次	4年次
48単位	48単位	48単位	48単位

3. 履修編成

こどもスポーツ教育学科の教育課程は、基礎分野として共通教育科目・外国語科目・学部基礎科目、専門分野として学科基礎教育科目、体育専門教育科目、専修教育科目、関連教育科目により編成し、幅広い教養と、体育・スポーツ活動、近年のこどもの発育・発達、教職に関する科目を累積的・段階的に学修できるように編成されている。

4. こどもスポーツ教育学科 履修科目一覧表

科目区分		必修・選択	履 修
全学共通教育科目	共通教育科目	必修	○※AIとサイエンス(2)、国士館を知る (建学の精神と教育理念)(2)
		選択	国士館を語る (継承する精神文化の探究) (2)、国士館ゼミ(1)、防災リーダー養成論(2)、防災リーダー養成日本の文学(2)、経済のしくみ(2)、アジアの歴史と文化(2)、イスラムの歴史と文化(2)、文化と人間(2)、変動する地球(2)、データサイエンス基礎(2)、データエンジニアリング基礎(2)、AI基礎(2)、AI基礎演習(1)、ボランティア実践Ⅲ(1)、ボランティア実践Ⅳ(1)、インターンシップ(2)
		選択 (留学生対象)	日本の歩み(2)、日本の自然環境(2)
	外国語科目	必修	○※英語 1 (1)、○※英語 2 (1)
		選択	フランス語 1 (1)、フランス語 2 (1)、韓国語 1 (1)、韓国語 2 (1)
		選択 (留学生対象)	日本語リーディング1(1)、日本語リーディング2(1)、日本語ライティング1(1)、日本語スピーキング1(1)、日本語スピーキング2(1)、時事日本語1(1)、時事日本語2(1)、ビジネス日本語2(1)、日本語スキルアップ1(1)、日本語スキルアップ2(1)
専門科目	学部基礎科目	必修	※体育原理(2)、※体力測定・評価(2)、※運動生理学(2)、小学校英語(2)、《体育方法学・実習》 ※体操(集団行動を含む)(1)、※器械運動(1)、※陸上競技(1)、※水泳(1)、※ダンス(1)
		選択	《体育方法学・実習》○※柔道Ⅰ(1)、○※柔道Ⅱ(1)、○※剣道Ⅰ(1)、
	学科基礎教育科目	必修	○※教育基礎論(2)、○※特別活動の理論と実践(小・中・高)(2)、 ○※生徒・進路指導論(小・中・高)(2)、○※教育相談(小・中・高)(2)、 ○※特別支援教育概論(小・中・高)(2)、○※教育行財政(2)、
	体育専門教育科目	必修	※スポーツ心理学(2)、※学校保健(2)、※公衆衛生学(2)、※救急処置法実習Ⅰ(1)、 《体育方法学・実習》 ※野外教育(1)、※バレーボール(1)、※ソフトボール(1)
		選択	《体育方法学・実習》 ※バスケットボール(1)、※サッカー(1)
			《こどもスポーツ》 ○体操(1)、○器械運動(1)、○陸上競技(1)、○水泳(1)、○ダンス(1)
			《こどもスポーツ》 ○バスケットボール(1)、○バレーボール(1)、○サッカー(1)、○ニュースポーツ(1)
《こどもスポーツ》 ○柔道Ⅰ(1)、○柔道Ⅱ(1)、○剣道Ⅰ(1)、○剣道Ⅱ(1) [同一種目Ⅰ・Ⅱを2単位選択履修する]			
専修教育科目	必修	○国語概論A(2)、○国語概論B(書写実習を含む)(2)、○社会科概論A(2)、 ○理科概論B(2)、○生活科概論(2)、○基礎音楽(2)、○造形Ⅰ(1)、○造形Ⅱ(1)、	
関連教育科目	必修	《教科教育法》 ○国語(2)、○社会(2)、○算数(2)、○理科(2)、○生活(2)、○音楽(2)、○図画工作(2)、	
随意科目	選択	専門実技(剣道Ⅰ)(1)、専門実技(剣道Ⅱ)(1)、専門実技(柔道)(1)、体育行事演習(1)、 教職特別講座(応用)(2)、現代的教育課題及び教職総合(2)、専門音楽(1)、専門国語(1)、 海外研修(1)、※防災と教育(2)	
卒業所要単位		共通教育科目10単位+外国語科目4単位+学部基礎科目20単位+学科基礎教育科目26単位+体育専門教育科目18単位	
備 考		1. ○印は、小学校教員免許状取得に関連する科目を表す。(教職課程履修要項参照) 2. ※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。(教職課程履修要項参照) 3. ()内は、単位数を表す。	

科 目	卒業所要単位数	
	4単位	
論実習(2)、社会人基礎スキル(2)、哲学と現代(2)、人間と倫理(2)、人生と教育(2)、からだと心のつながり(2)、 ○※日本国憲法(2)、人と宇宙(2)、数学(多変数関数の微積分)(2)、統計学入門(2)、確率論入門(2)、 データリテラシー(2)、○※コンピュータリテラシー(2)、ボランティア実践I(1)、ボランティア実践II(1)、	6単位	10単位
[同一言語1・2を2単位以上選択履修する] 日本語ライティング2(1) ビジネス日本語1(1)、	2単位	4単位
○こどもスポーツ(野外教育)(1)、卒業研究1(2)、卒業研究2(2)	18単位	20単位
○※剣道II(1)[同一種目I・IIを2単位選択履修する]	2単位	
○※道德教育の理論と実践(小・中)(2)、○※教育心理学(2)、○発達心理学(2)、○※教職論(2)、 ○※教育方法論(情報通信技術の活用を含む)(小・中・高)(2)、○※教育課程論(小・中・高)(2)、 ○※総合的な学習の時間の指導法(小・中・高)(2)	26単位	26単位
※救急処置法実習II(1)、※体育経営管理(2)	13単位	
	1単位	18単位
	1単位	
	1単位	
	2単位	
○社会科概論B(2)、○算数概論A(2)、○算数概論B(2)、○理科概論A(2)、 ○家庭科概論(2)、○英語概論(2)	26単位	26単位
○家庭(2)、○体育(2)、○英語(2)	20単位	20単位
文系数学(基礎)(2)、文系数学(応用)(2)、教職特別講座(2)、教職特別講座(基礎)(2)、 専門英語(1)、こども栄養学(2)、災害とドローン(1)、アスレティック・トレーニング概論(2)、		0単位
+専修教育科目26単位+関連教育科目20単位		124単位

IV. 履修内容

1. 共通教育科目

所要単位数 10 単位

共通教育科目は、幅広く深い教養及び総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、専門分野と調和・発展させる科目である。

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数	
			必修	選択		
共通教育科目	国土館を知る（建学の精神と教育理念）	1	2			
	○※A Iとサイエンス	1	2			
	国土館を語る（継承する精神文化の探究）	1		2		
	国土館ゼミ	1～4		1		
	防災リーダー養成論	1～4		2		
	防災リーダー養成論実習	1～4		2		
	社会人基礎スキル	2～4		2		
	哲学と現代	1～4		2		
	人間と倫理	1～4		2		
	人生と教育	1～4		2		
	からだと心のつながり	1～4		2		
	日本の文学	1～4		2		
	経済のしくみ	1～4		2		
	アジアの歴史と文化	1～4		2		
	イスラムの歴史と文化	1～4		2		
	文化と人間	1～4		2		
	○※日本国憲法	1～4		2		
	人と宇宙	1～4		2		
	数学（多変数関数の微積分）	1～4		2		
	統計学入門	1～4		2		
	確率論入門	1～4		2		
	変動する地球	1～4		2		
	データサイエンス基礎	1～4		2		
	データエンジニアリング基礎	1～4		2		
	A I 基礎	1～4		2		
	A I 基礎演習	2～4		1		
	データリテラシー	1～4		2		
	○※コンピュータリテラシー	1～4		2		
	対象科目	日本の歩み	1～4		2	
		日本の自然環境	1～4		2	
科単位認定	ボランティア実践Ⅰ	1～4		1		
	ボランティア実践Ⅱ	1～4		1		
	ボランティア実践Ⅲ	1～4		1		
	ボランティア実践Ⅳ	1～4		1		
	インターンシップ	1～4		2		
共通教育科目 卒業所要単位 10単位		合計			単位	

○印は、小学校教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

- ・留学生対象科目について
学則第 44 条により必要があると認めるときは、履修することができる。
- ・単位認定科目について

1. 「ボランティア実践 I～IV」

【条件】

大学が組織的取組として参加を認めた活動（例：「災害ボランティア」など）または学部が参加を認めた活動に参加すること。また、活動時間が関連活動を含めて 45 時間以上であること。

【注意事項】

認定できる単位数は年間 1 単位までとする。

活動時間は 1 つのボランティア活動における時間数となり、複数の活動を合計することはできない。

活動期間が当年度 4 月から 1 月末までの活動は当年度中の申請を行うこととし、遡っての認定は認めない。なお、活動の終了時期が当年度 2 月から 3 月末になる場合は次年度に申請を行うこと。

【申請方法】

体育学部事務課からの案内に従い、各期の指定期日までに単位認定の申請をすること。

2. 「インターンシップ」

【条件】

キャリア形成支援センター主催の「インターンシップ」に参加し、下記の条件を満たすこと。

- ・キャリア形成支援センターが指定する事前学習（マナー講座等）及び成果発表会にすべて出席していること。（事前にキャリア形成支援センターに申し出て、欠席している場合には考慮する場合がある。）
- ・「研修日誌」及び「報告書」を提出済みであること。
- ・インターンシップ先より提出される「総合評価表」の各項目の評価がすべて A～C 評価であること。

【注意事項】

単位認定は参加年度の秋期のみとなる。参加年度の秋期に認定する。参加した翌年度以降に遡って単位認定は行わない。

【申請方法】

体育学部事務課からの案内に従い、秋期の指定期日までに単位認定の申請をすること。

- ・他キャンパス開講科目について

以下の授業科目（共通教育科目）は他キャンパスにおける開講科目である。（年度により異なる）

文章表現の基礎、現代の論理、宗教と人生、心の理解と対応、世界の名作、中国の古典を読む、現代の政治、社会と人間、法と社会、日本の歴史と文化、ヨーロッパの歴史と文化、アメリカの歴史と文化、アフリカの歴史と文化、地理と人間生活、仕事と社会、保育理論、ジェンダーと社会、現代社会論、持続可能な社会と生活、グローバル社会を学ぶ、数学入門、数学（線形代数）、数学（微分積分）、生物とその進化を探る、人間と地球環境、コンピュータネットワーク、プログラミング基礎、Web デザインの基礎、栽培、基礎物理学、物理学、スポーツと人体、スポーツと社会、書の世界、アニメの世界、日本の伝統芸能、芸術の世界、英語で学ぶ教養、ドイツ語で学ぶ教養、フランス語で学ぶ教養、中国語で学ぶ教養、韓国語で学ぶ教養、総合講座（世田谷 6 大学コンソーシアム連携授業科目）【留学生対象科目】
日本の国際化

2. 外国語科目

所要単位数 4 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数	
			必修	選択		
外国語科目	○※英語 1	1	1			
	○※英語 2	1	1			
	フランス語 1	2		1		
	フランス語 2					
	韓国語 1	2		1		
	韓国語 2					
	海外演習 1	1~4		2		
	オンライン海外演習 1	1~4		1		
	留学生対象科目	日本語リーディング 1	1	1		
		日本語リーディング 2	1	1		
		日本語ライティング 1	1	1		
		日本語ライティング 2	1	1		
		日本語スピーキング 1	1~4		1	
		日本語スピーキング 2	1~4		1	
時事日本語 1		2~4		1		
時事日本語 2		2~4		1		
ビジネス日本語 1		2~4		1		
ビジネス日本語 2		2~4		1		
	日本語スキルアップ 1	2~4		1		
	日本語スキルアップ 2	2~4		1		
外国語科目 卒業所要単位 4 単位		合計			単位	

○印は、小学校教員免許状取得に関連する科目を表す。(教職課程履修要項参照)

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。(教職課程履修要項参照)

・海外演習について

- ・国際交流センターが実施する「海外研修」に参加し、所定の成績を修めることにより単位を認定する。
(「海外演習」の単位は共通教育科目として取り扱う)
- ・学年が異なれば、複数回履修し、その都度単位を取得できる。その際、科目名は単位を取得した研修の回数に応じて「海外演習 1 (○○語)」「海外演習 2 (○○語)」というように順に番号が付される。
- ・春季に実施される研修は、4 年次には卒業所要単位として認定されない。
- ・研修の詳細については、国際交流センターに問い合わせる。

・オンライン海外演習について

- ・国際交流センターが実施する「オンライン短期研修プログラム」を受講し所定の単位を修めることで、「オンライン海外演習」として認定される。
(「オンライン海外演習」の単位は共通教育科目として取り扱う)
- ・研修の詳細については、国際交流センターに問い合わせる。

・留学生対象科目について

学則第 44 条により必要があると認めるときは、履修することができる。

3. 学部基礎科目

所要単位数 必修 18 単位 選択 2 単位 計 20 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
学部基礎科目	※体育原理	1	2		
	※体力測定・評価	1	2		
	※運動生理学	2	2		
	小学校英語	2	2		
	※体育方法学・実習（体操（集団行動を含む））	1	1		
	※体育方法学・実習（器械運動）	1	1		
	※体育方法学・実習（陸上競技）	1	1		
	※体育方法学・実習（水泳）	1	1		
	※体育方法学・実習（ダンス）	1	1		
	○※体育方法学・実習（柔道）Ⅰ	1		1	
	○※体育方法学・実習（柔道）Ⅱ				
	○※体育方法学・実習（剣道）Ⅰ	1		1	
	○※体育方法学・実習（剣道）Ⅱ				
	○こどもスポーツ（野外教育）	1	1		
卒業研究 1	3	2			
卒業研究 2	4	2			
学部基礎科目 卒業所要単位 20単位		合計			単位

○印は、小学校教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

・卒業研究 1・2 について

卒業研究 1・2 は一貫性をもって授業が行われるため、3 年次配当の卒業研究 1 の単位が取得できなかった者は、4 年次の卒業研究 2 を履修することができなくなり留年となる。

・こどもスポーツ（野外教育）について

こどもスポーツ（野外教育）は「臨海実習」又は「キャンプ実習」のいずれかを選択して受講する。

4. 学科基礎教育科目

所要単位数 26 単位

学科基礎教育科目は専門科目を履修するための基礎科目であり、必修科目として配当されている。

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
学科基礎教育科目	○※教育基礎論	1	2		
	○※特別活動の理論と実践（小・中・高）	1	2		
	○※道德教育の理論と実践（小・中）	1	2		
	○※教育心理学	2	2		
	○発達心理学	2	2		
	○※教職論	1~2	2		
	○※生徒・進路指導論（小・中・高）	2	2		
	○※教育相談（小・中・高）	3	2		
	○※教育方法論（情報通信技術の活用を含む）（小・中・高）	2・3	2		
	○※教育課程論（小・中・高）	3	2		
	○※特別支援教育概論（小・中・高）	3	2		
	○※総合的な学習の時間の指導法（小・中・高）	3	2		
	○※教育行財政	2~4	2		
学科基礎教育科目 卒業所要単位 26単位		合計			単位

○印は、小学校教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

5. 体育専門教育科目

所要単位数 必修 13 単位 選択 5 単位 計 18 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数	
			必修	選択		
体育専門教育科目	※スポーツ心理学	3	2			
	※学校保健	4	2			
	※公衆衛生学	4	2			
	※救急処置法実習 I	4	1			
	※救急処置法実習 II	4	1			
	※体育経営管理	4	2			
	※体育方法学・実習（野外教育）	2	1			
	※体育方法学・実習（バレーボール）	2	1			
	※体育方法学・実習（ソフトボール）	2	1			
	※体育方法学・実習（バスケットボール）	1 種目 1 単位 選択履修	2		1	
	※体育方法学・実習（サッカー）		2		1	
	○ こどもスポーツ（体操）	1 種目 1 単位 選択履修	1		1	
	○ こどもスポーツ（器械運動）		1		1	
	○ こどもスポーツ（陸上競技）		1		1	
	○ こどもスポーツ（水泳）		1		1	
	○ こどもスポーツ（ダンス）		1		1	
	○ こどもスポーツ（バスケットボール）	1 種目 1 単位 選択履修	2		1	
	○ こどもスポーツ（バレーボール）		2		1	
	○ こどもスポーツ（サッカー）		2		1	
○ こどもスポーツ（ニュースポーツ）	2			1		
○ こどもスポーツ（柔道） I	①または② 選択履修	3		1		
○ こどもスポーツ（柔道） II		3		1		
○ こどもスポーツ（剣道） I		3		1		
○ こどもスポーツ（剣道） II		3		1		
体育専門教育科目 卒業所要単位 18 単位		合計			単位	

○印は、小学校教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

※印は、保健体育教員免許状取得に関連する科目を表す。（教職課程履修要項参照）

・体育方法学・実習（野外教育）について

体育方法学・実習（野外教育）は「キャンプ実習」又は「スキー実習」のいずれかを選択して受講する。

6. 専修教育科目

所要単位数 26 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
専修教育科目	○ 国語概論 A	1・2	2		
	○ 国語概論 B (書写実習を含む)	1・2	2		
	○ 社会科概論 A	1・2	2		
	○ 社会科概論 B	1・2	2		
	○ 算数概論 A	1・2	2		
	○ 算数概論 B	1・2	2		
	○ 理科概論 A	1・2	2		
	○ 理科概論 B	1・2	2		
	○ 生活科概論	1・2	2		
	○ 基礎音楽	1・2	2		
	○ 造形 1	1・2	1		
	○ 造形 2	1・2	1		
	○ 家庭科概論	1・2	2		
	○ 英語概論	1・2	2		
専修教育科目 卒業所要単位 26単位		合計			単位

○印は、小学校教員免許状取得に関連する科目を表す。(教職課程履修要項参照)

7. 関連教育科目

所要単位数 20 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
関連教育科目	○ 教科教育法 (国語)	2・3	2		
	○ 教科教育法 (社会)	2・3	2		
	○ 教科教育法 (算数)	2・3	2		
	○ 教科教育法 (理科)	2・3	2		
	○ 教科教育法 (生活)	2・3	2		
	○ 教科教育法 (音楽)	2・3	2		
	○ 教科教育法 (図画工作)	2・3	2		
	○ 教科教育法 (家庭)	2・3	2		
	○ 教科教育法 (体育)	2・3	2		
	○ 教科教育法 (英語)	2・3	2		
関連教育科目 卒業所要単位 20単位		合計			単位

○印は、小学校教員免許状取得に関連する科目を表す。(教職課程履修要項参照)

8. 随意科目

所要単位数 0 単位

区分	科目名	開講年次	単位数		取得単位数
			必修	選択	
随意科目	専門実技（剣道Ⅰ）	2		1	
	専門実技（剣道Ⅱ）	2		1	
	専門実技（柔道）	2		1	
	体育行事演習	2		1	
	文系数学（基礎）	1～4		2	
	文系数学（応用）	1～4		2	
	教職特別講座	1～3		2	
	教職特別講座（基礎）	1～3		2	
	教職特別講座（応用）	1～3		2	
	現代的教育課題及び教職総合	3		2	
	専門音楽	3		1	
	専門国語	3		1	
	専門英語	3		1	
	こども栄養学	4		2	
	災害とドローン	1～4		1	
	アスレティック・トレーニング概論	1～4		2	
	海外研修	1～4		1	
	[教職科目]				
	※防災と教育	1～4		2	
	随意科目 卒業所要単位 0 単位		合計		

V. 卒業後の方向

卒業生の進路については、以下のような場での活躍が期待できる。

- ・ 小学校教諭、中学校保健体育科教諭、高等学校保健体育科教諭
- ・ 大学院進学
- ・ 民間企業が運営しているスポーツクラブ、スポーツ振興基本計画をうけたスポーツ環境の整備充実を行っている各地方公共団体の広域スポーツセンター、総合型地域スポーツクラブなどの指導者
- ・ 地域教育スタッフ等、体育学を基盤とした総合教育での現場
- ・ 警察官や行政職等の公務員

卒業までに取得できる資格、又は修了証明書が発行される資格等

※教員免許状資格取得 保健体育 高等学校 1 種・中学校 1 種 小学校 1 種 （卒業時資格取得可能）	※学校図書館司書教諭 （卒業時資格取得可能）
防災士 （受験資格）	UAS LEVEL2 指定科目の試験合格により認定

※「教職課程履修要項」を参照

VI. こどもスポーツ教育学科教育実習及び介護等体験参加条件

こどもスポーツ教育学科では、教職課程履修要項に記載する参加条件以外にも教育実習に対する心構え、責任等を自覚させるため、教職課程受講登録から免許取得までのガイダンス参加及び提出物等を3度以上怠った場合には、教育実習及び介護等体験に参加することはできない（1回目嚴重注意、2回目勧告、3回目参加停止）こととする。

単位・履修登録・授業・試験等について

I. 単位について	80
II. 履修登録について	80
1. 履修登録の手順	80
2. 履修登録上の注意	80
3. 履修登録の辞退について	80
4. 履修登録本人控	81
5. 他学部・他学科への履修要領	81
III. 授業について	82
1. 授業時間	82
2. 出席	82
3. 欠席	82
4. 公欠	82
5. 遅刻・早退	83
6. 見学	83
7. 服装・用具	83
8. 伝達方法	84
IV. 試験について	84
1. 試験	84
2. 評価について	85
V. GPA制度について	85
VI. 科目ナンバリング・カリキュラムマトリクスについて	87
VII. 副専攻について	87

I. 単位について

1. 単位とは、1科目について行う45時間の学修活動を意味する。

学修活動は時間表に組み込まれている授業時間と、学生が行う自習時間とからなるが、その割合は科目の性質によって異なる。

- 講義：1時間の授業に対して2時間の自習時間を要するもの
 $(週2時間の授業 + 週4時間の自習) \times 半期15週 = 90時間 = 2単位$
- 演習：2時間の授業に対して1時間の自習時間を要するもの
 $(週2時間の授業 + 週1時間の自習) \times 半期15週 = 45時間 = 1単位$
- 実験・実習・体育実技：3時間の授業に対して自習時間を必要としないもの
 $(週3時間の授業) \times 半期15週 = 45時間 = 1単位$

2. 一度修得した単位は取り消すことができない。

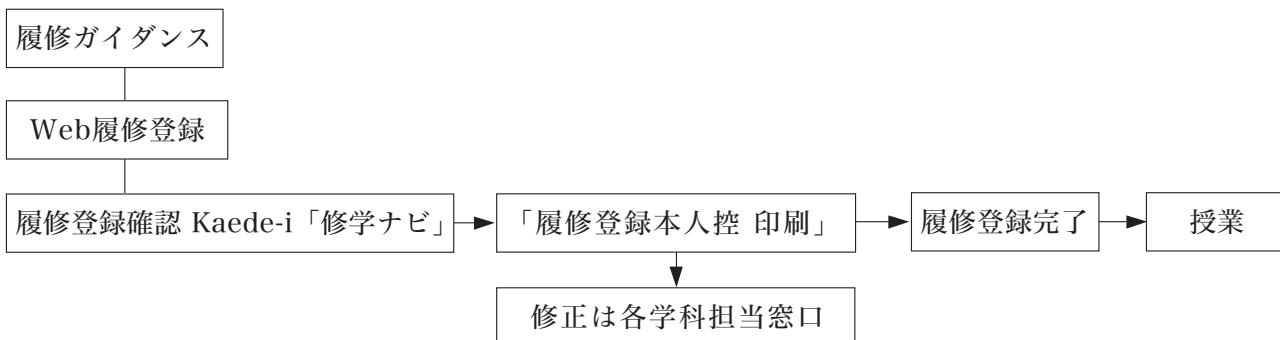
3. 1学年は、春期・秋期（各15週ずつ）に分けられており、配当される科目は、半期で完結するものと、春期・秋期の通年にわたるものがある。

II. 履修登録について

1. 履修登録の手順

学生は春・秋の年2回に履修科目を決定し、指定された期日までにWebにて履修登録を行わなければならない。間違いのない様、確実に履修登録を行うこと。

◆Web履修登録



2. 履修登録上の注意

- (1) 履修科目の選択は、1年間の勉学方針を決定し、また次年度以降における科目履修に影響するところが大きいことから、各学年の選択履修方法に従って、正しい履修科目の登録をすることが必要である。
- (2) 平成27年度から、学習意欲を高めることを目的としてGPAを導入している。受講しない科目を多数履修登録すると、GPAを著しく低下させることになるので注意すること。
 GPAの詳細については、「V.GPA制度について」(P.85)を参照。
- (3) 自己の所属する年次より上級の年次に配当されている科目を履修することはできない。
- (4) 科目の履修に関して組・班を指定することがある。
- (5) 選択科目は、各自の希望する科目を選択履修することができるが、特定の科目に履修が集中する場合には制限されることがある。

3. 履修登録の辞退について

体育学部では、自己キャリア形成上の変更等で履修することが不要になった科目がある場合は、履修登録した科目を辞退することができる。

- ・春・秋の年2回の指定された期間において、「辞退」の手続きをすること。
- ・期間内に手続きを行わずに自ら履修を放棄した場合は、評価が「不可」になり、GPAの値が下がるので注意すること。

4. 履修登録本人控

履修登録が終了した後、各自登録されている履修状況を確認する。進級・卒業に関わることなので、自身の責任においてよく確認をすること。

(例) 履修登録本人控

KAEDE-i

学部・研究科 体育学部	学科専攻 体育学科	学年 3年	学籍番号	氏名	成績年度 2023年	印刷日時
----------------	--------------	----------	------	----	---------------	------

期	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
1 通年	112016 体育・スポーツ行政学 多摩 体育 単位:2 春期 小椋 幸 112022 総合的な学習の時間の指導法 多摩 体育 単位:2 秋期 山崎 寛次	312024 運動生理学実習Ⅰ 多摩 体育 単位:1 春期 藤川 大介	312026 トレーニング論・実習Ⅱ 多摩 体育 単位:1 秋期 下塚 遼哉	412024 保健体育科指導法Ⅰ 多摩 体育 単位:2 春期 渡邊 仙二 412036 保健体育科指導法Ⅱ 多摩 体育 単位:2 秋期 下塚 遼哉	512027 スポーツ医学 多摩 体育 単位:2 春期 武井 龍良	
	122025 教育課程論 多摩 体育 単位:2 春期 藤田 和明 122029 特別支援教育概論 多摩 体育 単位:2 秋期 山田 毅	222036 トレーニング論・実習Ⅰ 多摩 体育 単位:1 春期 下塚 遼哉 222038 専門指導法(バスケットボール) 多摩 体育 単位:1 秋期 松島 良孝	322030 トレーニング論(サッカー) 多摩 体育 単位:1 春期 石川 龍太郎 322038 専門指導法(バスケットボール) 多摩 体育 単位:2 秋期 北神 正行			
3 通年	132030 専門指導法(バレーボール) 多摩 体育 単位:1 秋期 藤田 寛平	232021 体力測定評価実習Ⅰ 多摩 体育 単位:1 春期 須藤 明浩 232022 体力測定評価実習Ⅱ 多摩 体育 単位:1 秋期 須藤 明浩	332023 教育方法論(情報通信技術の活用を含む) 多摩 体育 単位:2 春期 新木 倫次	432041 健康教育学 多摩 体育 単位:2 春期 増本 達哉	532009 アスリート実習3 多摩 体育 単位:2 通年 増本 達哉 532040 教育実習Ⅰ(事前指導) 多摩 体育 単位:1 秋期 山崎 寛次	632009 アスリート実習3 多摩 体育 単位:2 通年 増本 達哉
	142022 運動処方論 多摩 体育 単位:2 春期 藤田 浩治 142024 学校保健 多摩 体育 単位:2 秋期 佐藤 百合子		342021 公衆衛生学 多摩 体育 単位:2 春期 小林 友美 342025 教育相談 多摩 体育 単位:2 秋期 齋藤 コリ		442023 エアロビクス運動理論・実習Ⅰ 多摩 体育 単位:1 春期 八木 香 442024 エアロビクス運動理論・実習Ⅱ 多摩 体育 単位:1 秋期 八木 香	542017 卒業研究1 多摩 体育 単位:2 通年 松島 良孝 542017 卒業研究1 多摩 体育 単位:2 通年 松島 良孝
5 通年	時限、科目名、教員名、開講期を確認する。					
6 通年	自分が選択した教職課程(学校図書館司書教諭含む)及び副専攻が記載されているかを確認する。					
6 秋期	自分が選択した教職課程(学校図書館司書教諭含む)及び副専攻が記載されているかを確認する。			体育学科(2年生以上)は、自分が選択したコースが記載されているかを確認する。		
受検登録教職資格	中1保健体育	高1保健体育			コース	スポーツトレーナー

期	曜	限	科目名	教員名	キャンパス	単位	メッセージ
集中			現場実習2	増本 達哉	多摩	2	エラーメッセージが表示されていないかを確認する。

管理番号	7	4	5	8	9	15	16	17	18	19	20	22	23	24	25	28	29	30
科目区分	総合教育 必修	必修	計	外国語 必修	外国語 計	学芸 必修	学芸 必修	体育 必修	体育 必修	専門 必修	選択 必修	選択 必修	選択 必修	選択 必修	卒業 単位	教職 資格	随選	合計
卒業単位	3	12	14	3	3	6	14	15	17	6	24	3	24	104	124			
随選単位	3	14	16	3	3	6	10	3	17	0	10	3	8	58	80			80
当年履	0	0	0	0	0	0	2	4	0	6	10	0	19	45	45	1	0	0
計	3	14	16	3	3	6	12	13	17	6	24	3	27	103	125	1	0	126

集中授業等、時間割上になく科目が記載されている。

履修状況(履修上限単位数を超過していないか等)、取得単位数を確認する。

単位・履修登録・試験等について

5. 他学部・他学科への履修要領

1. 他学部・他学科履修とは

他学部・他学科履修とは自分が所属する学部・学科に配当されている科目の他に、自己の学習・研究の達成度をより高めるため、他学部・他学科で開講されている科目を履修した場合、その単位が卒業所要単位として認定される制度である。

ただし、他学部・他学科で履修する理由が正当であると、体育学部が判断した場合のみ他学部履修が可能である。

2. 他学部・他学科の授業科目の確認

他学部・他学科で開講されている授業科目は、シラバス(授業計画)で確認をする。

また、学部ごとの特性によって、開放されていない科目(例:実験、実習、演習、一部の専門科目等)があるので、履修申し込み前に必ず確認をする。

3. 履修手続き

ガイダンス時等の指示に従って手続きを行うこと。

Ⅲ. 授業について

1. 授業時間

授業時間は以下のとおりとする。

時 限	1 時 限	2 時 限	3 時 限	4 時 限	5 時 限
時 間	9:00～10:30	10:45～12:15	12:55～14:25	14:40～16:10	16:25～17:55

2. 出席

体育学部では特に出席を重視しているため、規定授業数の3分の2、実技・実習は5分の4以上の出席を必要とする。

3. 欠席

学生が病気・その他、やむを得ない理由のため欠席するときは、理由を付して科目担当教員へ届け出るものとする。

4. 公欠

公欠をした場合の必要出席数は全授業数から公欠を引いた授業数の2/3以上(実技・実習は4/5以上)となる。公欠の取り扱いを受けようとする者は、所定の「公欠願」(下表参照)に必要な事項を記入し、学部事務課に確認印をもらい、担当教員に提出しなければならない。

ただし、公欠理由を教授会が特例として認めた場合はこの限りではなく、また必要に応じ補講等を行う。

例：半期開講の講義科目(授業回数15回)を3回公欠した場合

15回-3回(公欠)=12回となり、必要出席数は8回以上となる。

届出書類	公欠願(白色)	特別公欠願(青色)
公欠理由	原則として「公欠に関する取扱要領」に定められている公欠理由に該当するもの。 ・大学学部行事 ・教育実習 ・介護等体験 ・対外公式試合(リーグ戦、インカレ等) ・忌引 ・裁判員制度	原則として体育学部教授会が公欠の特例として承認したもの。 ・オリンピック出場 ・世界選手権大会出場 ・アジア大会出場 ・ユニバーシアード出場 ・ワールドカップ出場 ・団体、協会等からの派遣要請があるもの ・その他特に学部長が必要と認め、教授会にて承認されたもの

また、公欠については以下の取扱要領に従うこと。

■ 公欠に関する取扱要領

- 次の各号のいずれかに該当する理由により学生が授業を欠席する場合は、公欠願(別紙様式)で願い出るものとし、これを公欠として取扱う。
 - 大学及び学部の要請により、大学及び学部の行事あるいはその他の行事に参加する場合
 - 教育実習・介護等体験等を含む学外実習(実習地への移動に必要な日数を含む)に参加する場合
 - 対外公式試合及びコンクール等に登録出場者として出場する場合

- 学生の親族が死亡した場合

忌引基準	配偶者	10日
(日祭日を 含む連続 した日数)	父母・子	7日
	祖父母	3日
	兄弟姉妹	3日
	伯(叔)父・伯(叔)母	1日
	曾祖父母	3日

ただし、該当親族が遠隔地に在住し、当該地域において葬儀等を執り行う場合は、移動に必要な日数を加えることができる。

- 裁判員制度によって従事した場合
- その他特に学部長が必要と認めた場合

- 2 公欠はこれを欠席として取扱う。ただし、公欠と認められた学生は、公欠時に行われた試験、実験、実習等に対する配慮を受けることができる。 附則
この要領は平成 5 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 運用上必要な細部事項は、学部が定めるものとする。 附則
この要領は平成 17 年 4 月 1 日から施行する。
附則
この要領は平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
附則
この要領は平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

5. 遅刻・早退

遅刻した者で、正当な理由がある者は「遅刻届」を担当教員に提出し、許可を得て授業を受講するものとする。早退する者は、科目担当教員の許可を得なければならない。

6. 見学

実技の見学には「見学願」を科目担当教員に提出する。ただし、長期にわたる場合には医師の診断書等を添える。

7. 服装・用具

1. 服装は大学生に相応しい服装とする。
2. 実技・実習の服装は学年ごとに指定されたものを着用する。実技・実習の授業時に指定の服装ができず、異装する時には、「異装届」を科目担当教員に提出する。無断異装は出席と認められないことがある。
3. 授業に関する用具については各科目担当教員が授業にて指示をする。また、実技・実習科目については、以下の表を参照のうえ科目担当教員の指示により用意する。

科目・種目名	用品・用具等 (例)
陸上競技	スパイク又はジョギングシューズ
体操	なわとび、体操シューズ
器械運動	体操シューズ
水泳	指定水着、水泳帽
ダンス	ダンスシューズ
野外教育	その都度指示する。
柔道	柔道着
剣道	剣道着
相撲	特になし
空手道	空手道着
レスリング	レスリングシューズ
バレーボール	バレーボールシューズ又はハンドボールシューズ
バスケットボール	バスケットボールシューズ
サッカー	サッカーシューズ又はラグビーシューズ
ラグビー	ラグビーシューズ又はサッカーシューズ
ハンドボール	ハンドボールシューズ又はバレーボールシューズ
ソフトボール	スパイク、バット、グラブ
水泳・水難救助	足ヒレ、水中メガネ、シュノーケル
救急処置実習	救急実技実習用衣服、体操シューズ、聴診器、ペンライト、名札
救助実習	救急実技実習用衣服、実習帽、救助実習用布編上靴、救助実習用手袋

8. 伝達方法

学生への連絡は学生ポータルサイト (Kaede-i)、講義支援システム (manaba)、掲示等で行う。情報の見落としがないように注意すること。

IV. 試験について

1. 試験

試験については、以下の「体育学部試験実施に関する内規 (抜粋)」を参照のこと。

■ 体育学部試験実施に関する内規 (抜粋)

(趣 旨)

第1条 この内規は、国土館大学学則(以下「学則」という。)第48条及び第50条に基づき、体育学部の試験実施に関する必要事項について定める。

(試験の区分)

第2条 試験は、定期試験及び定期試験に準ずるもの、追試験、再試験の4種類とする。

2 定期試験は、毎学年の春期及び秋期において定められた期間に行う試験とする。

3 定期試験に準ずるものは、毎学年の春期及び秋期の定期試験期間前の最終授業週に行う試験とする。

4 追試験は、第4条で定める受験資格を有する者で、第7条第2項で定める事由によって定期試験を受けることができなかつた者に対して行うことができる試験とする。

5 再試験は、定期試験において当該科目の不合格者に対し、担当教員が必要と認めた場合に行う。

(定期試験の方法)

第3条 定期試験は原則として筆記試験及び実技試験とする。

2 試験時間は原則60分とする。ただし、科目によって試験時間を変更して行うことがある。

3 第1項の規定にかかわらず、レポートや論文、平常の成績等によることができる。

(受験資格)

第4条 次のような者は、定期試験の受験資格を失い、受験することができない。

(1) 当該授業科目において、出席すべき時間数の3分の2(実技科目は5分の4)以上出席していない者。

(2) 学生証の不携帯の者。ただし、仮受験票の発行を受けた者は除く。

(3) 試験開始後20分以内に試験教室に入室しなかつた者。

(4) その他、学部または当該科目担当教員が定める条件を満たしていない者。

(受験者の心得)

第5条 定期試験及び追試験は次の事項を守らなければならない。

(1) 指定された座席に着席のうえ、常時学生証を机の上の見やすい所に置く。

(2) 机の上には、書籍やノート等の参考資料を置いてはならない。ただし、当該科目担当教員が特に認めた参考資料は除く。

(3) 試験開始後20分を経過した場合は、試験教室に入

室することはできない。

(4) 試験開始後30分を経過し、試験監督の指示により退出が認められた場合には、退室することができる。ただし、再入室はできない。

(5) 試験中に筆記用具等の貸し借りは認められない。

(6) 退室する場合は、白紙答案であっても持ち帰ってはならない。

(試験監督)

第6条 試験の監督は、当該科目担当教員の責任において行う。

2 定期試験期間において、必要に応じて試験監督補助者を置くことができる。なお、試験監督補助者の基準等は、別に定める。

3 試験監督者及び試験監督補助者は、試験室内の秩序を維持し、試験を厳正かつ円滑に実施する任務にあたる。

4 試験監督要領については、別に定める。

(追試験)

第7条 追試験を受けようとする者は、指定様式に事由を証明する書類を添えて速やかに提出し、所属学部の学部長の許可を受けなければならない。

2 追試験を願い出ることができる事由は、次の各号に定めるとおりとする。

(1) 本人の病気・怪我

(2) 忌引き(配偶者及び3親等まで)

(3) 公共交通機関の遅延

(4) 対外公式試合やコンクール等への出場

(5) 裁判員裁判に従事

(6) その他、学生が所属する学部の学部長が正当であると認めた事由

3 追試験は、願い出により各期で1回に限りこれを認める。

(再試験)

第8条 再試験の実施は、担当教員の指示に従い行われる。

(不正行為に対する処置)

第9条 第2条で定める全ての試験において不正行為は厳に慎まなければならない。

2 不正行為を行った者、受験態度不良もしくは監督者の指示に従わない者に対しては、学生証および答案その他を取り上げ、退室を命じるものとする。

3 不正行為が認められた場合は、当該科目のみならず当該期の全履修科目の受験を認めない。

4 不正行為者は、当該期の全履修科目の単位認定がなされない(通年科目を含む)。あわせて学則第73条に基づき、懲戒処分の対象となる。

■ 定期試験（定期試験に準ずるものを含む）における不正行為

試験は公正に行われるべきものであり、次に示す行為は不正行為とみなされる。

- ・あらかじめ机等に書き込んだり、カンニングペーパー等を持ち込んだりすること
- ・あらかじめ許可されたもの以外の資料、電子機器等を持ち込むこと
- ・言語、動作等をもって、受験者相互に連絡すること
- ・他の学生の答案を見て答案を作成すること
- ・身代わり受験をすること、あるいはその依頼をすること
- ・他人の答案を作成することまたは不正に作成された答案を提出すること
- ・許可なく、みだりに席を離れる、または監督者の指示に反する行為をすること
- ・不正行為と疑われるような行為をすること、または試験中に物品の貸し借りをすること

試験中にこのような行為をした者に対しては、監督者が学生証、答案、その他の証拠品を取り上げ、退場を命じた上で、事後の試験は受けさせない。追試験、再試験も同様の扱いとする。

不正行為者は、当該期の全履修科目の単位認定がなされない（通年科目を含む）。あわせて学則第 73 条に基づき、懲戒処分の対象となる。

※「定期試験に準ずるもの」とは、毎学年の春期及び秋期の定期試験期間前の最終授業週に行う試験を指す。

2. 評価について

評価については、定期試験、その他担当教員が必要と認める学修活動の結果を総合的に評価して、合格と判定された場合に所定の単位が与えられる。

V. GPA 制度について

本学では、学生の学修意欲を高めることを目的として GPA（Grade Point Average：成績点平均値）を導入している。この GPA とは、科目ごとの評価をそれぞれ点数化することにより、学修状況を客観的にみられるようにするための数値であり、全履修科目の平均を算出したものである。

■ GPA の計算方法

(1) GPA 計算式

$$\text{GPA} = \frac{\text{取得した科目の GP} \times \text{その科目の単位数の合計}}{\text{履修登録科目単位数の合計}}$$

※四捨五入して小数第 2 位まで表す。

(2) GP (Grade Point)

GPは、履修登録した科目の成績（秀・優・良・可・不可・欠席）を数値に置き換えたものである。

区分	評価	評点	GP (グレードポイント)
合格	秀	90 点～100 点	4.0
	優	80 点～89 点	3.0
	良	70 点～79 点	2.0
	可	60 点～69 点	1.0
不合格	不可	59 点以下	0.0
	欠席	評価不能	0.0
対象外	認定	(認定科目の合格)	—

「認定」・・・編転入などにより、他大学等で修得した科目を本学の単位として認めたもの。

GPAの算出には含まない。

※不合格の科目を再履修して合格点を取得した場合、再履修前の GP (グレードポイント) は使用されず、合格点の GP のみが算出対象となる。

■ GPAの対象と種類

次の科目はGPAの対象とならない。

- ①成績評価が「認定」の科目（編転入した際の単位認定科目等）
- ②卒業要件の対象とならない科目（教職科目や随意科目など）

■ GPAの利用

GPAによって、年間もしくは半期の学修成果を自分自身で把握することが可能となり、卒業するために必要な単位だけを取得するだけでなく、主体的かつ充実した学修成果をあげることを目的としている。履修指導や学修指導において指針とするほか、成績優秀者、留学や奨学金対象者の選考等の判定基礎資料として活用する。

■ GPAの通知

- ・Kaede-i 及び「成績通知書」に、学期（春期・秋期）GPA・年間GPA・これまでの総GPAの3種類を表記する。

■ GPAの注意点

GPAをできるだけ高く維持するためには、下記を守ること。

- ・評価が「不可」になると、GPAは大幅に低下する。履修登録した科目は、良い点で修了するように努力し、必ず合格するよう学習に取り組むこと。
- ・GPAが低いときには、修学指導を受けることがある。
- ・受講しない科目を多数履修登録すると、GPAを著しく低下させることになる。

■ 履修登録の修正・取消

授業内容が学修したい内容と異なっていた場合や、授業についていけないだけの知識等が不足していたなどの理由で、一旦履修登録した科目を辞退することができる。

春・秋の年2回の指定された期間において、履修をやめたい科目や不必要な科目は「辞退」の手続きをとること。なお、辞退した科目はGPAの計算対象から除外される。

指定された期間内に手続きを行わずに自ら履修を放棄した場合は、評価が「不可」になり、GPAの値が下がるので注意すること。

■ GPAの計算の一例

下記を例に、GPA算出のサンプルを示す。

科目名	単位数	評価 (点数)	GP
政治学 A	2	秀 (92)	4.0
情報処理 A	2	優 (84)	3.0
英語 1	1	良 (78)	2.0
政治学原論 A	2	可 (60)	1.0
基礎ゼミナール	1	秀 (94)	4.0
憲法 A	2	不可 (20)	0.0

計算式に当てはめると下記の通りになる。

$$\frac{2 \times 4.0 + 2 \times 3.0 + 1 \times 2.0 + 2 \times 1.0 + 1 \times 4.0 + 2 \times 0.0}{2 + 2 + 1 + 2 + 1 + 2} = 2.20$$

この学生の GPA は、2.20 となる。

VI. 科目ナンバリング・カリキュラムマトリクスについて

カリキュラムマトリクスとは、本学のディプロマ・ポリシー（DP）が、どの科目によって身につけることができるのかを具体的に確認するために、ディプロマ・ポリシーの各科目と各科目との対応関係を表形式で示したものです。

重要度が特に高い科目には◎印、重要度の比較的高い科目には○印が付いています。

ディプロマ・ポリシーを達成するために、学部・学科等のカリキュラムの中で、各科目がどのように位置づけられているのかを理解することができます。

また、本学では、すべての科目について、レベルや学修の段階、順序などを示す「科目ナンバー」を付番する「科目ナンバリング」を導入しています。

ナンバリングされた「科目ナンバー」を見ることにより、その科目がどの学部で何年生の時に履修すべきかを把握することができ、体系的な学修計画を立てる時の参考となります。

科目ナンバーおよびマトリクスについては大学ホームページにて公開しているので確認すること。

VII. 副専攻について

所属する学部・学科等の学び（主専攻）に加え、多様な関心や目的に応じて学部等の枠を超えた様々な知識や技能を体系的に幅広く修得することができる制度で、各副専攻において所定の要件を満たすと卒業時に修了証が発行できます。

【開設している副専攻】

■ 防災リーダー副専攻

災害に対応するための知識と技術を習得し、震災に際し迅速な初期行動や被災支援活動が行えることができるとともに、地域社会への貢献ができるリーダー的人材を養成することを目的としています。

■ AI・データサイエンス副専攻

AI やデータサイエンスの知識と技能、創造的思考力を身につけ、卒業後の社会における AI やデータサイエンス活用の基礎力を育成します。また、統計学、プログラミング、データサイエンスについての基礎的な教養を基礎として、データに基づく問題解決の手法を学ぶことを目的とします。

【副専攻の受講方法】

副専攻の受講を希望する学生は、あらかじめ申請が必要です。詳しくは、学生ポータルサイト（Kaede-i）や講義支援システム（manaba）に掲載するお知らせや、年度初めのガイダンス等の説明資料で確認してください。

各種資格取得要項

I. 教員免許状	90
II. 救急救命士	90
III. 公益財団法人日本レクリエーション協会公認指導者資格	92
IV. 公益財団法人健康・体力づくり事業財団公認資格	92
V. NSCA認定資格	93
VI. 一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会認定資格	93
VII. 公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者	94
VIII. 防災士	95
IX. 国土交通省管理団体資格 UAS LEVEL2	95
■ 資格取得のために必要な科目一覧	96
X. 首都圏西部大学単位互換制度	97
XI. 世田谷6大学コンソーシアム連携授業	97

I 教員免許状

体育学部では、所定の教職課程を履修・修得することで次の教員免許状を取得することができる。
細部は、別途配布される「教職課程履修要項」を参照すること。

学科	免許状の種類
体育学科	中学校1種 保健体育 高等学校1種 保健体育
武道学科	中学校1種 保健体育 高等学校1種 保健体育
スポーツ医科学科	中学校1種 保健体育 高等学校1種 保健体育 養護教諭1種
こどもスポーツ教育学科	小学校1種 中学校1種 保健体育 高等学校1種 保健体育

II 救急救命士（対象：スポーツ医科学科）

厚生労働大臣認定資格

1. 資格概要

救急救命士は、1991年（平成3年）に救急現場から医療機関に搬送するまでの間に、傷病者を観察し、必要な救急救命処置を施す病院前救護を担う医療国家資格として制度化された。

2021年（令和3年）の救急救命士法改正により、医療機関に勤務する救急救命士は、所定の研修を受けたのちに、搬送された傷病者が医療機関に到着し、当該医療機関に入院するまでの間において救急救命処置を行うことが可能になった。

2. 受験資格

本学科の卒業生は、救急救命士法第34条第3号で規定されている受験資格に該当し、受験願書に卒業証明書を添付することで受験ができる。

※救急救命士法抜粋

（受験資格）

第三十四条 試験は、次の各号のいずれかに該当する者でなければ、受けることができない。

三 学校教育法に基づく大学（短期大学を除く。）又は旧大学令に基づく大学において厚生労働大臣の指定する科目を修めて卒業した者

なお、厚生労働大臣の指定する科目は、公衆衛生学、解剖学、生理学、薬理学、病理学、生化学、微生物学、内科学、外科学、小児科学、産婦人科学、整形外科学、脳外科学、精神医学、放射線医学及び臨地実習である。

3. 受験手続きについて

受験手続き等については、4年次に別に資料を配布し説明を行う。

詳細：一般財団法人 日本救急医療財団（<https://qqzaidan.jp/siken/>）参照

4. 必要な教育内容について

本学科で開講される卒業所要単位 124 単位の内、救急救命士学校養成所指定規則で規定されている教育内容で構成される 70 単位の授業が含まれる。また、救急救命士が行うことが出来る処置の改正にも適宜対応していく。

以下に救急救命士学校養成所指定規則の教育内容とそれに対応する本学科の科目を示す。

救急救命士養成課程科目

救急救命士学校養成所指定規則 別表第一(第四条関係)		単位数	本学が開講する授業科目	単位数	救急救命士法第三十四条第三号の厚生労働大臣の指定する科目
教育内容	単位数				
基礎分野	科学的思考の基盤	8	共通教育科目	12	
	人間と人間生活				
専門基礎分野	人体の構造と機能	4	基礎解剖学	2	解剖学
			生理学(遺伝学を含む)	2	生理学
	疾患の成り立ちと回復の過程	4	生化学・微生物学(免疫学を含む)	2	生化学、微生物学
			病理学	2	病理学
	健康と社会保障	2	衛生学・公衆衛生学	2	公衆衛生学
			救急医療行政(関係法令を含む)	1	
専門分野	救急医学概論	6	病院前医療概論	2	薬理学
			救急救命処置概論	2	
			薬理学	2	
			現場救急活動概論(搬送技術含む)	2	
			プレコーション概論・各論	2	
			介護・看護学概論	2	
			蘇生学	2	
	救急症候・病態生理学	8	救急病態生理学	2	解剖学 産婦人科学、整形外科学
			臨床解剖学	2	
			疾病救急医学各論5(産婦人科・耳鼻咽喉科・整形外科・眼科)	2	
救急症候学			4		
疾病救急医学	8	救急医学	2	小児科学 内科学 内科学 外科学 外科学、脳外科学 精神医学	
		小児科学	2		
		疾病救急医学各論1(呼吸・循環・高齢者)	2		
		疾病救急医学各論2(消化器・内分泌・代謝)	2		
		疾病救急医学各論3(泌尿系・血管血液系・感染症・皮膚)	2		
疾病救急医学各論4(神経・脳神経外科・口腔外科)	2				
精神医学	1				
外傷救急医学	4	外傷学	4		
環境障害・急性中毒学	1	災害医学(中毒学を含む)	2	放射線医学	
		急性中毒学・環境障害	2		
臨地実習(シミュレーション、臨床実習及び救急用自動車同乗実習を含む。)	25	救急救命処置実習1	6	臨地実習(シミュレーション、臨床実習及び救急用自動車同乗実習を含み、総単位数が二十五単位以上であるものをいう。)	
		救急救命処置実習2	6		
		救急救命処置実習3	6		
		病院内実習	2		
		救急車同乗実習	1		
		総合シミュレーション実習	4		
合計単位数	70	合計単位数	93		

Ⅲ 公益財団法人日本レクリエーション協会公認指導者資格（対象：体育学科・武道学科）

日本レクリエーション協会とは：

新しい時代の要請に応えながら我が国のレクリエーション運動を推進している団体である。
資格の概要等については下表を参考にし、詳細は右の協会 HP の URL を参照。



資格名	資格の概要
レクリエーション・インストラクター	ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったレクリエーション活動を効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」といった、対象や目的に合わせてレクリエーション活動を企画・展開できる指導者。 小・中学校教諭、スポーツ指導者、介護福祉士、ケアマネージャー、保育士等がこの資格を取得している。
<p><資格取得には></p> <p>①本学所定の科目を履修し、修得する。 ②日本レク協会、都道府県レク協会、市町村レク協会が関係する事業に3回参加する。 ③4年次に一括して体育学部事務課より日本レク協会に申請することで、卒業までに資格認定証及び指導者資格証が交付される。 ※2年毎に更新が必要。</p>	

Ⅳ 公益財団法人健康・体力づくり事業財団公認資格（対象：体育学科・武道学科）

健康・体力づくり事業財団とは：

健康・体力づくりについて正しい知識や実践方法を普及する公益法人のことである。
各資格の概要等については下表を参考にし、詳細は右の財団 HP の URL を参照。



資格名	資格の概要
健康運動実践指導者 ※受験年次：3年次または4年次	積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力を有する者で、健康づくりのための運動の専門知識を備え、自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者をいう。生活習慣病を予防し、国民の健康水準を維持・増進する専門家として、健康運動実践指導者に対する需要が高まっており、医療分野はもちろんのこと、介護予防を中心に福祉分野でも活躍の場が広がっている。
健康運動指導士 ※受験年次：4年次	保健医療関係者と連携しつつ、個々人の心身の状態に応じた、安全で効果的な運動を実施するための運動プログラムの作成および実践指導計画の調整等を行う役割を担う者をいう。スポーツクラブや医療機関にて、求人、就業のニーズが高い。
<p><資格取得には></p> <p>①本学所定の科目を履修し、修得する。 ②申請手続きを行うことで資格認定試験の受験資格が得られる。 ※5年毎に更新が必要。</p>	

V NSCA 認定資格（対象：体育学科スポーツトレーナーコース）

NSCA とは：

研究に裏付けられたストレングス&コンディショニングに関する知識を普及させ、一般の人々に対する健康増進と、アスリートの競技力向上および傷害予防を支援する団体。各資格の概要等については下表を参考にし、詳細は右の協会 HP の URL を参照。



資格名	資格の概要
CSCS (認定ストレングス&コンディショニングスペシャリスト)	傷害予防とスポーツパフォーマンス向上を目的とした、安全で効果的なトレーニングプログラムを計画・実行する知識と技能を有する人材を認定する資格。指導対象は主にアスリート、スポーツチーム。筋力トレーニングや他の体力要素の指導だけでなく、施設を運営、管理することも重要な職務となる。 また、栄養、ドーピング、生活習慣に関する指導など、教育者的側面も併せ持つ。 ストレングスコーチ、アスレティックトレーナー、パーソナルトレーナー、医師、フィットネスインストラクター、研究者などが CSCS の資格を取得している。
NSCA-CPT (NSCA 認定パーソナルトレーナー)	健康と体力のニーズに関して、評価・動機づけ・教育・トレーニングやコンディショニング全般の指導を行う、優れた専門的能力をもつ人材を認定する資格である。 指導対象者はアスリートだけでなく、年齢・性別・経験を問わず幅広い層に対してトレーニング指導を行う。そのため、NSCA-CPT はトレーニングの知識に加え、医学的、運動生理学的な専門知識とトレーニングの指導技術が必要となる。 パーソナルトレーナーのほか、フィットネスインストラクターやスポーツ指導者、理学療法士、柔道整復師などが NSCA-CPT を取得している。
<p><資格取得には></p> <p>① 2 年次にスポーツトレーナーコースを選択する。</p> <p>② 本学所定の科目を履修し、修得することで卒業と同時に受験資格が得られる。</p> <p>※ 3 年毎に更新が必要。</p>	

VI 一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会認定資格（対象：体育学科）

全国体育スポーツ系大学協議会（JPSU）とは：

会員相互の連携協力により、体育学および関係分野を専門とする大学、短期大学、学部、学科、コース等の教育、研究ならびに経営等に関する調査および研究を行い、もって、わが国の体育、スポーツ等の充実・発展に寄与することを目的にしている団体。

資格の概要等については下表を参考にし、詳細は右の競技会 HP の URL を参照。



資格名	資格の概要
JPSU スポーツトレーナー	全国体育スポーツ系大学協議会加盟大学で学んだ学生の中で、“運動指導実践”と“救急・予防対応”能力を兼ね備え、経済産業省が推奨する“社会人基礎力”（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を保持し、指導者としての適正を認められた者に与えられる資格。
<p><資格取得には></p> <p>① 本学所定の科目を履修し、修得する。</p> <p>② 申請手続きを行うことで資格認定試験の受験資格が得られる。</p> <p>※ 5 年毎に更新が必要。</p>	

VII 公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者（対象：体育学科・武道学科）

日本スポーツ協会（JSPO）とは：

日本におけるアマチュアスポーツの統括団体のことである。各競技団体や都道府県体育協会などから構成され、国民体育大会の開催などの様々な事業をしている。

公認スポーツ指導者とは：

財団法人日本スポーツ協会及び加盟団体等が公認スポーツ指導者制度に基づき資格認定する指導者で、スポーツ医・科学の知識を活かし、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導し、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝えることができる指導者のことである。

競技別指導者資格については下表を参考にし、その他資格等は右の協会 HP の URL を参照。



資格種類	資格名	資格の概要
	スタートコーチ	地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等において、上位資格者と協力して安全で効果的な活動を提供する。
競技別指導者資格	コーチ1 (旧 指導員)	地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等でのコーチングスタッフとして、基礎的な知識・技能に基づき、安全で効果的な活動を提供する。(空手道指導員が該当)
	コーチ2 (旧 上級指導員)	地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等の監督やヘッドコーチ等の責任者として、安全で効果的な活動を提供するとともに、指導計画を構築、実行、評価し監督することと併せて、コーチ間の関わり及び成長を支援する。
	コーチ3 (旧 コーチ)	トップリーグ・実業団等でのコーチングアシスタント（指導補助）として、ブロック及び全国大会レベルのプレーヤー・チームに対して競技力向上を目的としたコーチングを行う。(水泳コーチが該当)
	コーチ4 (旧 上級コーチ)	トップリーグ・実業団・ナショナルチーム等のコーチングスタッフとして、国際大会レベルのプレーヤー・チームに対して競技力向上を目的としたコーチングを行う。
	教師	クラブや商業・民間スポーツ施設等で幅広い年齢層の多様なスポーツライフスタイルを志向する会員や利用者に応じたコーチングを行うとともに、当該施設等の日常運営業務にあたる。
	上級教師	クラブや商業・民間スポーツ施設等における実技指導の責任者・チーフを担うとともに、当該施設等の企画・経營業務にあたる。
<p><資格取得には></p> <p>①指導者マイページの作成、リファレンスブックの購入を行い、本学所定の科目を履修し、修得する。</p> <p>②申請手続き後に共通科目検定試験(オンラインテスト)を受験し、合格することで共通科目が「修了」となる。</p> <p>③免除科目以外のカリキュラムは卒業後、所定の外部機関等で受講することで取得可能。</p> <p>※スポーツコーチングリーダー、「水泳コーチ」、「空手道指導員」修了証明書については①、②を完了した後 JSPO へ登録手続きを行うことで認定される。</p> <p>※4年毎に更新が必要。</p>		

VIII 防災士（対象：全学部）

認定特定非営利活動法人 日本防災士機構とは

阪神・淡路大震災の教訓の伝承と市民による新しい防災への取り組みを推進し、我が国の防災と危機管理に寄与することを目的に創設された団体。

詳細は右の協会 HP の URL を参照 <https://bousaisi.jp/>

資格名	資格の概要
防災士	認定特定非営利活動法人日本防災士機構が発行する、民間資格。 防災士の基本理念は「自助：自らを守る行動」「共助：地域市民とともに助け合う行動」「協働：国や自治体による行動」。 研修では、災害発生のしくみ、災害対策、応急手当、防災士制度等を学ぶ。 それぞれの地域の自主防災組織や学校、福祉施設、企業等で防災士の配置・活用の動きが広がり期待度が高まっている。
<p><資格取得には></p> <p>①防災リーダー養成論、防災リーダー養成論実習を履修し、習得する。 ②防災士養成研修（2日間）を受講する。 ③防災士資格取得試験に合格することで防災士登録が可能となる。 ※この資格は、国土館大学防災・救急救助総合研究所が受付窓口です。 ※研修開講日は、国土館大学防災・救急救助総合研究所から案内します。</p>	

IX 国土交通省管理団体資格 UAS LEVEL2（対象：全学部）

国土交通省管理団体資格 UAS LEVEL2 とは

ドローンの、操縦技術を身に付けたことを認める民間資格である。

資格名	資格の概要
UAS LEVEL2 (ドローン操縦資格)	国土交通省管理団体が発行する、民間資格。 「UAS」とは、操縦士を乗せずに飛行する航空機、およびその航空機を制御するシステムの総称。 UAS LEVEL2 の資格取得することにより、国家資格の二等操縦ライセンスを取得しやすくなる。 (国家試験の一部免除) また、航空局への飛行許可承認を取得しやすくなる。 ドローンを活用し、災害調査、空中からの農薬肥料散布、測量、空撮、地図の制作、物流、点検、メンテナンス、警備、捜索、報道等、あらゆる場所で、需要が高まっている。
<p><資格取得には></p> <p>①災害とドローンを履修する。 ②授業内試験で合格をし、申請することにより資格が得られる。 ※この資格は、国土館大学防災・救急救助総合研究所が受付窓口です。 ※研修開講日は、国土館大学防災・救急救助総合研究所から案内します。</p>	

■ 資格取得のために必要な科目一覧

授業科目	単位	開講年次	開講学科	レクリエーション インストラクター 体育・武道	日本スポーツ協会 (JSPO)			健康運動 実践指導者	健康運動 指導士	NSCA	JPSUスポーツ トレーナー
					共通科目ⅠⅡⅢ	水泳コーチ3	空手道コーチ1	体育・武道	体育・武道	体育	体育
解剖学	2	1						●		●	●
運動生理学	2	※			●			●	●	●	●
スポーツ社会学	2	※			●					●	
体力測定・評価	2	1			●			●	●	●	
スポーツ栄養学	2	1			●			●	●	●	●
エクササイズテクニック	2	2								●	
スポーツ心理学	2	2			●			●	●	●	●
スポーツバイオメカニクス	2	2			●			●	●	●	●
コーチ学	2	2			●					●	
スポーツ法学	2	2			●					●	
★救急処置法実習Ⅰ・Ⅱ	各1	※			●			●	●	●	●
公衆衛生学	2	3						●	●		
スポーツ医学	2	3			●				●	●	●
運動生理学実習Ⅰ	1	3								●	
体育・スポーツ行政学	2	3			●						
健康教育学	2	3						●	●		
★体力測定評価実習Ⅰ・Ⅱ	各1	3						●	●		●
レクリエーション論	2	3		●							
★エアロビクス運動理論・実習Ⅰ・Ⅱ	各1	3・4						●	●		●
運動処方論	2	3・4			●			●	●	●	●
★レクリエーション論実習Ⅰ・Ⅱ	各1	3・4		●							
現場実習1	2	2								●	●
現場実習2	2	3							●	●	●
体育経営管理	2	4			●					●	
発育発達老化論	2	※			●						
アスリート実習1 (水泳)	2	1				●					
アスリート実習2 (水泳)	2	2				●					
アスリート実習3 (水泳)	2	3				●					
アスリート実習4 (水泳)	2	4				●					
武道史	2	1					●				
武道指導特論	2	2					●				
★空手道専門実習1・2	各1	1					●				
★空手道専門実習3・4	各1	2					●				
★空手道専門実習5・6	各1	3					●				
★空手道専門実習7・8	各1	4					●				
★体育方法学・実習 (サッカー、バスケットボール、 バレーボール、ハンドボール、 ラグビー、ソフトボール、レスリング)	各1	2									●
★体育方法学・実習(柔道)Ⅰ・Ⅱ	各1	2									●
★体育方法学・実習(剣道)Ⅰ・Ⅱ	各1	2									●
★体育方法学・実習(体操(集団行動含む))Ⅰ・Ⅱ	各1	1									●
体育方法学・実習(器械運動)	1	1									●
体育方法学・実習(陸上競技)	1	1	体育					○	○		●
★体育方法学・実習(陸上競技)Ⅰ・Ⅱ	各1	1	武道					○	○		
体育方法学・実習(水泳)	1	1	体育		●			○	○		●
★体育方法学・実習(水泳)Ⅰ・Ⅱ	各1	1	武道					○	○		
★スポーツ情報処理理論実習Ⅰ・Ⅱ	各1	3	体育			○					
★国際武道情報論・実習Ⅰ・Ⅱ	各1	2	武道			○					
★トレーニング論・実習Ⅰ・Ⅱ	各1	1	体育				○	○		●	●
★武道体力トレーニング論・実習Ⅰ・Ⅱ	各1	3	武道				○	○			

剣道または
柔道を選択

※学科によって開講年次が異なるため、各学科の「Ⅳ. 履修内容」で確認すること。

- 【備考】
- それぞれの資格を取得するには開講科目の●印を付された科目を修得すること。
(★印が付された科目は、いずれか1科目ではなく全てを習得すること)
 - は自らの学科の科目を履修し修得すること。
 - 武道学科の学生の場合「健康運動指導士」は、健康産業施設等で概ね7日間の「健康産業施設等現場実習」が必要。(現場実習2)
 - 日本スポーツ協会の水泳コーチ、空手道コーチについては、共通科目Ⅰ～Ⅲと併せて申請が必要。

X 首都圏西部大学単位互換制度

首都圏西部大学単位互換制度とは、首都圏西部にある大学・短期大学が相互に単位互換協定を結び、これらの大学に所属する学生が他大学の授業を履修し、修得した単位を所属する大学の単位として認定する制度である。

1、受講資格

首都圏西部大学単位互換科目を受講するためには、出願書類の提出が必要となる。

2、受講案内について

manaba等を通じて、説明資料を提供する。各自資料を参照し、詳細を確認すること。

3、問い合わせ先

世田谷キャンパス 教務部教務課（5号館1階）

E-Mail：tannigokan@kokushikan.ac.jp

XI 世田谷6大学コンソーシアム連携授業

本連携授業は、世田谷区内に所在する6つの大学で締結されている協定に基づき実施されている。各大学の特色を活かした授業科目を協定大学が相互に提供し、教育・研究の交流による自己啓発と教育の質向上に資することを目的としている。

1、協定大学

国土舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、成城大学、東京都市大学、東京農業大学

2、提供科目

開講される科目は、通常の場合、半期科目で毎年度変更される。詳しくは時間割表等で確認すること。

学生生活関係

- I. 学生生活関係施設窓口一覧 100
- II. 学生ポータルサイト「Kaede-i」および
講義支援システム「manaba」について 101
- III. 学籍と学費 102

I 学生生活関係施設窓口一覧

窓口	受付内容	場所	電話	受付時間	
				月～金	土・祝日授業日
教務課	教室担当 学生証・学費担当 教職担当 教職課程、介護等体験、単位互換、学生証に関すること、学費等納入依頼書再発行、教室貸出などの手続き、相談等を行っています。	世田谷 5号館1階	03-5481-3202 (学費) 03-5481-3203 (教室) 03-5481-3204 (教職)	9:00～17:00	9:00～17:00
		町田 鶴川メイプルホール1階	042-736-2331	9:00～17:00	9:00～17:00
	政経学部担当	世田谷 5号館1階	03-5481-3159	9:00～17:00	9:00～17:00
	理工学部担当	世田谷 5号館1階	03-5481-3159	9:00～17:00	9:00～17:00
	法学部担当	世田谷 5号館1階	03-5481-3159	9:00～17:00	9:00～17:00
	文学部担当	世田谷 5号館1階	03-5481-3159	9:00～17:00	9:00～17:00
	経営学部担当	世田谷 5号館1階	03-5481-3159	9:00～17:00	9:00～17:00
	21世紀アジア学部事務課	町田 30号館1階	042-736-1050	9:00～17:00	9:00～17:00
	体育学部事務課 こどもスポーツ教育学科担当	町田 14号館1階	042-736-2330	9:00～17:00	9:00～17:00
	体育学部事務課	多摩 18号館1階	042-339-7202	9:00～17:00	9:00～17:00
学生・厚生課	学生生活全般をサポートする手続、指導、相談等を行っています。課外活動、奨学金（奨学生制度）、遺失物・拾得物、アルバイト情報、学生保険、掲示、学生寮、アパート関係 など	世田谷 34号館A棟1階	03-5451-8114	9:00～17:00	9:00～17:00
		町田 13号館1階	042-736-2316	9:00～17:00	9:00～17:00
		多摩 18号館2階	042-339-7225	9:00～17:00	9:00～17:00
学生相談室	教職員、家族、友人等に相談しにくい問題など、専門のカウンセラーが直接相談に応じます。電話での相談や家族からの相談も受け付けています。	世田谷 34号館A棟1階	03-5451-8116	※カウンセラーの在室日は学生相談室入口の掲示板でお知らせします。確認の上、相談にきてください。	原則として閉室
		町田 11号館1階	042-736-5498		
		多摩 21号館1階	042-339-7365		
国際交流センター	海外研修や交換留学など、海外へ留学を希望する学生へのアドバイスや外国人留学生への留学生サポートを行っています。	世田谷 7号館1階	03-5481-3206	9:00～17:00	9:00～17:00
		町田 鶴川メイプルホール2階	042-736-2317	9:00～17:00	9:00～17:00
		ホームページ	http://www.kokushikan.ac.jp/research/IC/		
キャリア形成支援センター	学生の進路に関する各種支援を行っています。業種別企業ファイルや就職情報誌等の資料を自由に閲覧できるほか、求人票及び各種セミナーの案内等を行っています。また、就職活動における悩みを相談できるスタッフも常時待機しています。	世田谷 8号館1階	03-5481-3308	9:00～17:00	9:00～17:00
		町田 12号館1階	042-736-2318	9:00～17:00	9:00～17:00
		多摩 18号館2階	042-339-7230	9:00～17:00	9:00～17:00
		ホームページ	http://www.kokushikan.ac.jp/career/		
Eメールアドレス (全キャンパス共通)		career@kokushikan.ac.jp			
健康管理室	校医や看護師等を配置して、応急処置や健康相談、健康診断証明書の発行、健康情報の発信等を行っています。なお、校医の健康相談や診察を希望する場合は、各キャンパスの健康管理室にお問い合わせください。	世田谷 34号館A棟1階	03-5451-8115	9:00～21:00	9:00～19:00
		町田 11号館1階	042-736-2319	9:00～18:00	9:00～17:00
		多摩 21号館1階	042-339-7206	9:00～18:00	9:00～17:00
図書館	蔵書はもちろん、学外情報検索のための各種データベースや電子デバイス等の設備、閲覧・学習施設等が完備されています。蔵書は3キャンパスどこでも貸出・返却ができます。なお、図書館入館の際には学生証が必要です。	世田谷 中央図書館1～5階	03-5481-3216	8:30～20:30	8:30～18:00
		町田 鶴川メイプルホール1～4階	042-736-2341	8:30～19:00	8:30～18:00
		多摩 18号館1階	042-339-7204	8:30～19:00	8:30～18:00
		ホームページ	https://www.kokushikan.ac.jp/library/		

※受付時間は、大行行事開催日等は閉室または時間が変更となる場合があります。
 ※詳しい内容は、各部署まで直接お問い合わせいただくか、各部署発行のパンフレット等をご覧ください。

○学生ポータルサイト「Kaede-i」

授業に関する情報など、大学生活に必要な情報については「Kaede-i」から確認することができる。Kaede-i の ID 及びパスワードは、入学後のオリエンテーションに出席することで配布され、ID と大学が発行したメールアドレスは卒業するまでの間、原則として変わらない。紛失しないように注意すること。

- ・授業の休講、補講、教室変更などの情報
- ・大学からのお知らせ
- ・履修登録（履修登録期間のみ）
- ・My 時間割（履修科目の一覧）の確認
- ・プロフィール（学生情報）の確認・変更（住所、電話番号、学費納入者の変更など）
- ・成績確認（春期成績は9月中旬、秋期成績は3月下旬から） など

◆Kaede-i へのアクセス方法

URL : <https://kaedei.kokushikan.ac.jp/>



QR コード
(Kaede-i)

◆プロフィール（学生情報）の確認・変更方法

学生ポータルサイト「Kaede-i」TOP ページから、「プロフィール」→「プロフィール（学生情報）」欄の「確認・変更する」をクリック。変更箇所を修正し、最後に「登録」ボタンをクリック。なお、学生本人だけでなく、保証人や学費納入者の住所等の変更ができる。

※住所・電話番号は、怪我や病気をした時や災害時の連絡など緊急時に連絡する際に必要となるため、変更が生じた場合には速やかに最新の情報に変更すること。

○講義支援システム「manaba」

「manaba」は、講義資料の配布や掲示板等のやりとり、課題レポートやアンケートの提示・提出等を行える機能がある。また、各部署からの案内やお知らせなども掲載している。このシステムを利用するには、入学時に配付されるユーザIDとパスワードが必要となる。

◆manabaへのアクセス方法

URL : <https://kokushikan.manaba.jp/ct/login>



QRコード
(manaba)

Ⅲ 学籍と学費

学期は下記の通り定められています。

春期：4月1日から9月15日まで 秋期：9月16日から3月31日まで

(国土館大学学則第6条参照)

1. 休学・復学・退学・再入学・除籍・復籍

(1) 休学・復学・退学・再入学

休学・復学・退学・再入学に関する手続き方法及び注意事項については、講義支援システム「manaba」から閲覧可能です。

<https://kokushikan.manaba.jp/ct/login>

コース名「〇〇年度 全学生向け連絡・お知らせ」

※〇〇は毎年年度が更新されます。

(2) 除籍

学生が、下記に該当する場合は、学長が除籍する。

1. 国土館大学学則第41条に規定する在学年限を超えた者
2. 国土館大学学則第18条第4項に規定する休学期間を超えた者
3. 正当な理由がなく、無届で3月以上連続して欠席した者
4. 正当な理由がなく、所定の期日までに学費等定められた納入金を納入しない者

(国土館大学学則第20条、国土館大学学籍管理規程第9条参照)

(3) 復籍

国土館大学学則第20条第3項に基づき、除籍になった者が、同じ学部・学科・専攻及び学年・学期に復籍を希望する場合は、除籍日から2月以内に復籍願を提出し、学長の許可を得なければならない。

なお、除籍日から2月を超えた学生が復籍を希望する場合は、再入学として扱い、所定の手続きを経て学長の許可を得なければならない。

(国土館大学学則第20条、国土館大学学籍管理規程第9条、国土館大学納入金規程第11条参照)

2. 身上項目の変更

学生、保証人及び学費納入者の住所変更、学費納入者氏名の変更については学生ポータルサイト「Kaede-i」上のプロフィールより更新できます。

<https://kaedei.kokushikan.ac.jp/>

学生氏名、保証人氏名の変更及び本籍地の変更方法は大学ホームページに掲載されています。下記ページより申請を行ってください。

https://www.kokushikan.ac.jp/campus_life/certificate/notifications/

3. 学費の納入

学費の納入方法及び納入金額は大学ホームページに掲載されています。下記ページより確認してください。

https://www.kokushikan.ac.jp/campus_life/scholarship/payment/



学則・諸規程他

国土館大学学則・諸規程104

国士舘大学学則・諸規程

国士舘大学学則

「国士舘大学学則」は、大学ホームページから閲覧可能です。

https://www.kokushikan.ac.jp/houjin/disclosure/educational_info/degree/



諸規程

以下の諸規程は、講義支援システム「manaba」から閲覧可能です。

- ・国士舘大学履修規程
- ・国士舘大学教職課程履修規程
- ・国士舘大学学籍管理規程
- ・国士舘大学学籍管理規程施行細則
- ・国士舘大学科目等履修生規程
- ・国士舘大学聴講生規程
- ・国士舘大学研究生規程
- ・国士舘大学納入金規程
- ・国士舘におけるキャンパス・ハラスメント防止等に関する規程
- ・試験実施に関する内規
- ・諸資格取得のための受講料等に関する内規
- ・公欠に関する取扱要領
- ・自然災害等に対する全学的休講措置の申し合わせ

<https://kokushikan.manaba.jp/ct/login>

コース名「〇〇年度 全学生向け連絡・お知らせ」

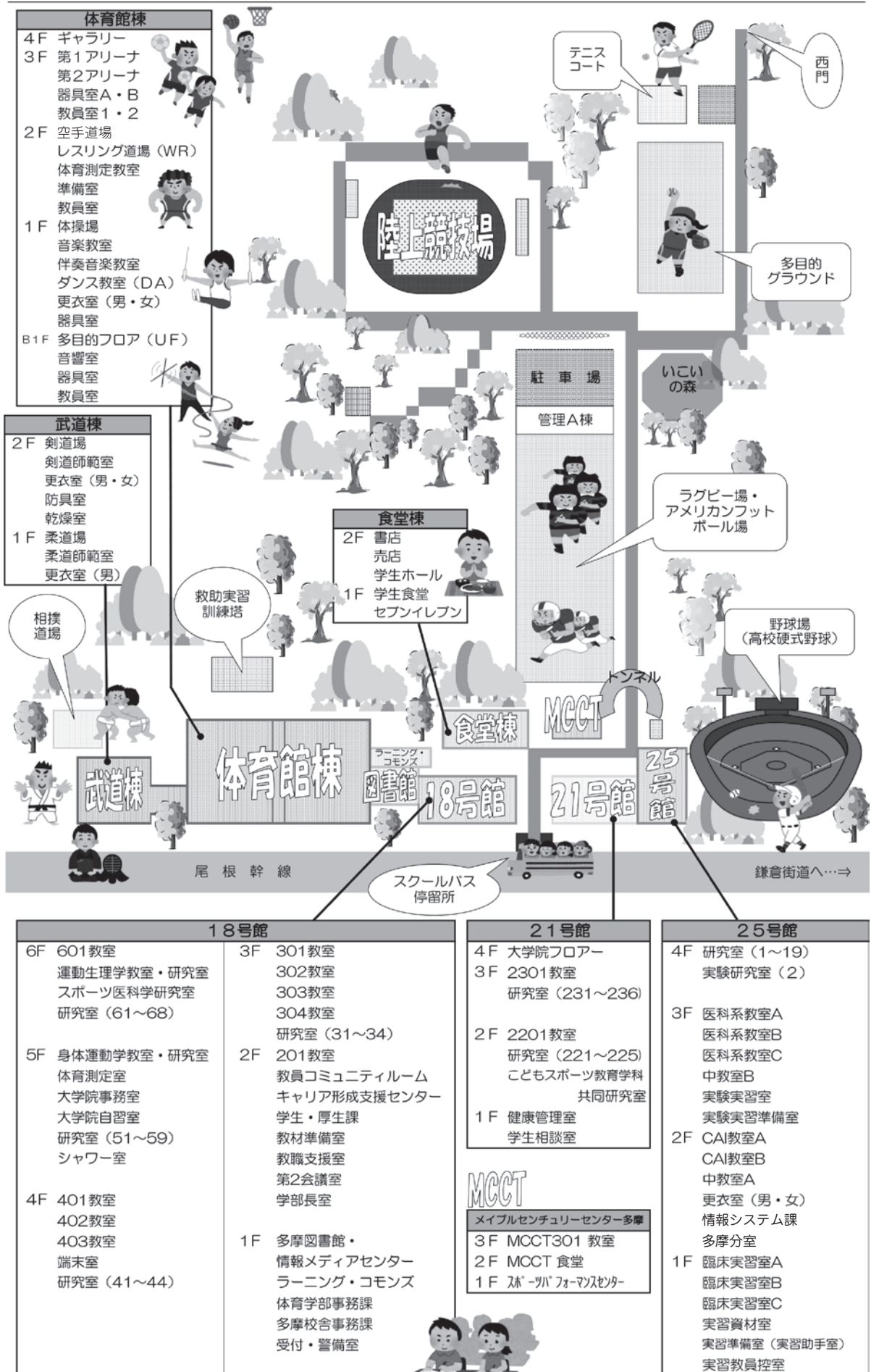
※〇〇は毎年年度が更新されます。



キャンパスマップ・教室案内

I. 多摩キャンパスマップ	106
II. 多摩キャンパス教室案内	107
III. 町田キャンパスマップ	115
IV. 町田キャンパス教室案内	116
V. 各キャンパスアクセスマップ	120

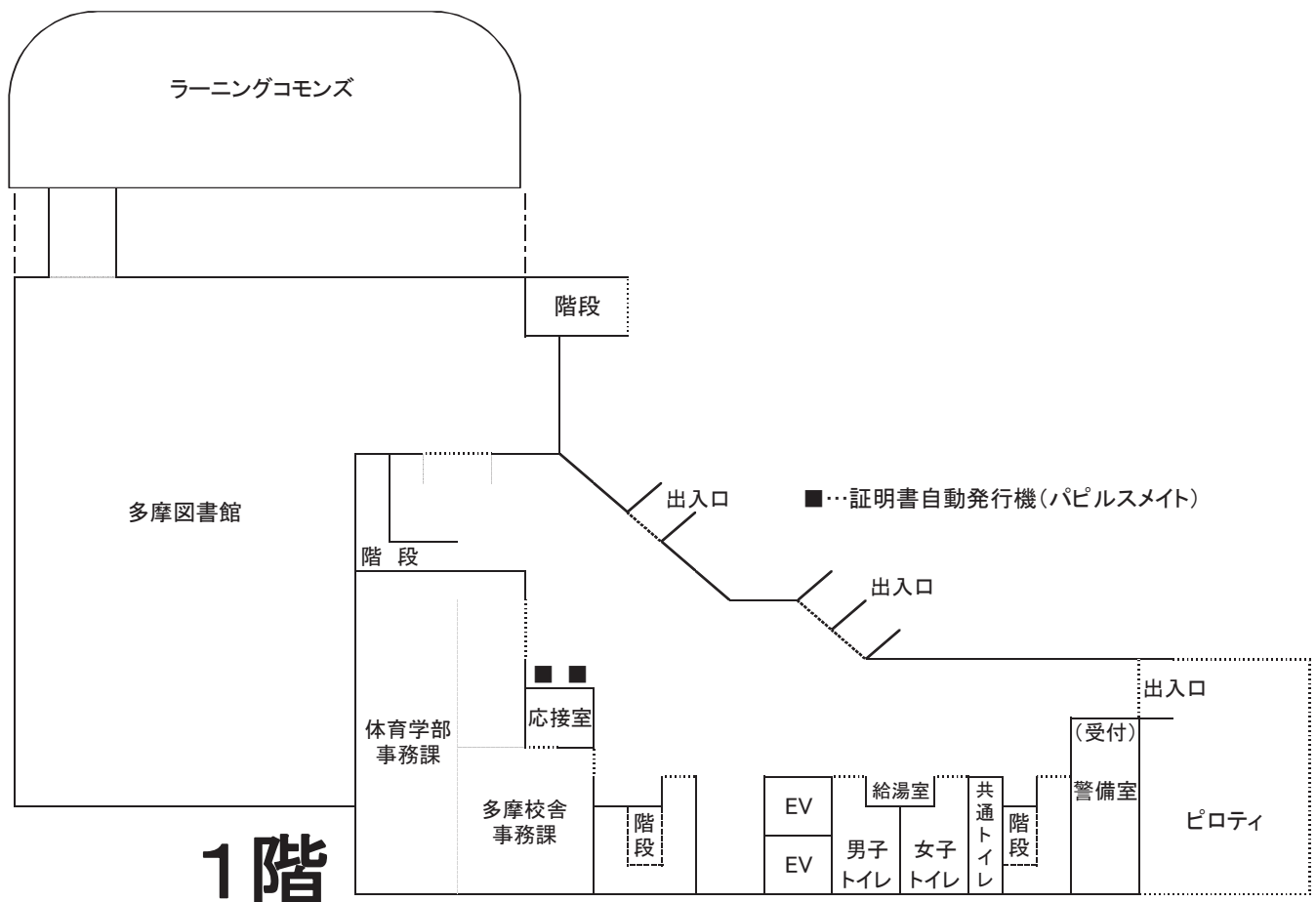
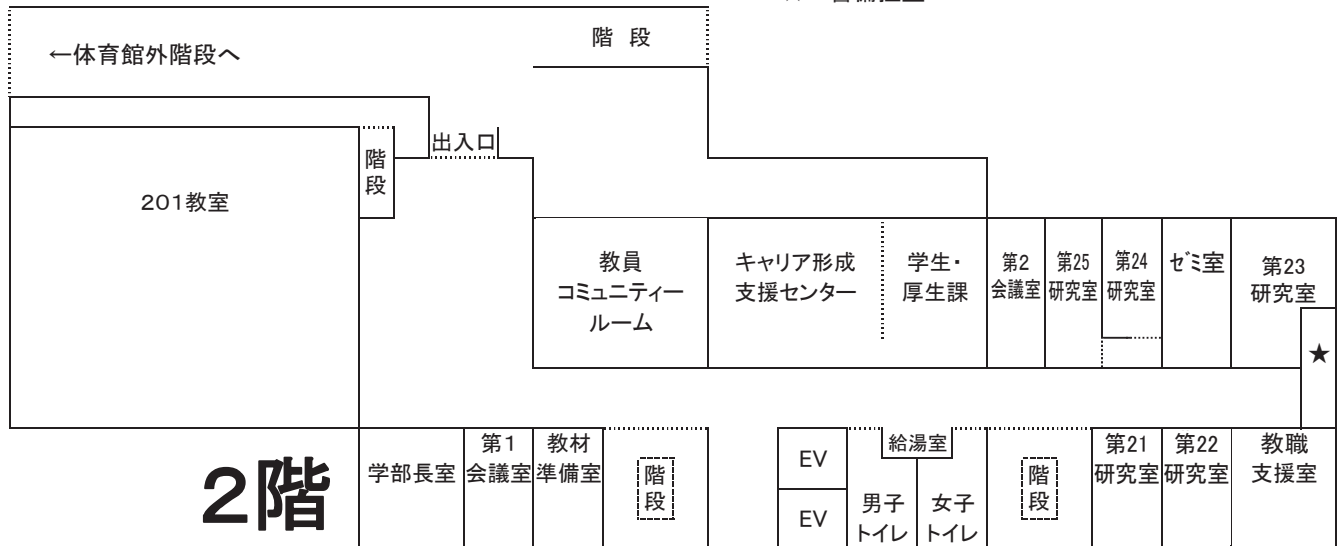
I 多摩キャンパスマップ



18号館(A棟)

【201教室の仕様について】※随時変更有、詳細は確認してください
仕様：プロジェクター・PC・DVD・Blu-ray

★…警備控室



18号館(A棟)

【一般教室の仕様について】※随時変更有、詳細は確認してください

共通仕様：プロジェクター

PC
ビデオ(小教室のみ)
DVD

6階

601教室	第68 研究室	第67 研究室	バルコニー				スポーツ 医科学 研究室	気 象 人 工 室	運動生理学教室
			第64 研究室	第63 研究室	第62 研究室	第61 研究室			
				EV	給湯室				
				EV	男子 トイレ	女子 トイレ			
							階 段 屋上へ		
								第65 研究室	

5階

身体運動学教室	バルコニー				体育測定室	救急 システム 博士課程 自習室	大学院 事務室	
	第51 研究室	第52 研究室	第53 研究室	第54 研究室				
大学院助手室2	第59 研究室	第56 研究室		EV	給湯室			
医科学 サポート				EV	男子 トイレ	シャワー 室		
							階 段	
								第55 研究室
								第57 研究室
								第58 研究室

4階

401教室	402教室	バルコニー				403教室	図書館・ 情報メディア センター (端末室)	
		第41 研究室	第42 研究室	第43 研究室	第44 研究室			
				EV	給湯室			
				EV	男子 トイレ	女子 トイレ		
							階 段	
								管理室

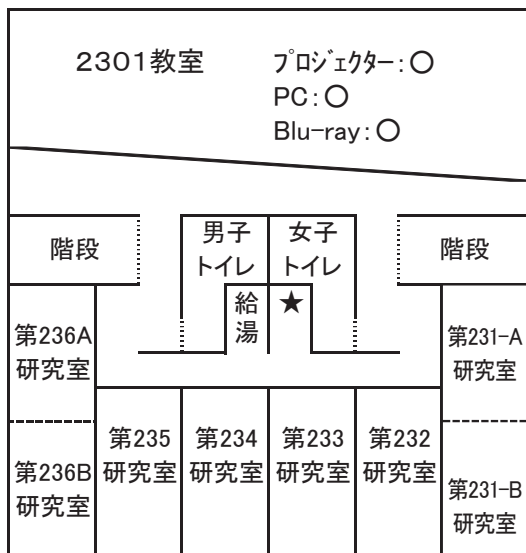
3階

301教室	302教室	バルコニー				303教室	304教室
		第31 研究室	第32 研究室	第33 研究室	第34 研究室		
				EV	給湯室		
				EV	男子 トイレ	女子 トイレ	
							階 段

21号館(B棟)

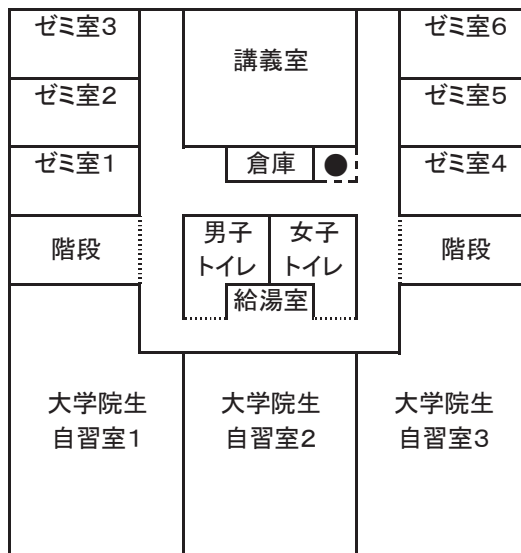
3階

★…シャワー室

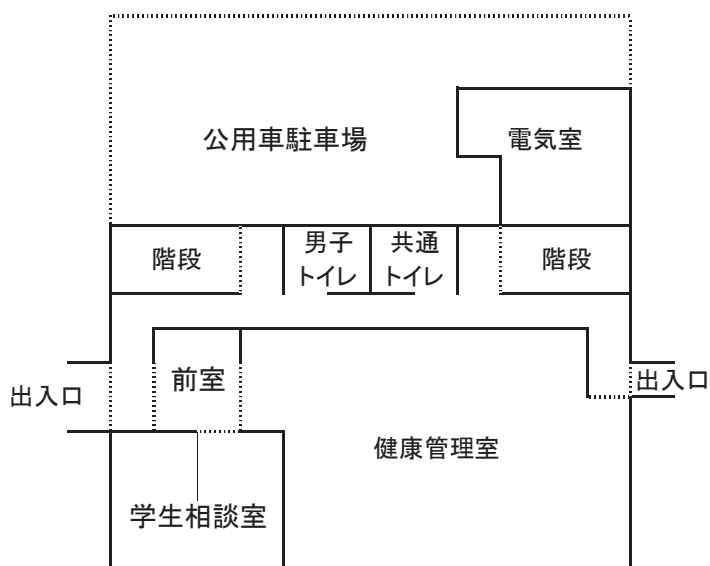


4階

ゼミ室6…非常勤講師室
ゼミ室5…大学院助手室1
●…コピー機

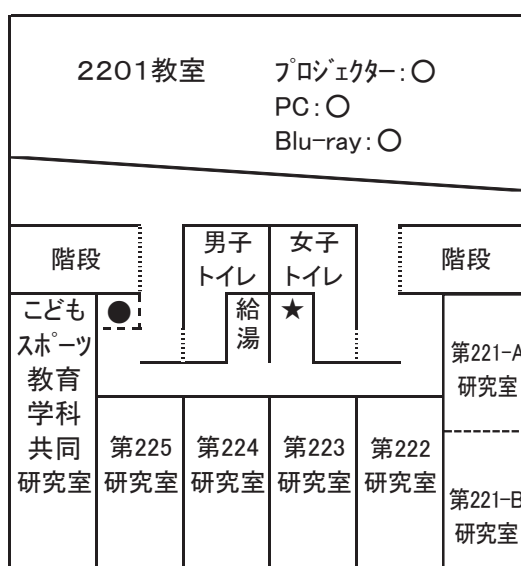


1階

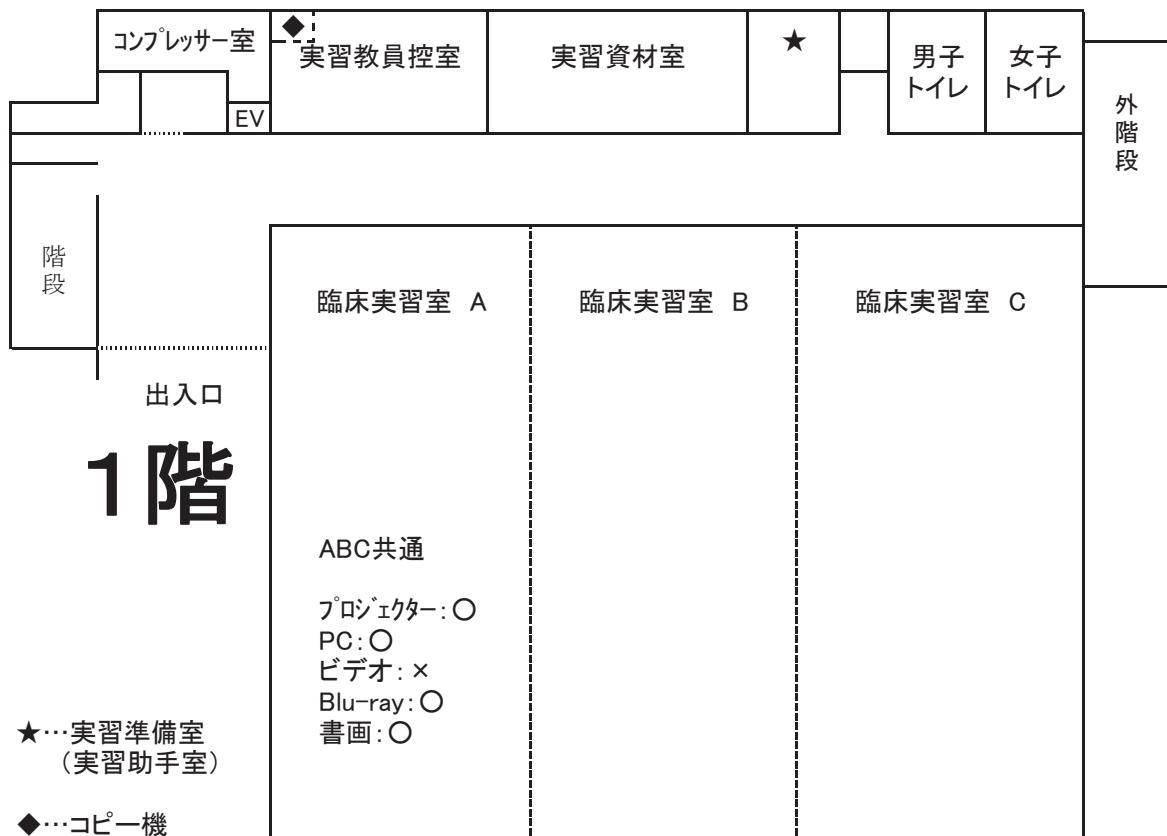
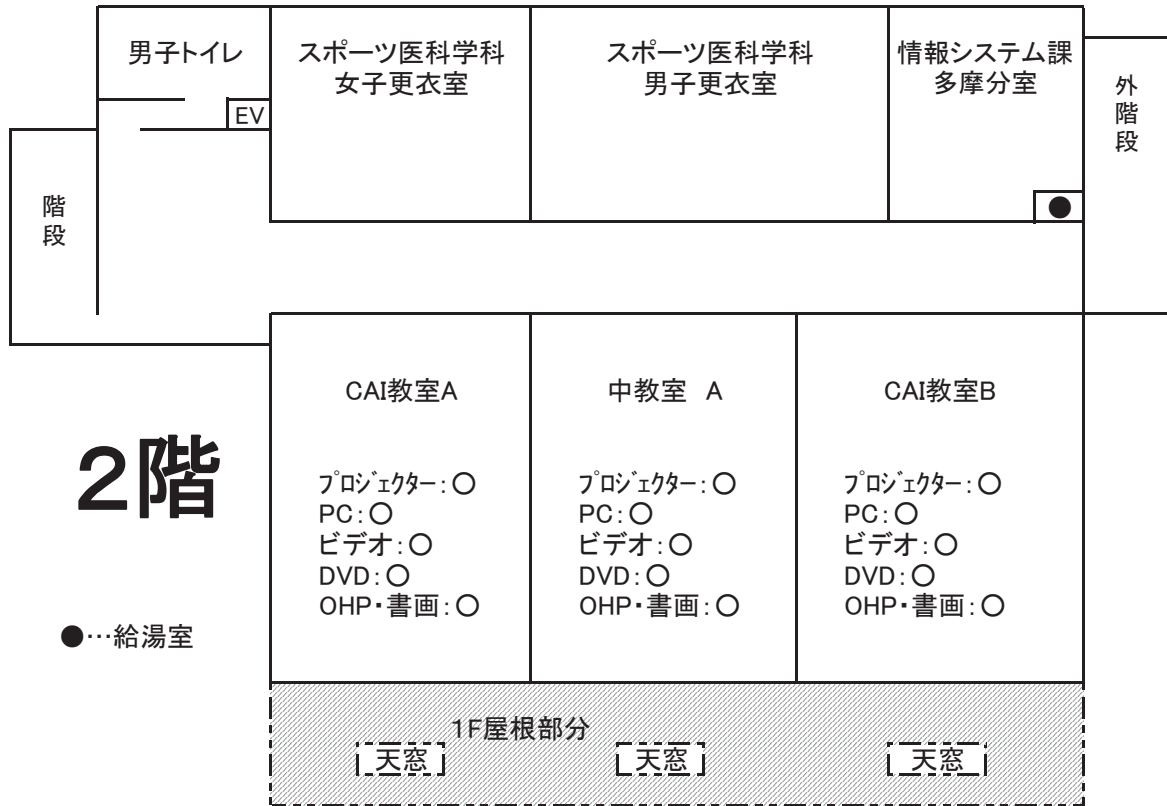


2階

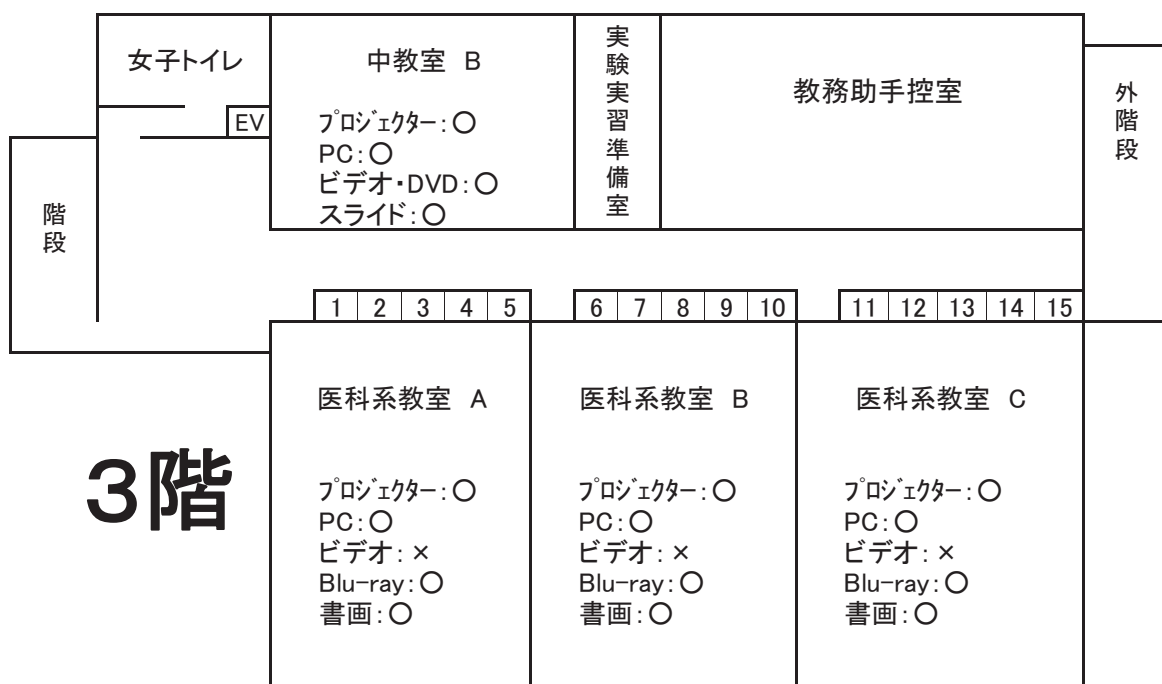
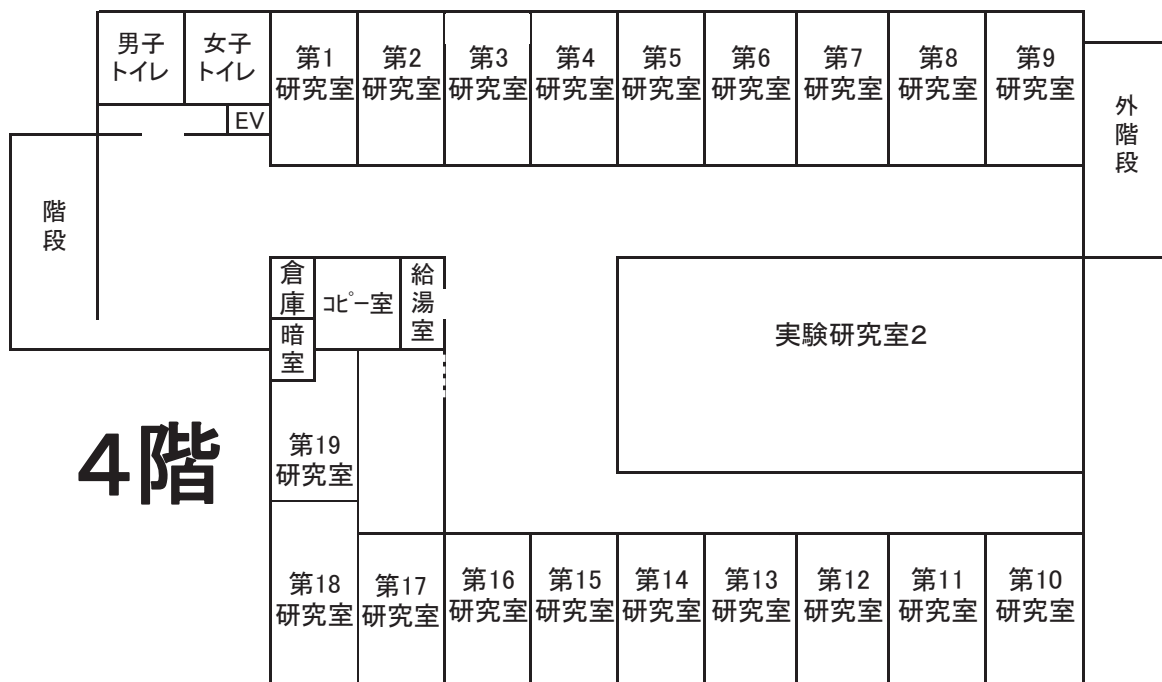
★…シャワー室
●…コピー機



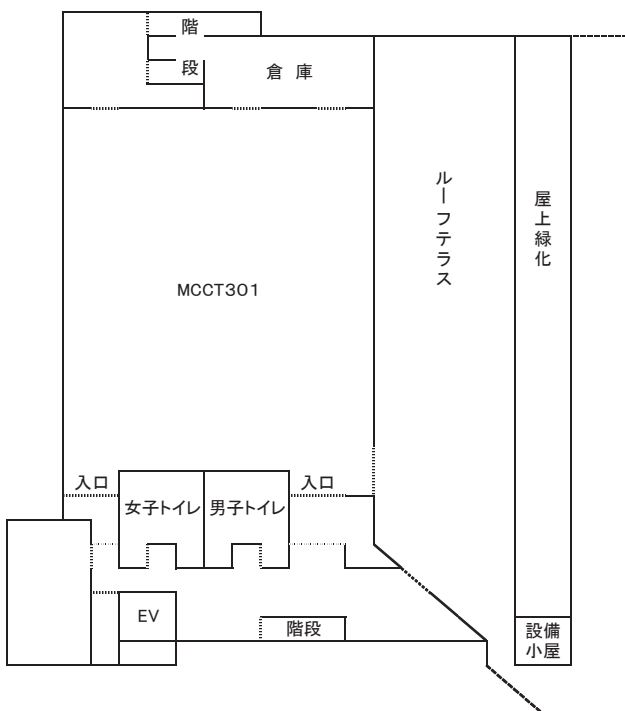
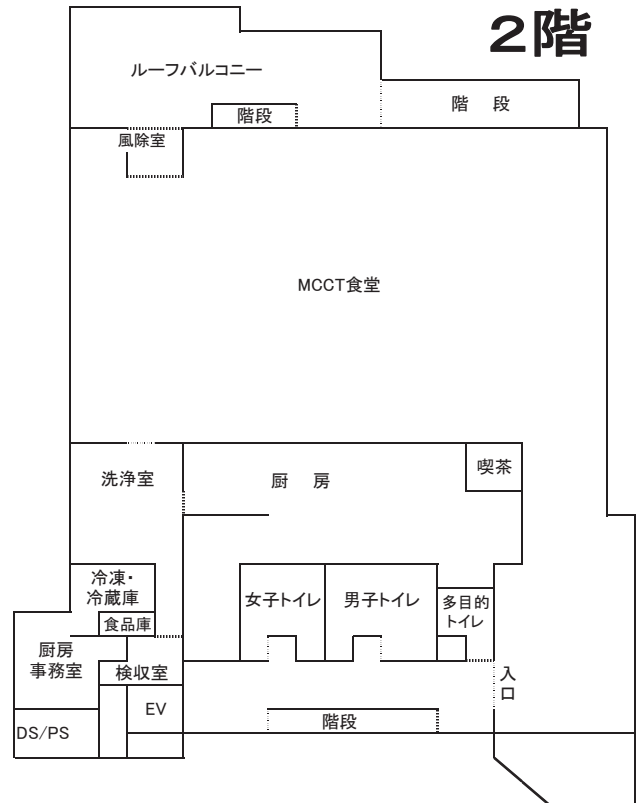
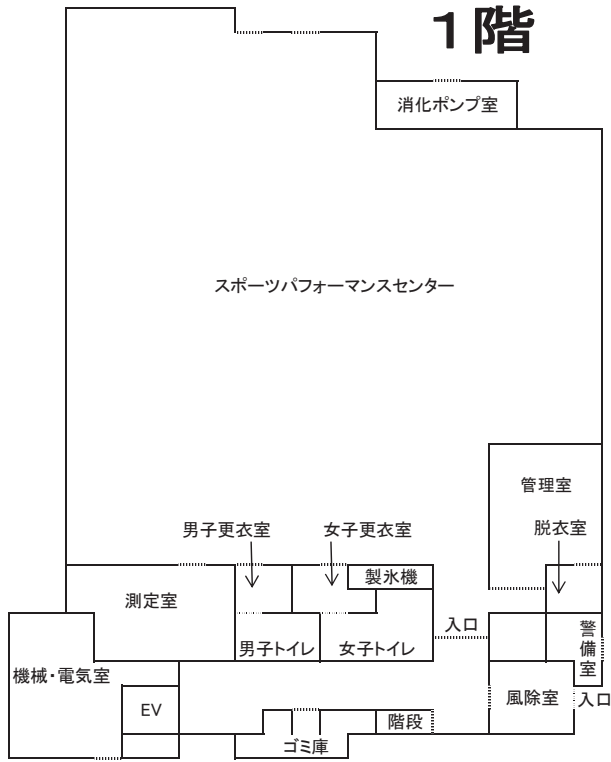
25号館(C棟)



25号館(C棟)

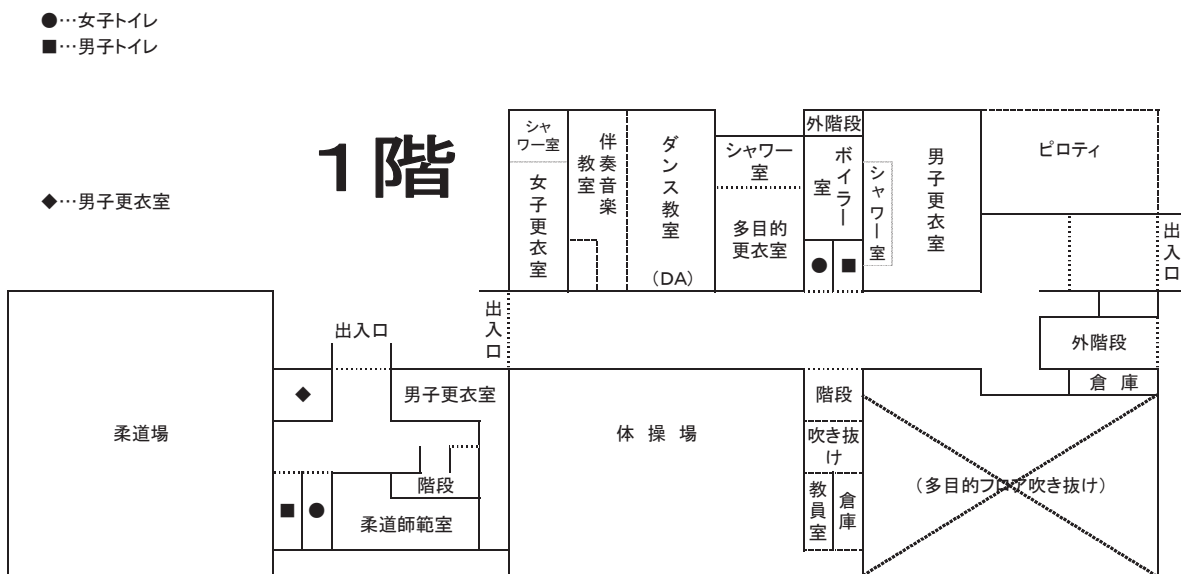
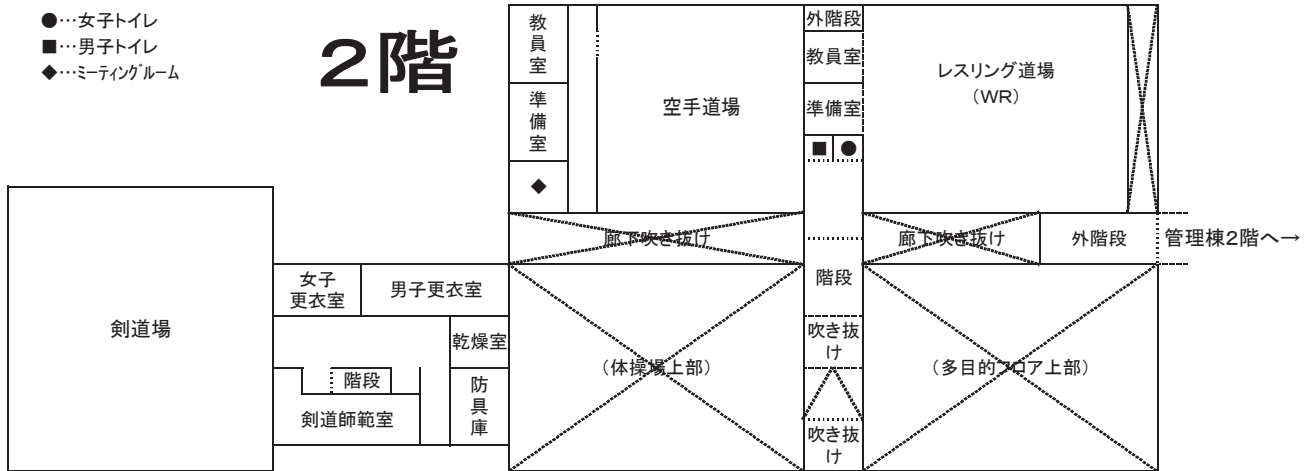


メイプルセンチュリーセンター多摩 (MCCT)

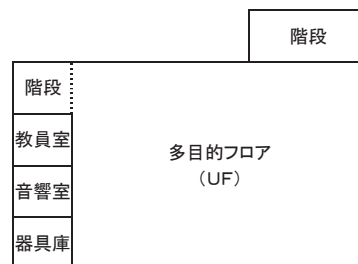


3階

武道棟・体育館棟

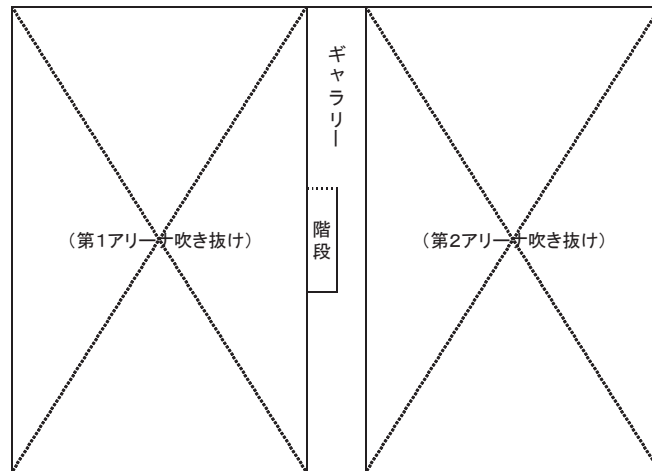


地下1階



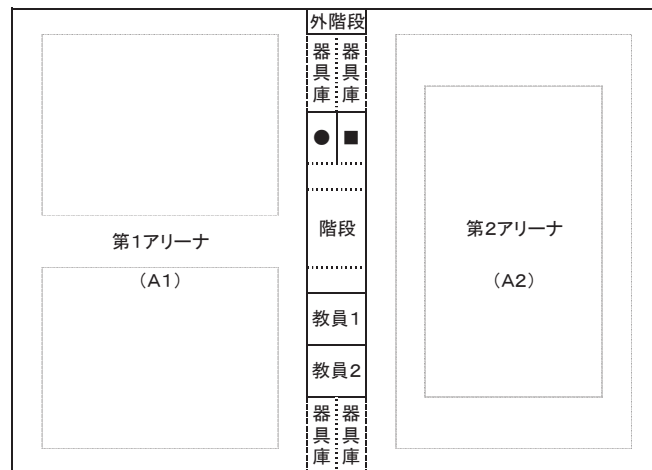
武道棟・体育館棟

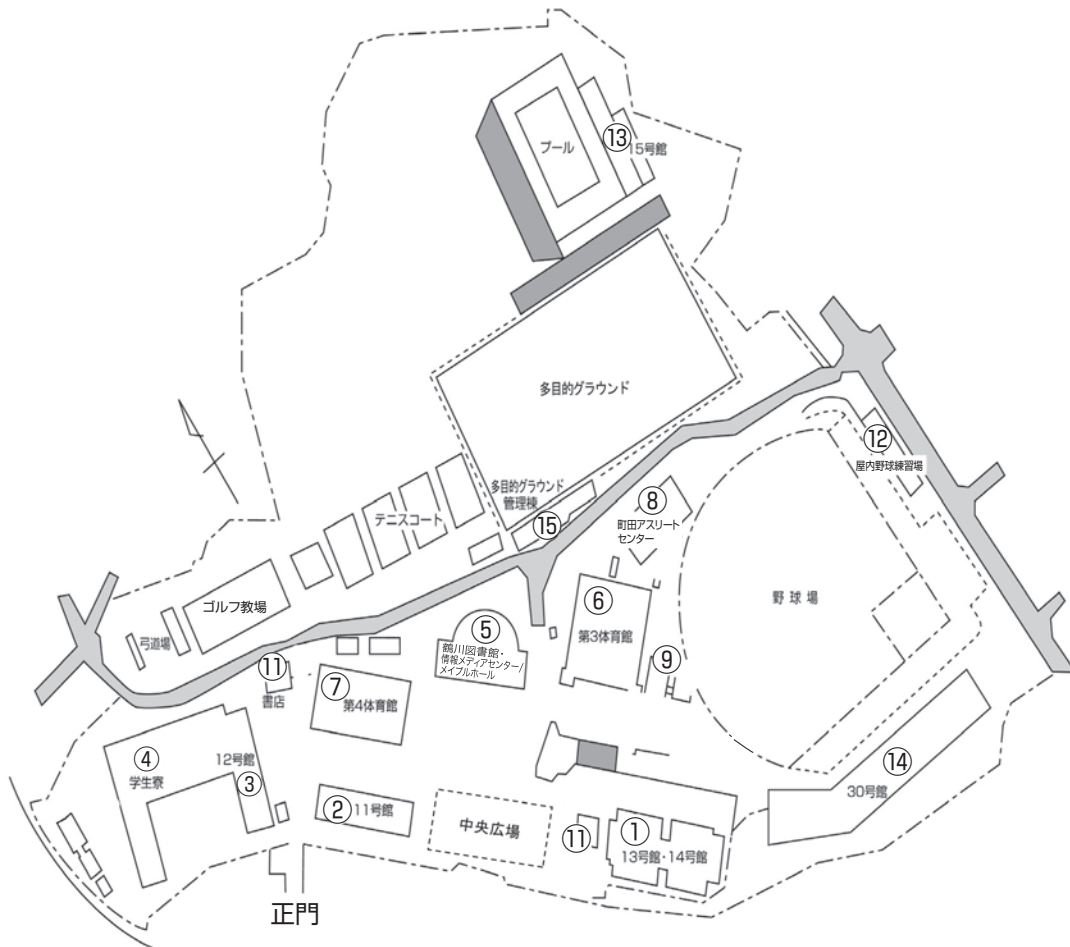
4階



3階

- …女子トイレ
- …男子トイレ





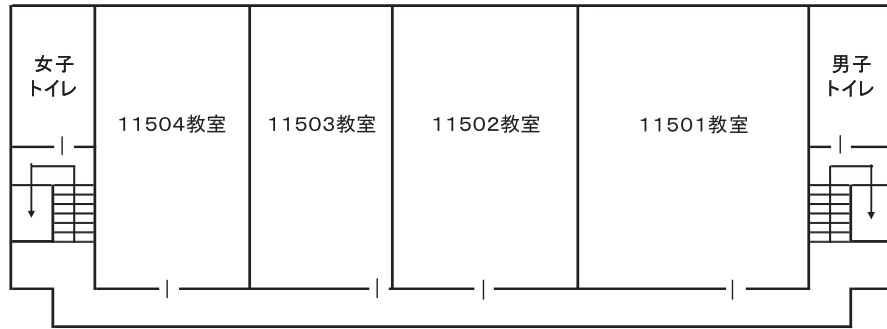
- ①13・14号館
 - 1F 学生・厚生課 (13号館)
 - 1F 教職支援室 (13号館)
 - 1F こどもスポーツ教育学科事務室 (14号館)
- ②11号館
 - 1F 学生相談室
 - 健康管理室
 - 2F・3F 図書館・情報メディアセンター (端末室)
- ③12号館
 - 2～6F 教員研究室
 - 1F ラウンジ・学生食堂
 - ベーカリーカフェ
 - キャリア形成支援センター
- ④学生寮
- ⑤鶴川図書館・情報メディアセンター／メイプルホール
 - 1～4F 鶴川図書館・情報メディアセンター
 - 2F 国際交流センター
 - 1F 学生食堂
 - 町田校舎事務課
 - 教務課

- ⑥第3体育館
 - 4F 体育学部準備室
 - 3F 体操場・教員控室
 - 1F 柔道場、剣道場
- ⑦第4体育館
- ⑧町田アスリートセンター
- ⑨クラブ部室A棟
 - 2F クラブ部室
 - 1F 理容店
- ⑩学園祭実行委員会室
- ⑪書店
- ⑫屋内野球練習場
- ⑬15号館 (プール管理室)
- ⑭30号館
- ⑮多目的グラウンド管理棟

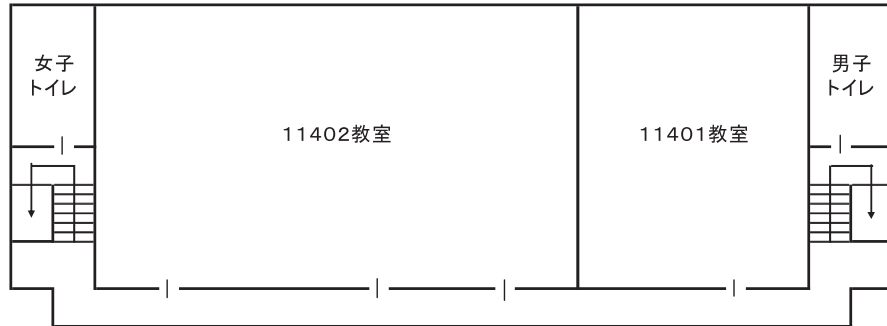
IV 町田キャンパス教室案内

町田校舎 11号館

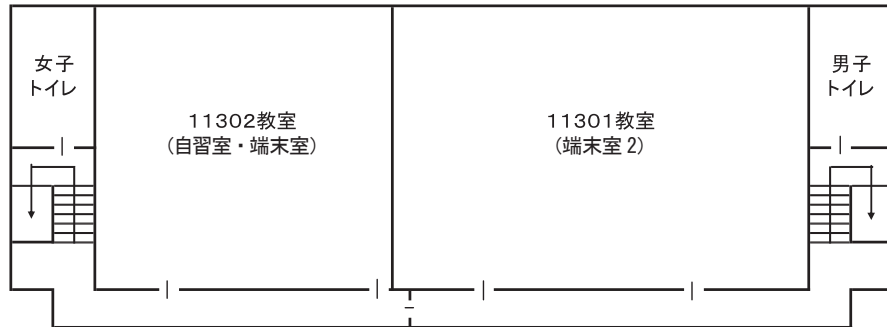
5階



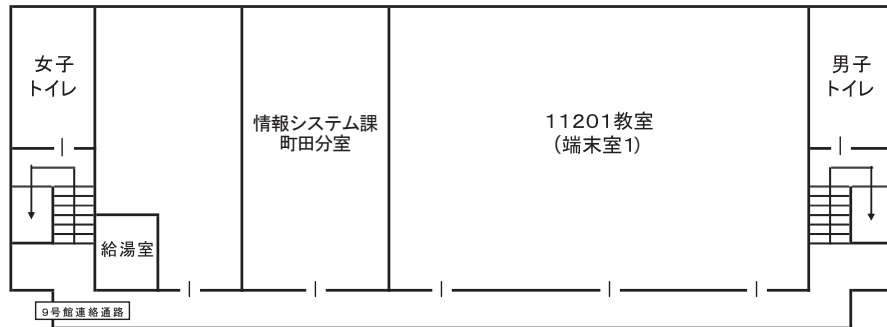
4階



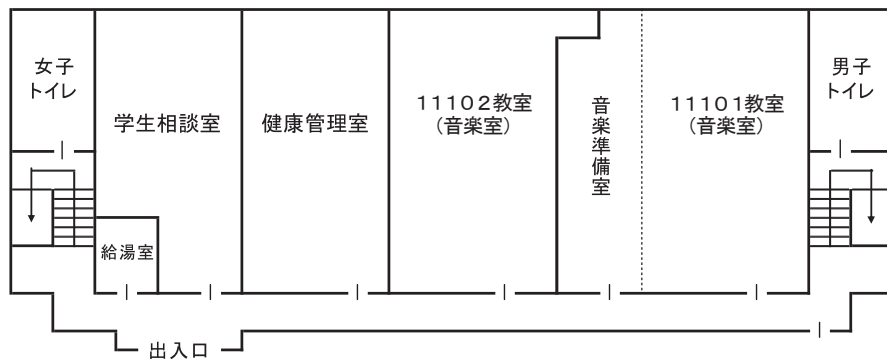
3階



2階



1階



町田校舎 12号館

6階

階段	613 イラク研 研究員	614 イラク研 研究員	615 研究室	616 イラク研 資料室	617 イラク研 研究員	618 イラク研 事務室	階段	給湯	619 イラク研 資料室	620 イラク研 資料室	621 教務課	622 イラク研 資料室	623 イラク研 資料室	624 イラク研 資料室	EV
	612 イラク研 資料室	611 イラク研 資料室	610 イラク研 資料室	609 イラク研 資料室	608 研究室	607 研究室	男子トイレ	606 研究室 保存科学 実習作業室	605 研究室 保存科学 実習作業室	604 研究室	603 イラク研 資料室	602 イラク研 資料室	601 イラク研 資料室	出入口	

5階

階段	513	514	515	516	517	518	階段	給湯	519	520	521	522	523	EV
	512	511	510	509	508	507	男子トイレ	506	505	504	503	502	501	出入口

4階

階段	413 グローバル アジア 研究科 教員室	414 グローバル アジア 研究科	415 障がい 学生 支援室	416 アジア 学部	417 研究室	418 研究室	階段	給湯	419 コピー室 印刷 FAX	420 研究室	421 研究室	422 研究室	423 演習室 会議室	EV
	412 グローバル アジア 教材 準備室	411 グローバル アジア 研究科	410 グローバル アジア 研究科	409 こどもスポーツ 演習室	408 研究室	407 こども スポーツ 演習室	男子トイレ 女子トイレ	406 研究室	405 研究室	404 研究室	403 研究室	402 研究室	401 研究室	出入口

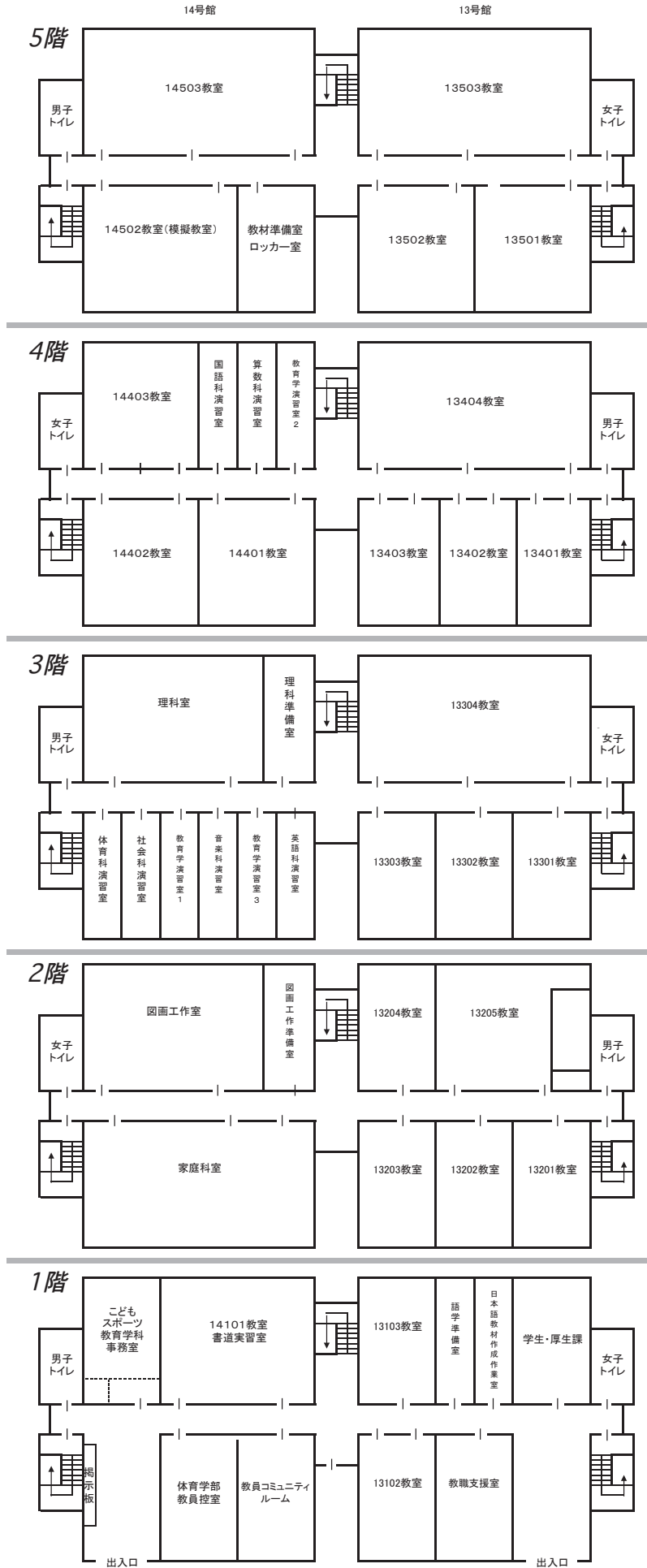
3階

階段	313 体育学部 倉庫	314 教務課	315 アジア 資料室	316 学芸員 演習室	317 日本語 演習室	318 社会科 演習室	階段	給湯	319 教務 倉庫	320 教務 倉庫	321 グローバルアジア研究科 自習室	322 受付	EV
	312 アジア 学部	311 英語科 演習室	310 アジア 学部	309 グローバル アジア 研究科	308 アジア学 研究所	307 アジア学 研究所	男子トイレ	306 警備員 控室	305 警備員 控室	304 教務課	303 こども スポーツ 演習室	302 教務課	301 初等資料室

2階

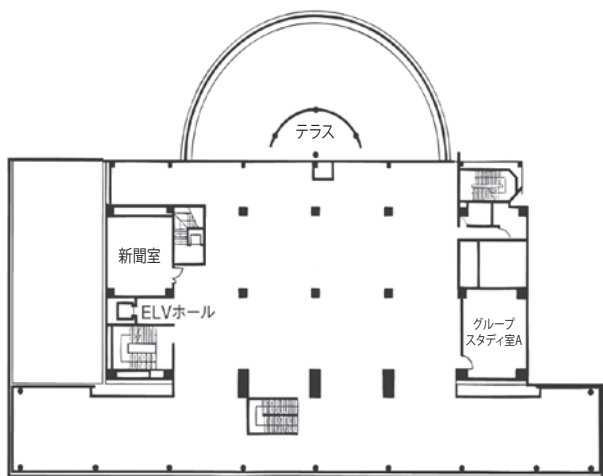
階段	練習室15	練習室14	練習室11	練習室10	レッスン室 2	教務	階段	給湯	204 グローバルアジア研究科 自習室 (パソコン室)	205 グローバルアジア研究科長室	206 グローバルアジア研究科 資料室	EV
	練習室16	練習室13	練習室12	練習室9								出入口
	練習室8	練習室5	練習室4	練習室1	レッスン室 1	音楽準備室	女子トイレ	203 グローバルアジア研究科 自習室	202 大学院課事務室	201 イラク研 事務室		
	練習室7	練習室6	練習室3	練習室2								

町田校舎 13・14号館

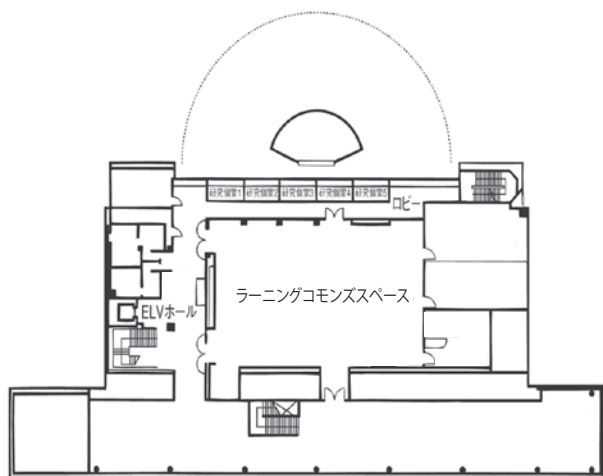


鶴川図書館／メイプルホール

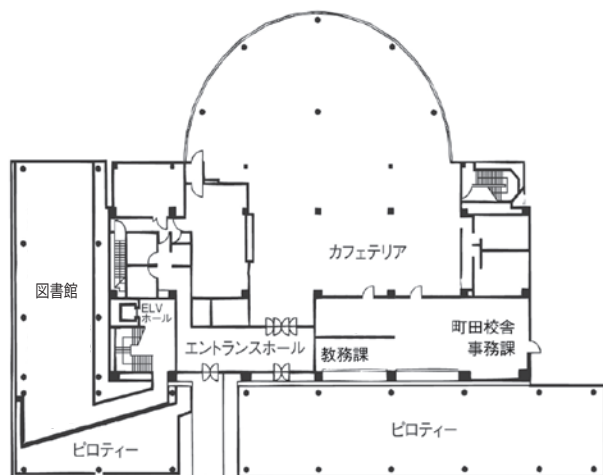
3F
図書館



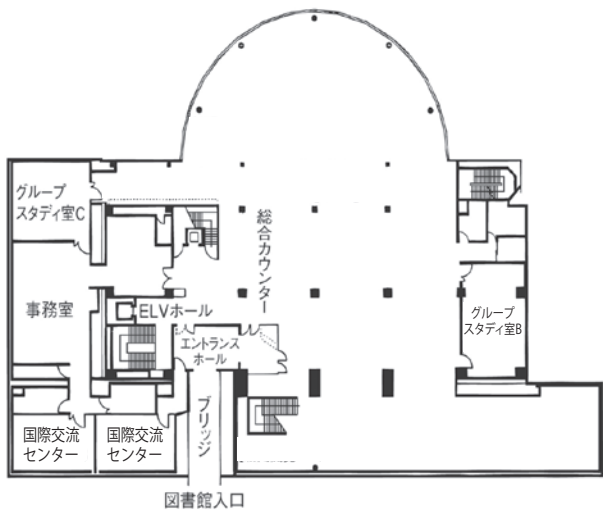
4F
図書館



1F
図書館・カフェテリア



2F
図書館



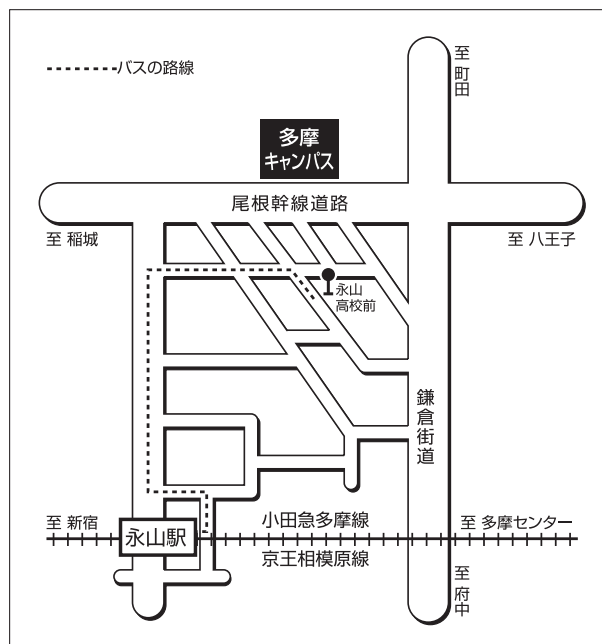
V 各キャンパス アクセスマップ

国士舘大学 多摩キャンパス

〒206-8515
東京都多摩市永山7-3-1
TEL 042-339-7202
FAX 042-339-7238

◇ 交通

小田急多摩線・京王相模原線永山駅下車
無料スクールバス
または同駅バスターミナル
3番乗り場発のバスで
「永山高校前」下車、徒歩7分

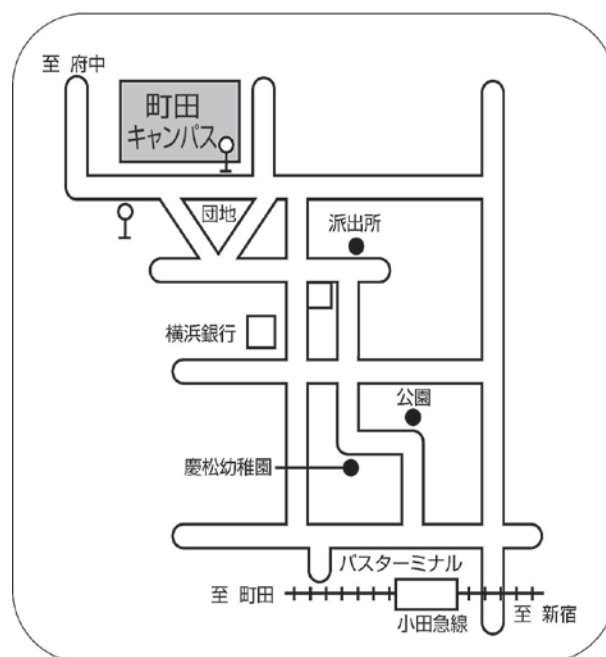


町田キャンパス

〒195-8550
東京都町田市広袴1-1-1
こどもスポーツ教育学科事務室
TEL 042-736-2330
FAX 042-736-2423

◇ 交通

小田急線鶴川駅下車 無料スクールバス
または同駅バスターミナル
2番乗り場発「六丁目」、「センター」、「北廻り」の
いずれかを經由する「鶴川団地行」バスで8~10分、
「国士舘大学前」下車



世田谷キャンパス (法人本部)

〒154-8515
東京都世田谷区世田谷4-28-1
TEL 03-5481-3111(代表)

◇ 交通

- 小田急線梅ヶ丘駅下車、徒歩9分
- 東急世田谷線松陰神社前駅、または世田谷駅下車、徒歩6分